

札幌市保健所御中

札幌市の医療体制等の整備に関する調査業務 報告書

平成 28 年 3 月

株式会社北海道二十一世紀総合研究所

目次

1. はじめに	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査結果の概要	1
2. アンケート調査による実態調査	3
(1) 歯科診療所向けアンケート	3
①調査概要	3
②調査結果	3
③調査結果のまとめ	15
(2) 薬局向けアンケート	16
①調査概要	16
②調査結果	16
③調査結果のまとめ	27
(3) 市民向けアンケート	28
①調査概要	28
②調査結果	29
③調査結果のまとめ	51
3. 既存データの活用による推計分析	53
(1) 既存データの活用による各種推計値の分析	53
①人口推計	53
②患者数の推計	60
③死亡者数の推計	67
④「在宅医療」と「入院・外来通院」の医療費比較	80
⑤札幌市における未就業看護職数（看護師、准看護師、保健師、助産師）	81
(2) 札幌市における将来的な在宅医療の需要予測	82
①在宅医療の患者数推計	82
②在宅医療に必要な医療機関・医師数の推計	85
③在宅医療に必要な歯科診療所数の推計	87
④在宅医療に必要な薬局数の推計	89
⑤在宅医療に必要な訪問看護ステーション数の推計	90

1. はじめに

(1) 調査の目的

- ・今後の医療需要について推計した例は全国的にも少なく、札幌市においても数量的な把握はこれまで行われてこなかった。
- ・札幌市の医療体制等の整備水準を検討するにあたって、将来人口、高齢者人口、患者数（外来・入院）、死亡者数などの推計を行うとともに、札幌市における将来的な在宅医療の患者数、必要な医療機関数・訪問看護ステーション数などの推計を行った。
- ・あわせて、現在の状況を把握するために、歯科診療所・薬局・市民を対象にするアンケート調査を実施した。

(2) 調査結果の概要

調査種別	概要
歯 科 診 療 所 向 け ア ン ケ ー ト	・現在、訪問歯科診療を実施している歯科診療所は 145 件 (29.4%)。 ・今後、訪問歯科診療を開始する予定がある診療所は 33 件 (9.8%)。 ・現在実施していない理由は、「実施する余裕がない」「スタッフが少なく対応が困難」。自らの努力では容易に整えることができない条件は、関連機関との連携に関することが多い。
薬局向け アンケート	・現在、在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を実施している薬局は、181 件 (42.5%)。 ・今後、在宅患者への訪問実施意向は「実施したい」が 114 件 (48.1%)。 ・現在実施していない理由は、「スタッフが少なく対応が困難」「実施する余裕がない」が多い。
市民向け アンケート	・「在宅医療」という言葉を「ある程度知っている」と回答したのは 1,217 人 (55.6%)。 ・病気を治療しながら最期を迎えると仮定した場合に、最後を迎える場所については「自宅」が 705 件 (32.5%) で最も多くなっている。 ・回答者自身が通院困難になった場合に「在宅医療」を選択する回答者は 446 人 (20.5%)。年代が高くなると「在宅医療」の希望は減少し、「入院」の割合が増える。 ・回答者の身近な人（同居家族）が通院困難になった場合に「在宅医療」を選択する回答者は 311 人 (15.8%)。回答者自身の場合と同様に、年代が高くなると「入院」を選択する割合が高くなる。 ・現在、訪問歯科治療を受けているのは 66 人 (3.1%)。年代別では、「70 歳以上」で 8.2%が訪問歯科治療を受けている。

調査種別	概要
既存データの活用による各種推計値の分析	・人口推計：20年後の2035年（平成47年）には、約182万人（男性が約83万人、女性が約99万人）となり、約12万人減少する見込み。 ・高齢者人口：20年後の2035年（平成47年）には、高齢者総数が約64万人（男性が約26万人、女性が約38万人）で、高齢化率35.1%となり、高齢者数が約16万人増加し、高齢化率が10.6%増加する見込み。 ・1日あたりの入院患者数：2035年（平成47年）には約3万3千人となり、2012年（平成24年）と比べ、全体で約4割程度増加。 ・1日あたりの外来患者数：2035年（平成47年）には約10万人となり、2012年（平成24年）と比べ、全体で約1割程度増加。 ・死亡者数：2035年（平成47年）には約3万3千人（男性が約1万5千人、女性が約1万8千人）となり、約1万5千人程度増加。 ・主要疾患別の死亡者数：2035年（平成47年）には、がんによる死亡者数は3,200人増加、心疾患による死亡者数は1,400人増加、脳血管疾患による死亡者数は300人減少、肺炎による死亡者数は1,900人増加。がんと心疾患は1.6倍、肺炎は2.2倍になる。 ・死亡場所別の死亡者数：病院が圧倒的に多く、次いで自宅。今後同様の傾向。 ・在宅医療と入院・外来通院の医療費比較：在宅医療の方が約2割安い。 ・札幌市における未就業看護職数：看護師9,730人、准看護師3,441人、保健師268人、助産師317人。
将来的な在宅医療の需要予測	・在宅医療の患者数：「訪問診療分」の患者数は、2025年で11,054人、2035年で12,083人。 ・必要な医療機関・医師数：病院数は2025年で53.7機関・2035年で58.7機関、診療所数は2025年で291.9機関・2035年で319.1機関。医師数は、2025年で453.0人、2035年で495.2人。 ・必要な歯科診療所数：2025年で290.1機関、2035年で317.1機関。 ・必要な訪問看護ステーション数：2025年で139.8か所、2035年で152.8か所。

2. アンケート調査による実態調査

(1) 歯科診療所向けアンケート

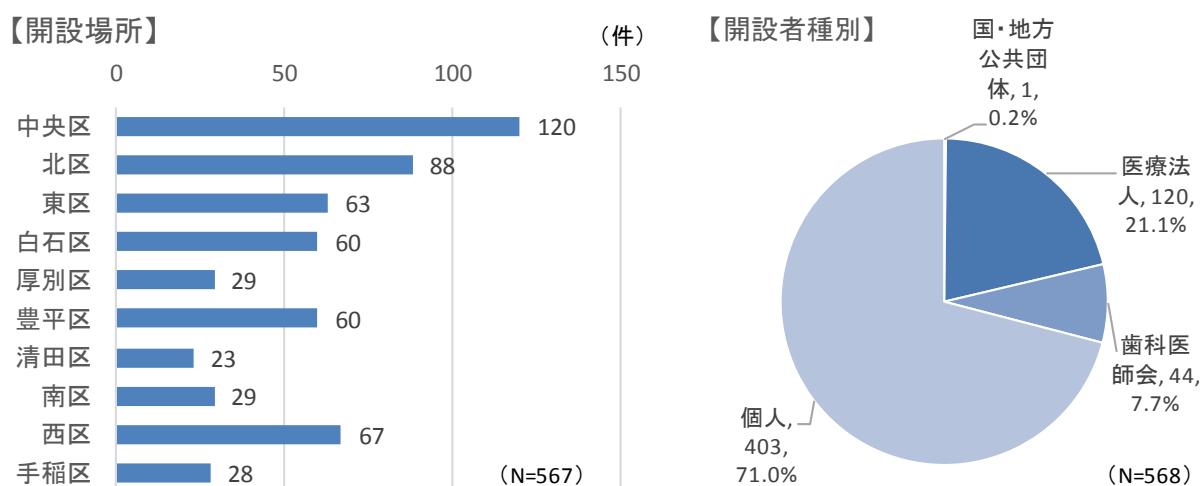
①調査概要

- ・札幌市における在宅医療の充実・強化に向けた基礎資料とするため、一般社団法人札幌歯科医師会の協力を得て、札幌歯科医師会の正会員歯科診療所を対象にアンケート調査を実施した。
- ・アンケート調査の対象とした診療所は 1,061 件で、このうち 568 件から回答を得た（有効回答率 53.5%）。（調査は、郵送送付・回収により実施した）

②調査結果

問 1 基本情報（開設場所・開設者種別）

- ・回答した歯科診療所が開設されている場所は、「中央区」が 120 件（21.2%）で最も多く、次いで「北区」「西区」の順に多くなっている。これは、札幌市内に開設されている歯科診療所の区別割合に準じた結果となっている。
- ・開設者種別では、「個人」が 403 件（71.0%）で最も多く、次いで「医療法人（社会医療法人、特定医療法人、医療法人社団、医療法人財団含む）」が 120 件（21.1%）となっている。



（調査結果の表し方；以下同様）

※回答率の母数（N）は、その質問項目に該当する回答者の数であり、本調査では無回答・不明を除いた数値となっている。

※百分率(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しているため、回答率の合計が 100.0%にならない場合がある。

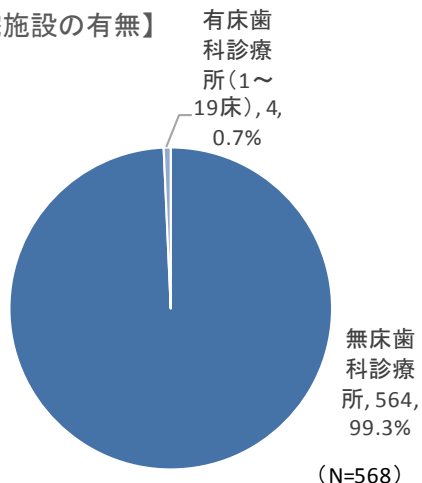
※複数の回答を求める設問では、回答率の合計が 100.0%を超える場合がある。

問2 入院施設の有無

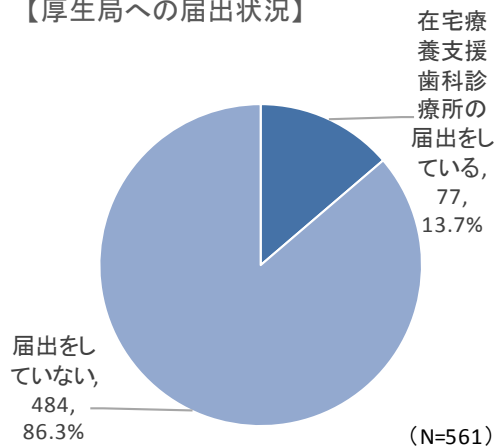
問3 厚生局への届出状況

- ・入院施設の有無については、「無床歯科診療所」が564件（99.3%）となっている。
- ・厚生局への在宅療養支援歯科診療所の届出状況は、「届出をしている」診療所が77件（13.7%）となっている。

【入院施設の有無】



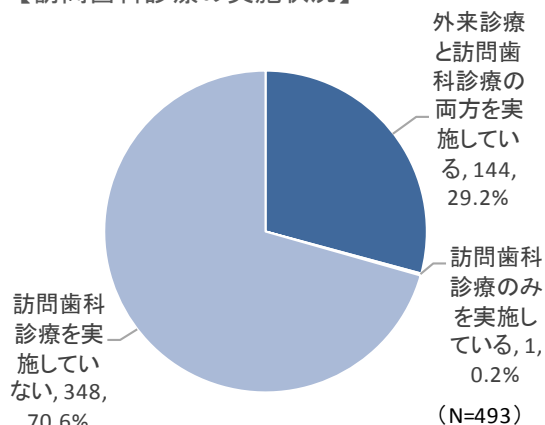
【厚生局への届出状況】



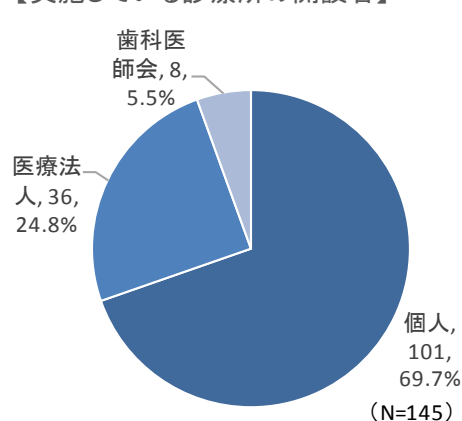
問4 訪問歯科診療の実施状況

- ・訪問歯科診療の実施状況は、「外来診療と訪問歯科診療の両方を実施している」が144件（29.2%）で、「訪問歯科診療のみを実施している」の1件を加えると、145件（29.4%）が訪問歯科診療を実施している。
- ・実施している診療所の開設者は、個人が101件（69.7%）で最も多く、次いで「医療法人」「歯科医師会」の順になっている。
- ・実施している診療所を区別に見ると、「中央区」が26件で最も多く、次いで「北区」と「白石区」がそれぞれ19件、「西区」が17件の順となっている。

【訪問歯科診療の実施状況】



【実施している診療所の開設者】



※問5～12は、訪問歯科診療を実施していると回答した施設のみが回答

問5 訪問歯科診療を実施している診療所に所属する歯科医師数

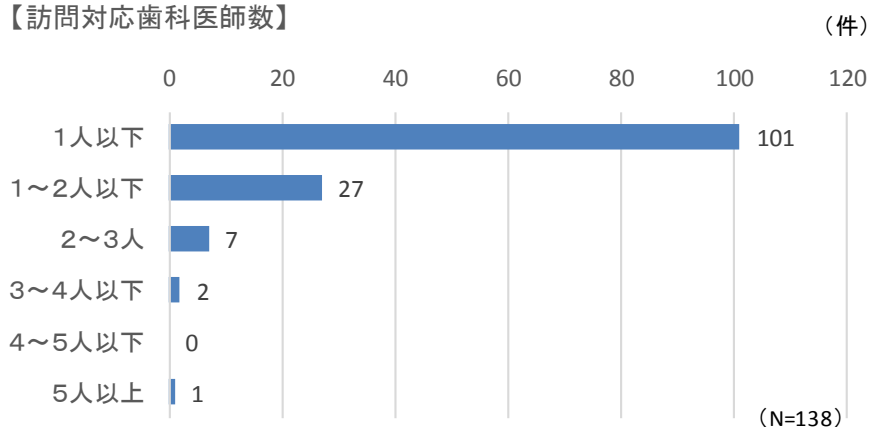
- ・診療所に所属する歯科医師数は、「外来・訪問歯科診療を兼務する常勤歯科医師」が162人で最も多くなっている。これは、回答数全体の57.9%、訪問歯科診療を担当している医師数の中で77.5%となっている。
- ・次いで、「外来・訪問歯科診療を兼務する非常勤歯科医師」が15名、「訪問歯科診療専任の非常勤歯科医師」が12名、「外来・訪問歯科診療を兼務するパートの歯科医師」が11名となっている。

合計数	常勤（回答施設に専任で勤めているフルタイムの歯科医師）	パート（短時間だが、回答施設に専任で勤めている歯科医師）	非常勤（回答施設以外に併任で勤めている歯科医師）
外来歯科診療専任	42人	7人	22人
訪問歯科診療専任	5人	4人	12人
外来・訪問歯科診療兼務	162人	11人	15人

【訪問歯科診療に対応している医師数】

- ・1診療所あたりの歯科医師数は、「1人以下」が101人（73.2%）で最も多く、「1～2人」の27人（19.6%）と合わせると9割以上が2人以下の医師で対応している状況にある。（常勤医師を1人、パートの医師を0.5人、非常勤の医師を0.2人と仮定してカウントしている）
- ・なお、回答があった診療所における平均歯科医師数は1.3人。最も多くの歯科医師がいる診療所で6人となっている。

【訪問対応歯科医師数】



問6 訪問歯科診療を実施している診療所に所属する歯科衛生士数

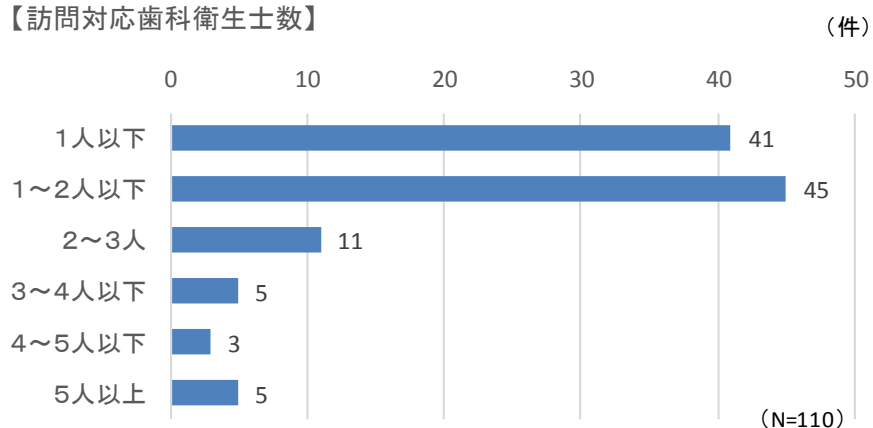
- ・診療所に所属する歯科衛生士数は、「外来・訪問歯科診療を兼務する常勤の歯科衛生士」が172人で最も多くなっている。これは、回答数全体の41.5%、訪問歯科診療を担当している医師衛生士の中で63.7%となっている。
- ・次いで、「外来・訪問歯科診療を兼務するパートの歯科衛生士」が63名、「訪問歯科診療専任のパートの歯科衛生士」が18名、「外来・訪問歯科診療を兼務する非常勤の歯科衛生士」が12名となっている。

合計数	常勤（回答施設に専任で勤めているフルタイムの歯科衛生士）	パート（短時間だが、回答施設に専任で勤めている歯科衛生士）	非常勤（回答施設以外に併任で勤めている歯科衛生士）
外来歯科診療専任	98人	40人	6人
訪問歯科診療専任	3人	18人	2人
外来・訪問歯科診療兼務	172人	63人	12人

【訪問歯科診療に対応している医師衛生士数】

- ・1診療所あたりの歯科衛生士数は、「1～2人」が45人（32.6%）で最も多く、「1人以下」の41人（29.7%）と合わせると、62.3%の診療所が2人以下の歯科衛生士で対応している状況にある。（常勤歯科衛生士を1人、パートの歯科衛生士0.5人、非常勤の歯科衛生士を0.2人と仮定してカウントしている）
- ・なお、回答があった診療所における平均歯科衛生士数は2.0人。最も多くの歯科衛生士がいる診療所で8人となっている。

【訪問対応歯科衛生士数】



問7 通常、訪問歯科診療を行っている曜日・時間帯（複数回答）

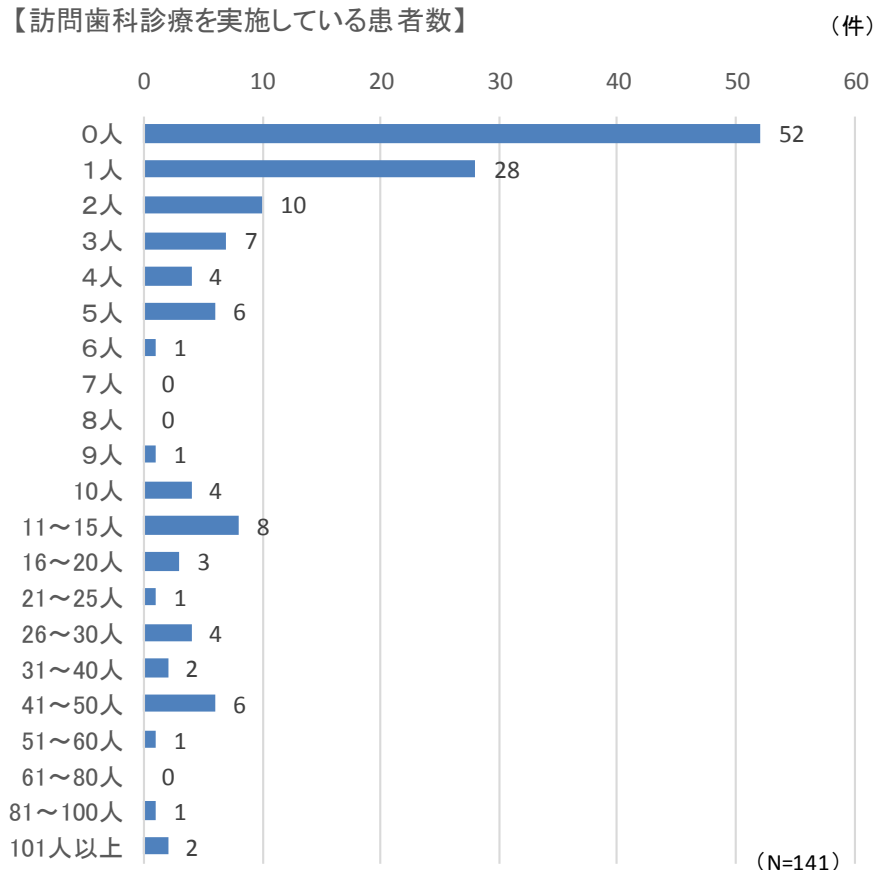
- ・訪問歯科診療を実施している曜日や時間帯は、「決めていない」診療所が 86 件 (63.2%) となっている。
- ・時間帯を決めている診療所では、平日の午後（12～18 時）に実施している所が多く、夜間（18～22 時）や日曜日を訪問診療日としている診療所は少数であった。

時間帯（目安）	月	火	水	木	金	土	日
早朝（6～8 時）	0	0	0	0	0	0	0
午前（8～12 時）	11	16	17	12	11	8	2
午後（12～18 時）	17	25	37	29	25	14	2
夜間（18～22 時）	2	2	2	1	1	1	0
深夜（22～6 時）	0	0	0	0	0	0	0
曜日・時間帯を決めないで 訪問歯科診療を実施している	86						

問8 12 月 1 日（火）現在、訪問歯科診療を実施している患者数

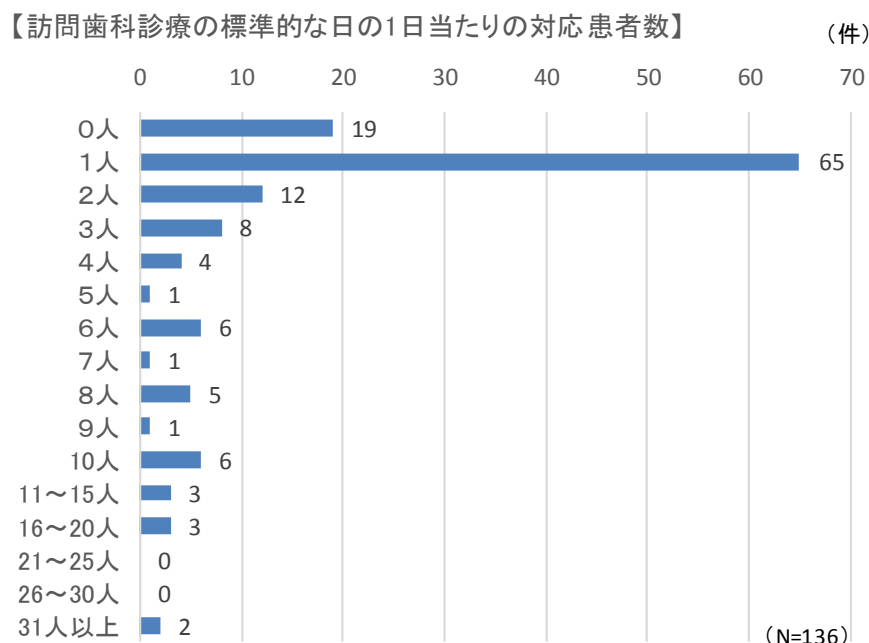
- ・平成 27 年 12 月 1 日（火）現在で、訪問歯科診療を実施している患者数は「0 人」という診療所が 52 件で最も多かった。実施している患者がいる診療所の中では、「1 人」が 28 件で最も多くなっており、「1 人」～「5 人」の合計 55 件は、患者がいる診療所（89 件）の 6 割を超えている。
- ・患者数はバラツキが大きく、100 人以上の患者を持つ診療所が 2 件。最多は 134 人。

【訪問歯科診療を実施している患者数】

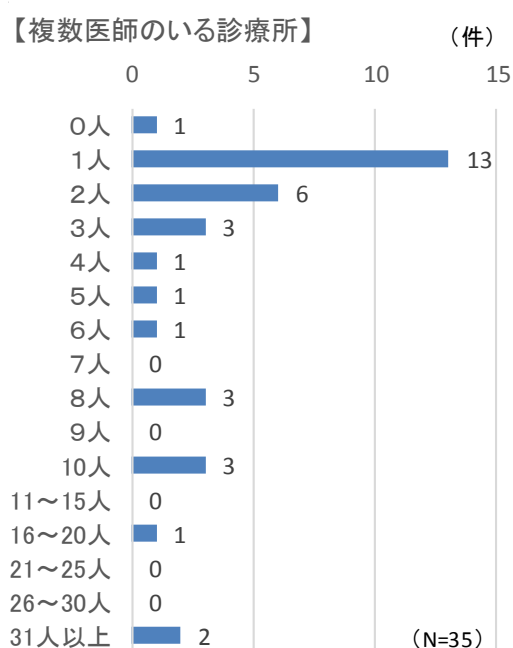
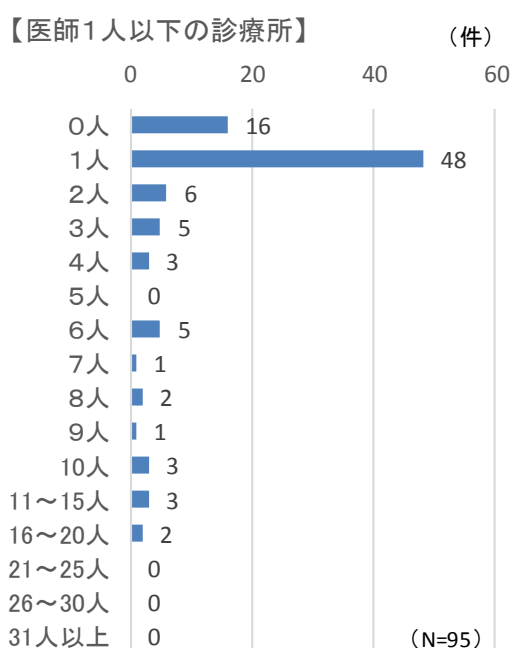


問9 訪問歯科診療の標準的な日の1日当たりの対応患者数

- ・訪問歯科診療の1日当たりの対応患者数は、「1人」が65件（47.8%）で最も多くなっている。「1人」～「6人」の合計では、96人（70.6%）となる。
- ・10人以上と回答した診療所は14件（10.3%）で、最大で45人という回答があった。



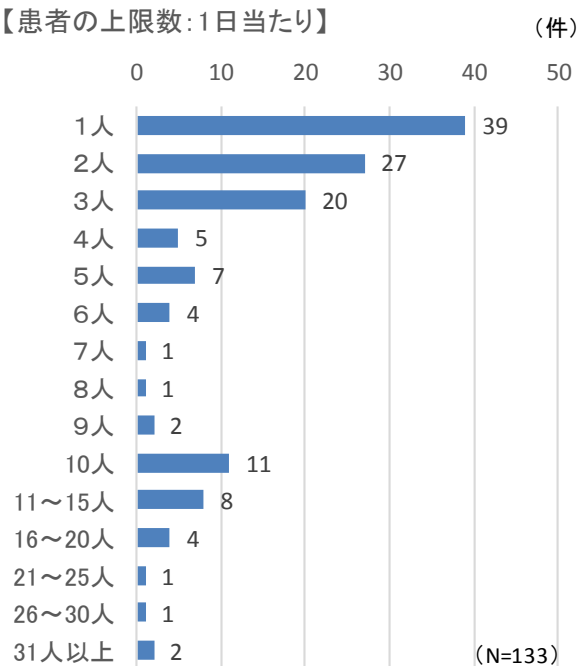
- ・訪問診療を担当している医師数の違いで見ると、医師1人以下の診療所・複数医師のいる診療所（「1～2人」以上）いずれも「1人」が最も多くなっている。
- ・医師1人以下の診療所では「0人」の回答数が16件と多くなっているのに対して、複数医師のいる診療所では「0人」は1件に止まっている。
- ・「31人以上」と回答したのは、すべて複数医師のいる診療所となっている。



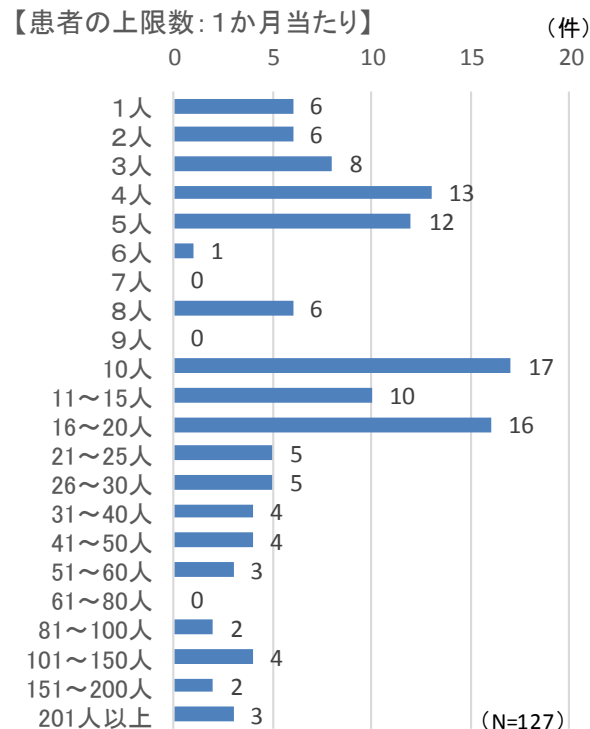
問 10 訪問歯科診療で対応可能な患者数の上限

- ・訪問診療において対応可能な患者の上限数は、1日当たりでは「1人」が39件(29.3%)で最も多く、「1人」～「3人」の合計で86人(64.7%)となっている。
- ・1か月当たりの上限数は、「10人」が17件(13.4%)で最も多く、次いで「16～20人」が16件(12.6%)で多くなっている。「1人」～「5人」が合計45件(35.4%)、「10人」～「16～20人」が合計43件(33.9%)で、この2つに比較的集中している。
- ・最も数が多かった回答は、1日当たり50人・1か月当たり400人(同じ診療所の回答)。

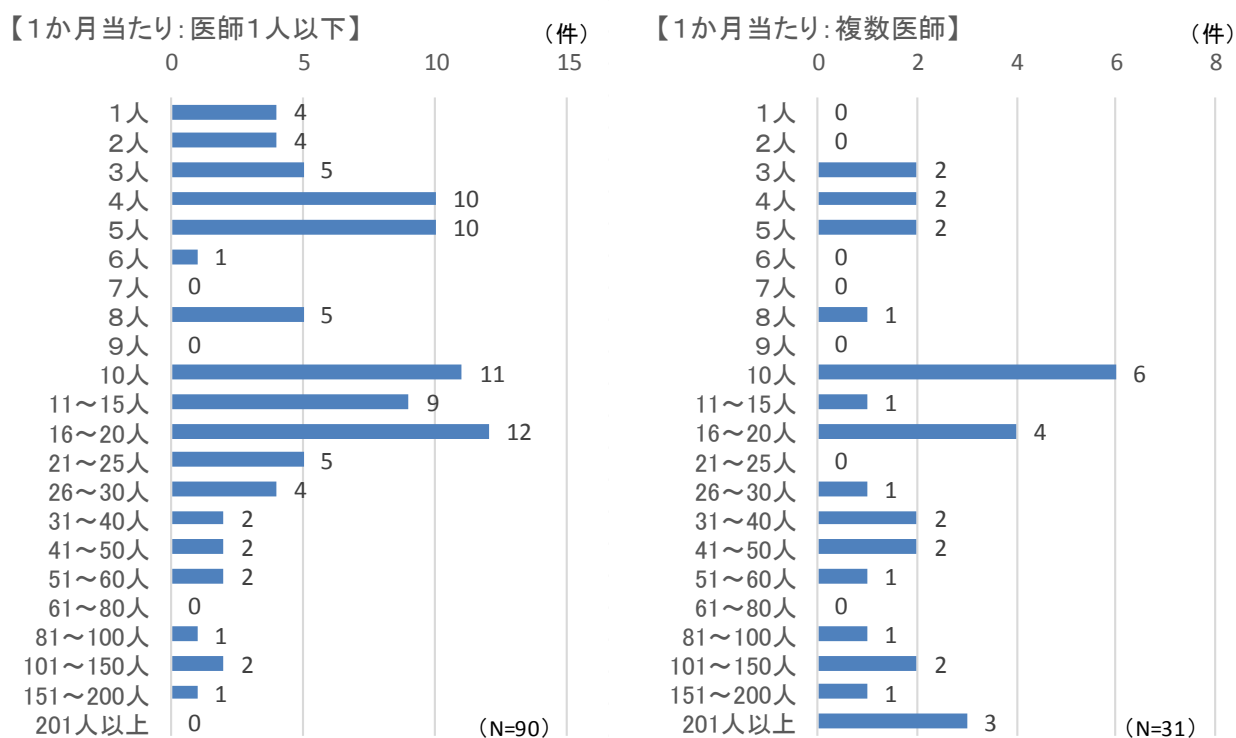
【患者の上限数：1日当たり】



【患者の上限数：1か月当たり】

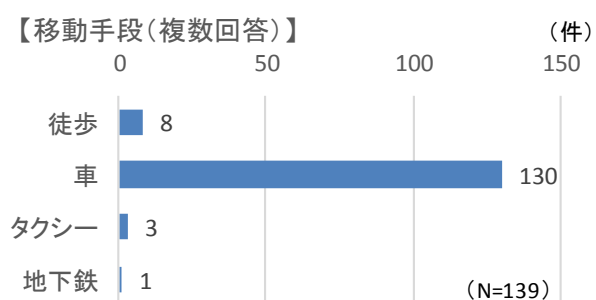
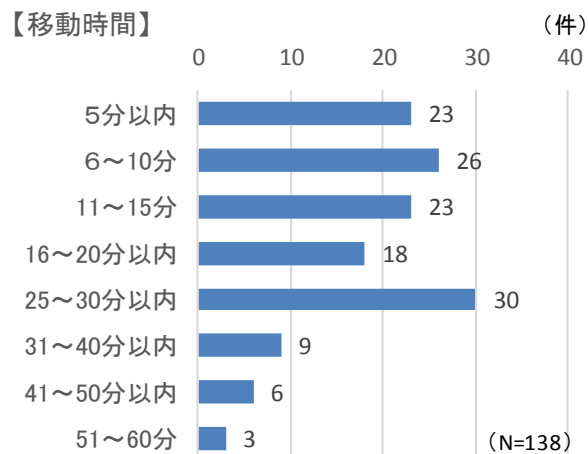
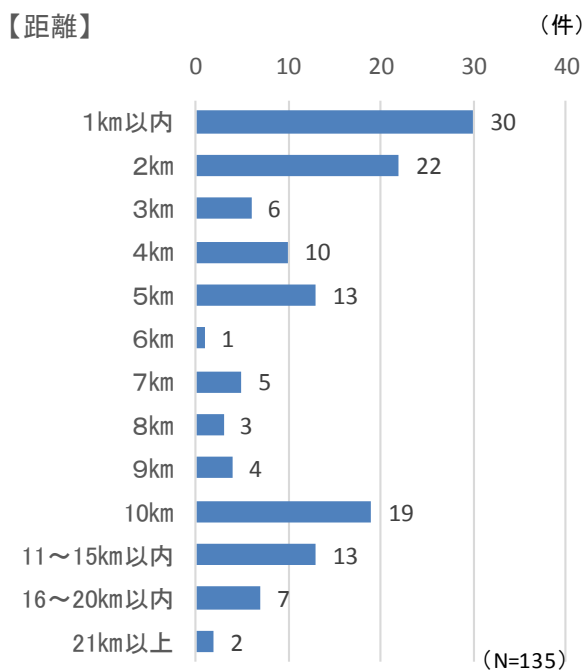


- ・ 1 か月当たりの上限数について訪問診療を担当している医師数の違いで見ると、複数医師で対応している診療所では 10 人以上を上限とする割合が高くなっている（全体の 77.4%）。



問 11 訪問歯科診療の最も遠方に住む患者宅までの距離、移動時間、移動手段

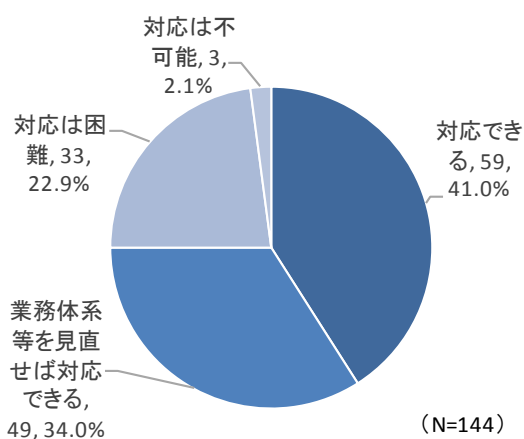
- ・ 最も遠方の患者宅までの距離は、「1 km以内」が 30 件（22.2%）で最も多く、5 km以内までで 81 件（60.0%）となっている。一方、10 km以上の遠方まで診療しているという回答は 41 件（30.4%）となっている。最も遠いところは、35 kmという回答がある。
- ・ 患者宅までの移動時間は、「25～30 分」が 30 件（21.7%）で最も多く、30 分以内で 120 件（87.0%）となっている。最も時間がかかるところは、60 分という回答がある。
- ・ 移動手段は、「車」が 130 件（93.5%）となっている。



問 12 現在よりも多くの訪問歯科診療の患者受け入れに対応できるか

・12月現在の訪問歯科診療患者数よりも多くの患者受入可能と回答した診療所は、「対応できる」が59件(41.0%)、「業務体系等を見直せば対応できる」が49件(34.0%)で、あわせて75.0%の診療所が受入を増やすことができると回答している。

【現在よりも多くの患者受け入れ】



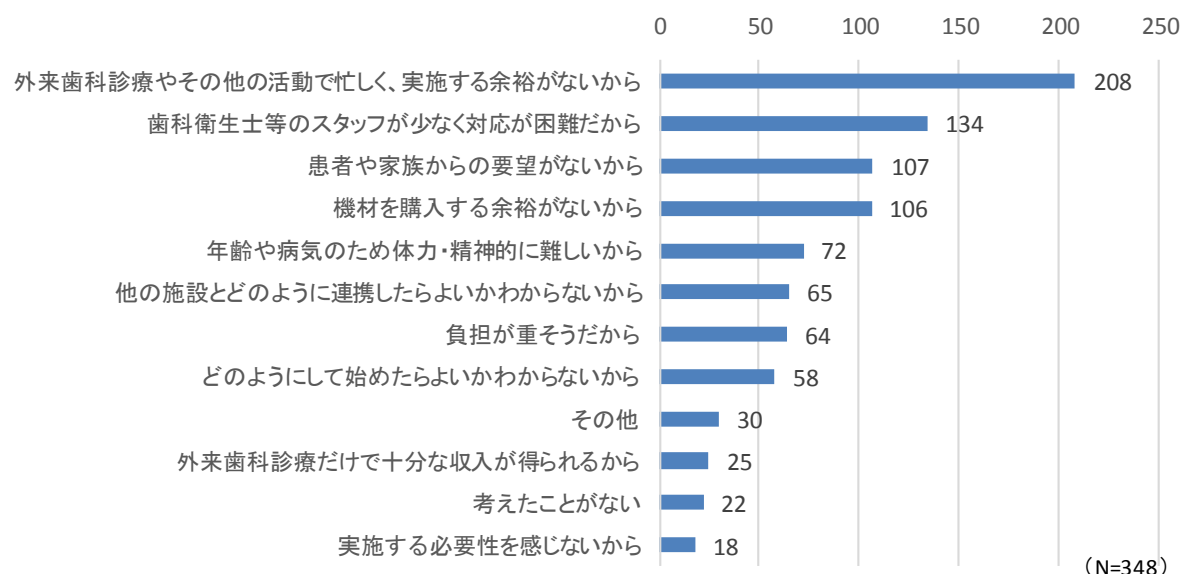
※問 13～15 は、訪問歯科診療を実施していないと回答した施設が回答

問 13 訪問歯科診療を実施していない理由（複数回答）

- ・訪問歯科診療を実施していない理由は、「外来歯科診療やその他の活動で忙しく、実施する余裕がないから」が 208 件（59.8%）で最も多く、次いで「歯科衛生士等のスタッフが少なく対応が困難だから」が 134 件（38.5%）、「患者や家族からの要望がないから」が 107 件（30.7%）、「機材を購入する余裕がないから」が 106 件（30.5%）の順となっている。
- ・開設者の種別（「個人」と「国・地方公共団体」「医療法人」「歯科医師会」）で比較しても、いずれも「外来歯科診療やその他の活動で忙しく、実施する余裕がないから」と「歯科衛生士等のスタッフが少なく対応が困難だから」が上位に来ている。「機材を購入する余裕がないから」は、個人の診療所の方が高い回答割合になっている。

【訪問歯科診療を実施していない理由（複数回答）】

（件）



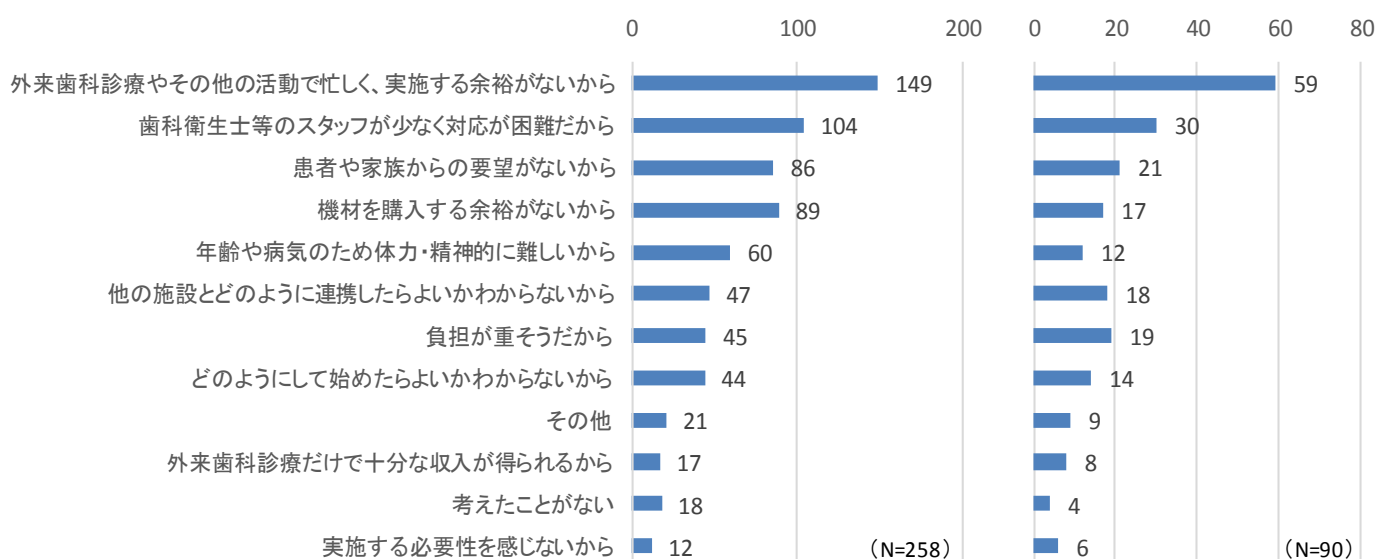
【訪問歯科診療を実施していない理由】

【個人の診療所】

（件）

【法人・医師会等】

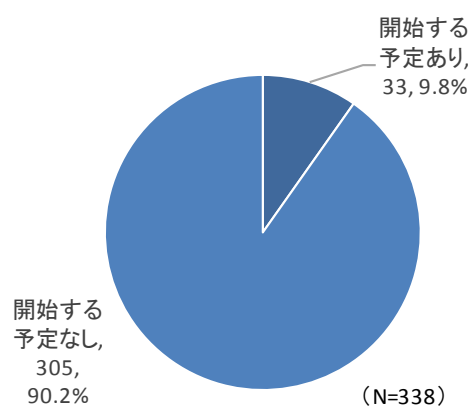
（件）



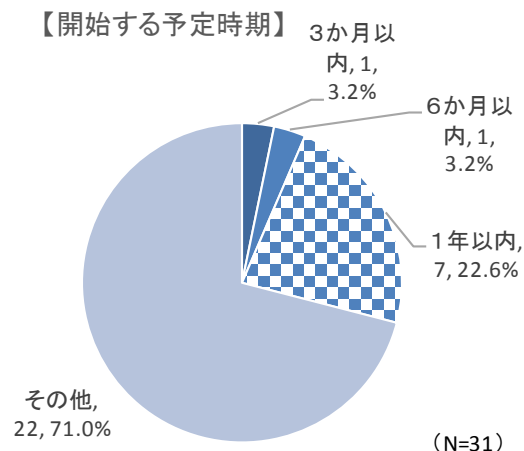
問 14 今後、訪問歯科診療を開始する予定

- ・今後、訪問歯科診療を「開始する予定がある」診療所は 33 件（9.8%）。開設者別では、個人が 21 件、医療法人が 9 件、歯科医師会が 3 件となっている。
- ・訪問歯科診療を開設する時期は、「3 か月以内」が 1 件、「6 か月以内」が 1 件、「1 年以内」が 7 件であり、多くの診療所では開始する意向はあるものの、具体的な開始時期は決まっていない状況にある。
- ・区別に見ると、開始予定がある診療所は「中央区」が 9 件で最も多く、次いで「西区」が 7 件、「白石区」が 5 件となっている。開始する予定時期が決まっているのは、「3 か月以内」が西区で 1 件、「6 か月以内」が北区で 1 件、「1 年以内」が中央区・北区で 2 件、白石区・厚別区・豊平区で 1 件となっている。

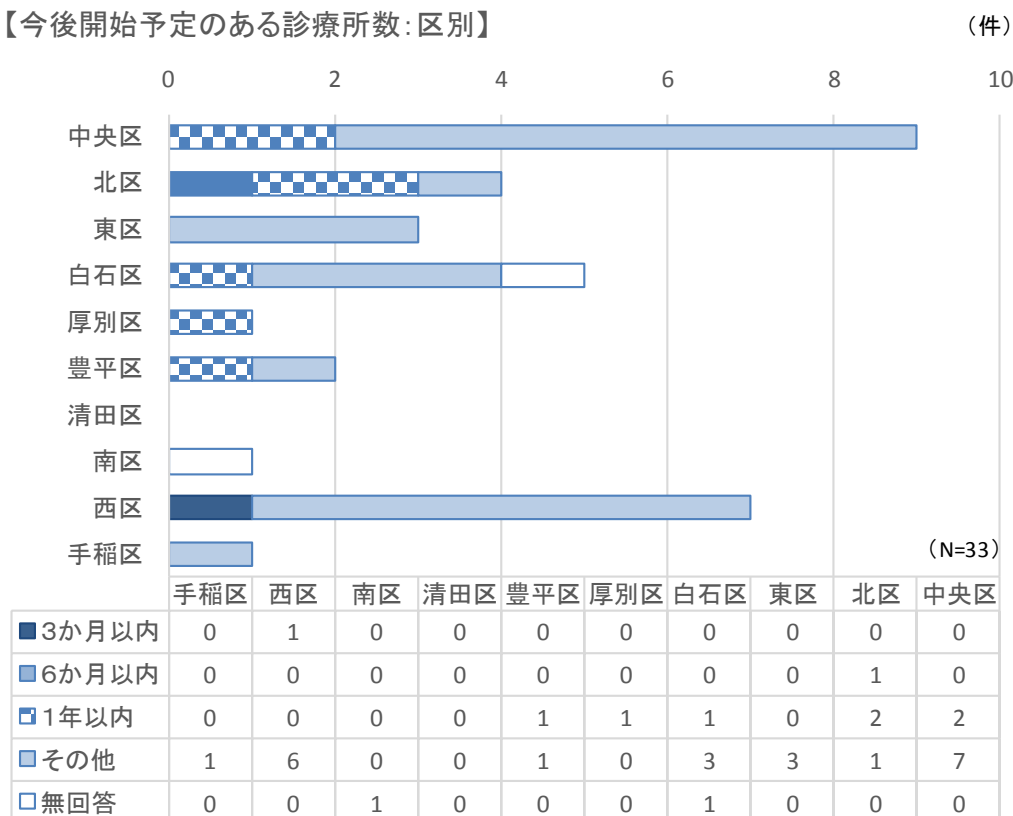
【訪問歯科診療を開始する予定】



【開始する予定時期】



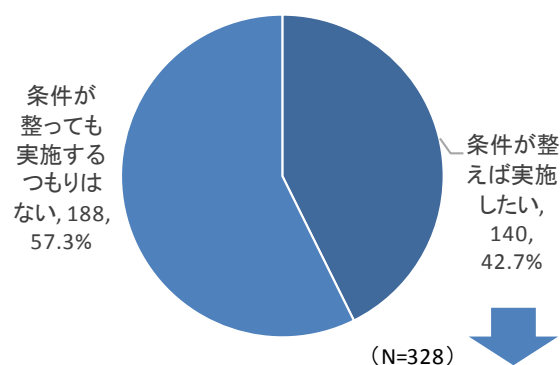
【今後開始予定のある診療所数: 区別】



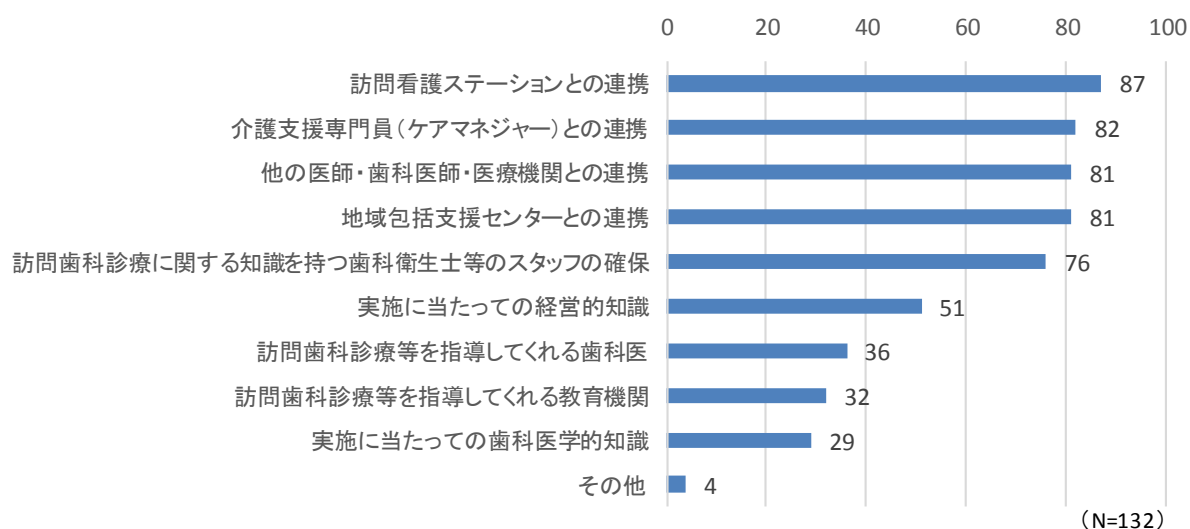
問 15 今後条件が整えば、訪問歯科診療を実施したいと考えるか

- ・現在訪問診療を開始する予定がない診療所が、今後条件が整えば実施したいと考えるかについては、「条件が整えば実施したい」が 140 件（42.7%）となっている。実施したいを開設者別に見ると、個人が 106 件、医療法人が 22 件、歯科医師会が 11 件、国・地方公共団体が 1 件となっている。
- ・訪問歯科診療を実施すると仮定した場合、実施のために必要であるが、自らの努力では容易に整えることができない条件（複数回答）としては、「訪問看護ステーションとの連携」が 87 件（65.9%）で最も多く、次いで「介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携」が 82 件（62.1%）、「他の医師・歯科医師・医療機関との連携」と「地域包括支援センターとの連携」がそれぞれ 81 件（61.4%）となっており、関連機関との連携に関することが課題として多くなっている。

【今後条件が整えば、訪問歯科診療を実施したいか】



【実施のために必要であるが、自らの努力では容易に整えることができない条件（複数回答）】



③調査結果のまとめ

【実態】

- ・現在、訪問歯科診療を実施している歯科診療所は 145 件（29.4%）。開設者別に見ると、個人が 101 件（69.7%）で最も多く、次いで「医療法人」「歯科医師会」の順が多い。
- ・歯科医師や歯科衛生士は、外来と訪問歯科診療の兼務が多い。
- ・現在の患者数は、5 人以内が 6 割を超えている。ただし、診療所によるバラツキが大きく、100 人を超える患者がいる診療所が 2 件ある。

【今後】

- ・現在よりも多くの患者の受入は、「対応できる」が 59 件（41.0%）、「業務体系等を見直せば対応できる」が 49 件（34.0%）で、あわせて 75.0%の診療所が受入を増やすことができると回答。
- ・今後、訪問歯科診療を開始する予定がある診療所は 33 件（9.8%）。ただし、具体的な開始時期まで決めている診療所は、そのうちの 3 割。

【課題】

- ・現在実施していない理由は、「外来歯科診療やその他の活動で忙しく、実施する余裕がないから」が 208 件（59.8%）で最も多く、次いで「歯科衛生士等のスタッフが少なく対応が困難だから」が 134 件（38.5%）、「患者や家族からの要望がないから」が 107 件（30.7%）、「機材を購入する余裕がないから」が 106 件（30.5%）の順となっている。
- ・訪問歯科診療を実施する際に自らの努力では容易に整えることができない条件は、「訪問看護ステーションとの連携」が 87 件（65.9%）で最も多く、次いで「介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携」が 82 件（62.1%）、「他の医師・歯科医師・医療機関との連携」と「地域包括支援センターとの連携」がそれぞれ 81 件（61.4%）となっており、関連機関との連携に関することが課題として多くなっている。

(2) 薬局向けアンケート

①調査概要

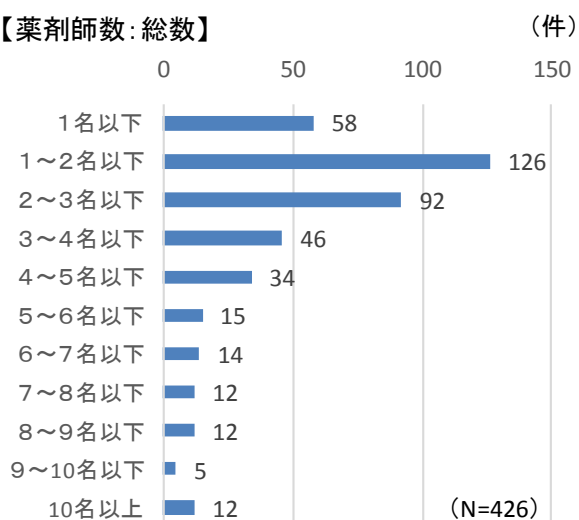
- ・札幌市における在宅医療の充実・強化に向けた基礎資料とするため、一般社団法人札幌薬剤師会の協力を得て、札幌薬剤師会の会員薬局を対象にアンケート調査を実施した。
- ・アンケート調査の対象とした薬局は 696 件で、このうち 427 件から回答を得た（有効回答率 61.4%）。（調査は、郵送送付・回収により実施した）

②調査結果

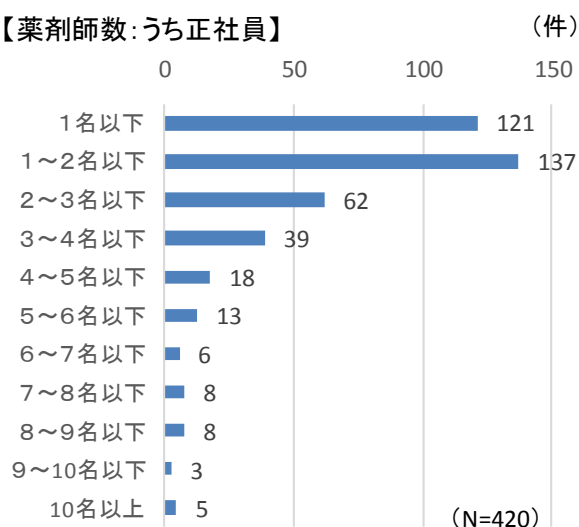
問 1 薬剤師数

- ・各薬局に勤務する薬剤師は、総数では「1～2名以下」が 126 件（29.6%）で最も多く、次いで「2～3名以下」が 92 人（21.6%）、「1名以下」が 58 人（13.6%）となっている。薬剤師 2 人以下で 43.2%、3 人以下で 64.8%となっている。最多は 16 名。
- ・正社員の薬剤師数は、「1～2名以下」が 137 件（32.6%）で最も多く、次いで「1名以下」が 121 件（28.8%）となっており、2 名以下が全体の 61.4%となっている。最多は 12 名。

【薬剤師数：総数】



【薬剤師数：うち正社員】

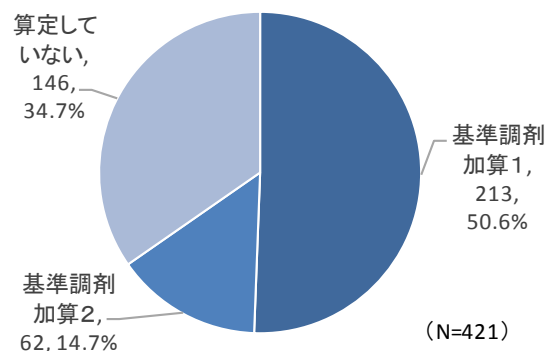


※パートは正社員換算(週5日8時間/日勤務で正社員1名)

問2 基準調剤加算の算定状況

- ・基準調剤加算の算定状況は、「基準調剤加算1」が213件（50.6%）、「基準調剤加算2」が62件（14.7%）となっている。

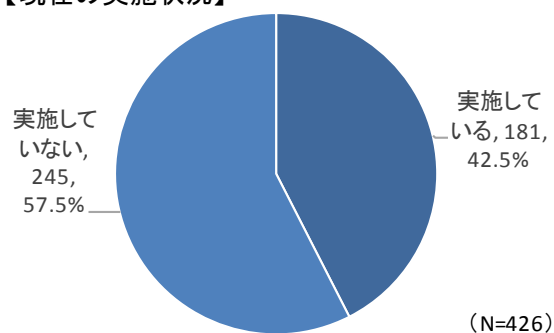
【基準調剤加算の算定状況】



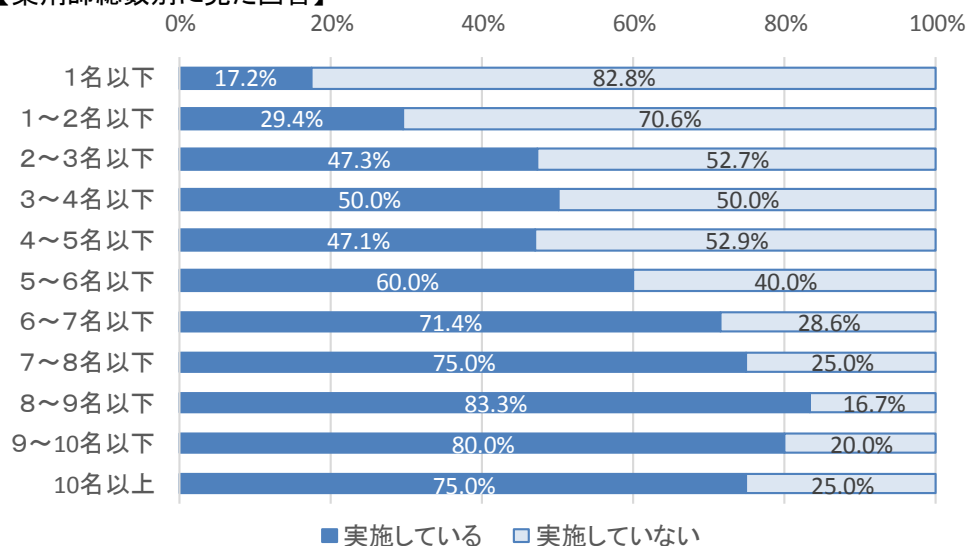
問3 在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等の実施状況

- ・在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等の実施状況は、「実施している」が181件（42.5%）となっている。
- ・薬剤師総数と実施状況の関係をみると、薬剤数が増えるに連れて実施している薬局が増える傾向にある。「5～6名」以上の薬局では実施している薬局が半数を超えている。

【現在の実施状況】



【薬剤師総数別に見た回答】

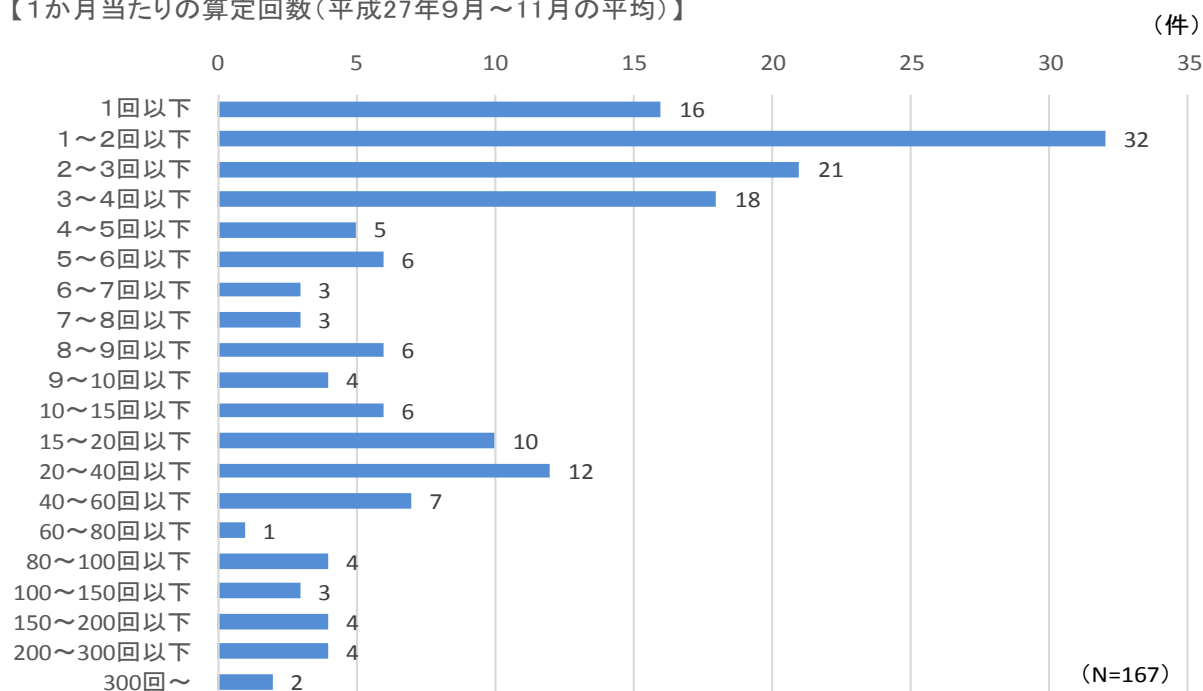


※問4～6は、在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を実施している薬局が回答

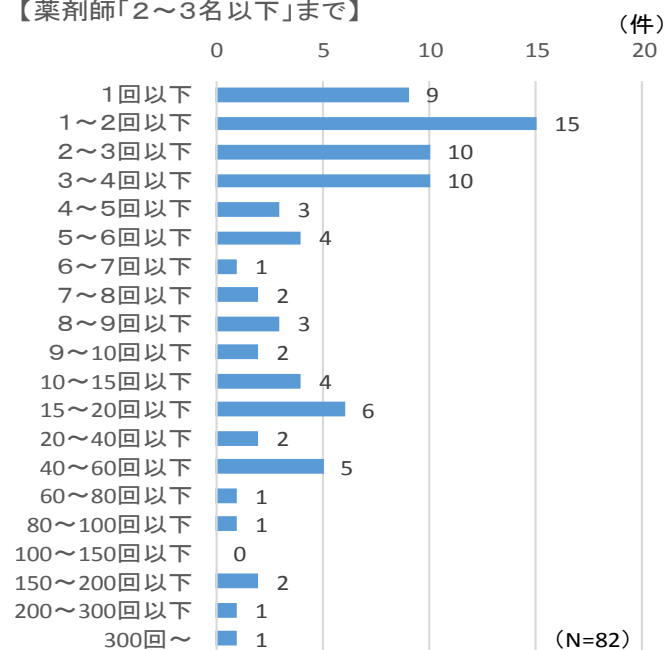
問4 直近3か月での在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等の算定状況

- ・1か月当たりの算定回数（3か月間の平均値）は、「1～2回以下」が32件（19.2%）で最も多く、次いで「2～3回以下」が21件（12.6%）、「3～4回以下」が18件（10.8%）となっている。「3～4回以下」までで52.1%となっている。
- ・実施している薬局の薬剤師数の違いで見ると、いずれも「1～2回以下」が最も多くなっている。算定回数が100回を超えているのは、薬剤師数「2～3人以下」までが4件、「3～4人以上」より上で9件となっている。

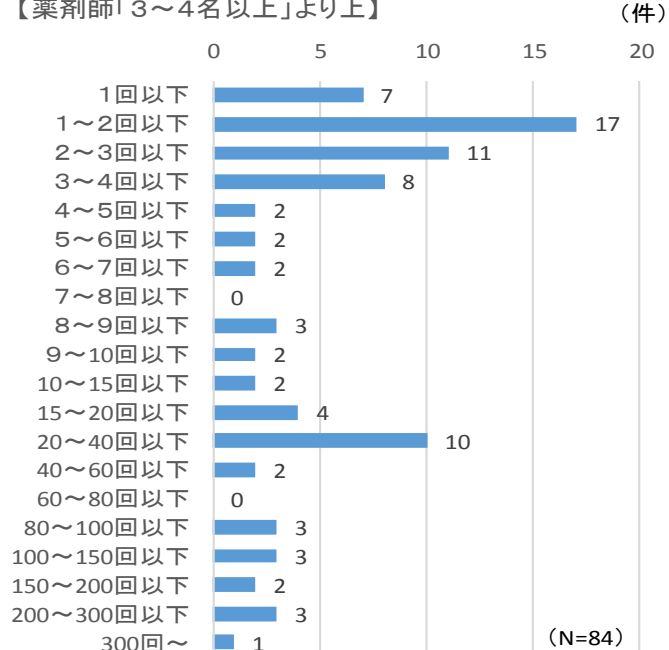
【1か月当たりの算定回数（平成27年9月～11月の平均）】



【薬剤師「2～3名以下」まで】

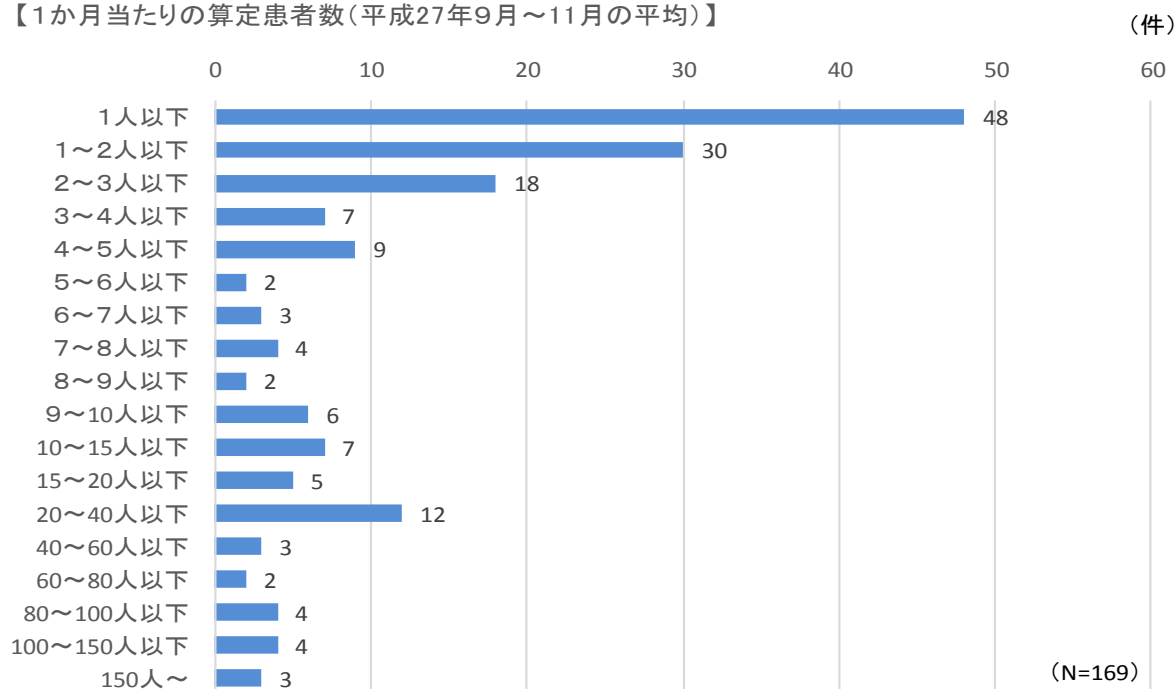


【薬剤師「3～4名以上」より上】



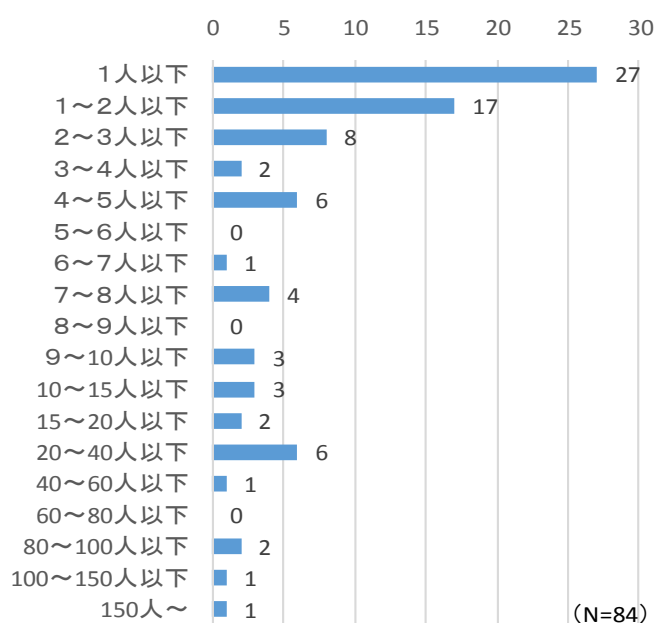
- ・ 1 か月当たりの算定患者数（3 か月間の平均値）は、「1 人以下」が 48 人（28.4%）で最も多く、「2～3 人以下」までで 56.8%と過半数を超えている。
- ・ 実施している薬局の薬剤師数の違いで見ると、いずれも「1 人以下」が最も多くなっている。40 人を超えているのは、薬剤師数「2～3 人以下」までが 5 件、「3～4 人以上」より上で 11 件となっている。

【1 か月当たりの算定患者数（平成27年9月～11月の平均）】



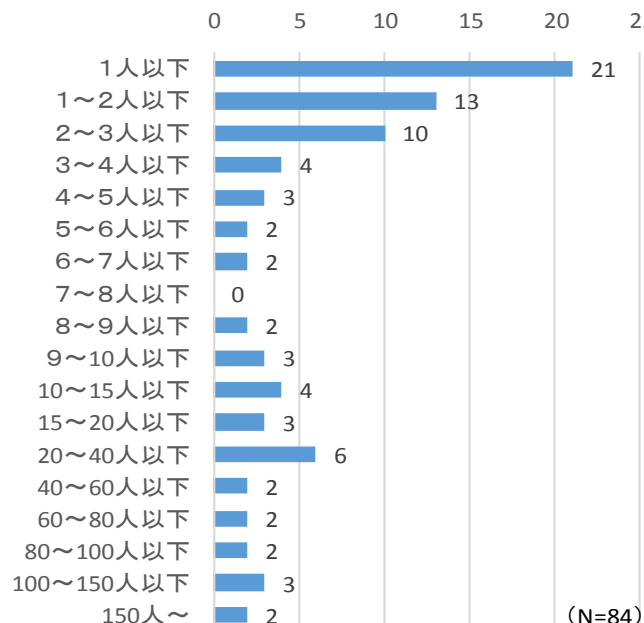
【薬剤師「2～3名以下」まで】

(件)



【薬剤師「3～4名以上」より上】

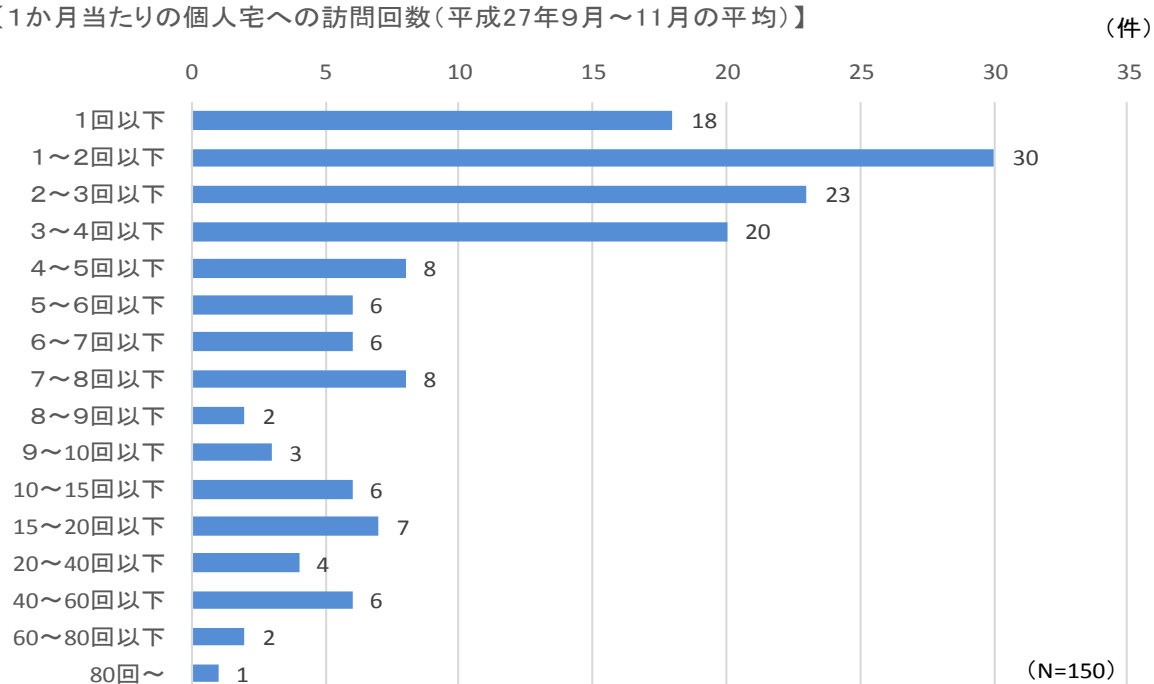
(件)



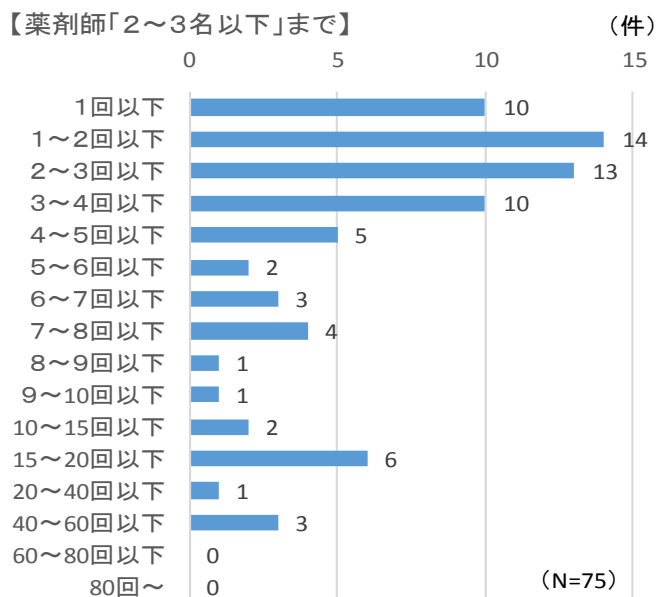
問5 直近3か月での在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等の算定回数のうち、居宅への訪問回数

- ・1か月当たりの個人宅への訪問回数（3か月間の平均値）は、「1～2回以下」が30件（20.0%）で最も多く、次いで「2～3回以下」が23件（15.3%）、「3～4回以下」が20件（13.3%）となっている。「3～4回以下」までで60.7%と過半数を超えている。
- ・実施している薬局の薬剤師数の違いで見ると、いずれも「1～2回以下」が最も多くなっている。40回を超えているのは、薬剤師数「2～3人以上」までが3件、「3～4人以上」より上で6件となっている。

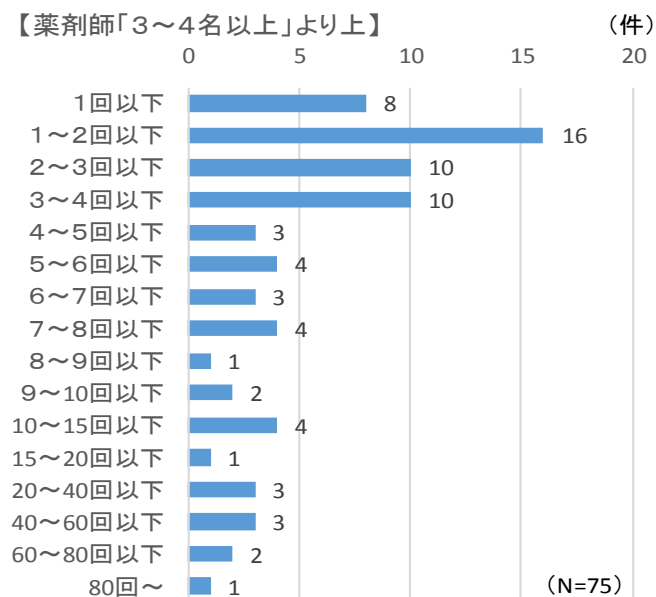
【1か月当たりの個人宅への訪問回数（平成27年9月～11月の平均）】



【薬剤師「2～3名以下」まで】



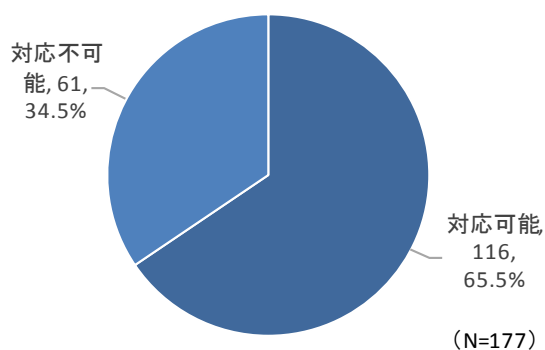
【薬剤師「3～4名以上」より上】



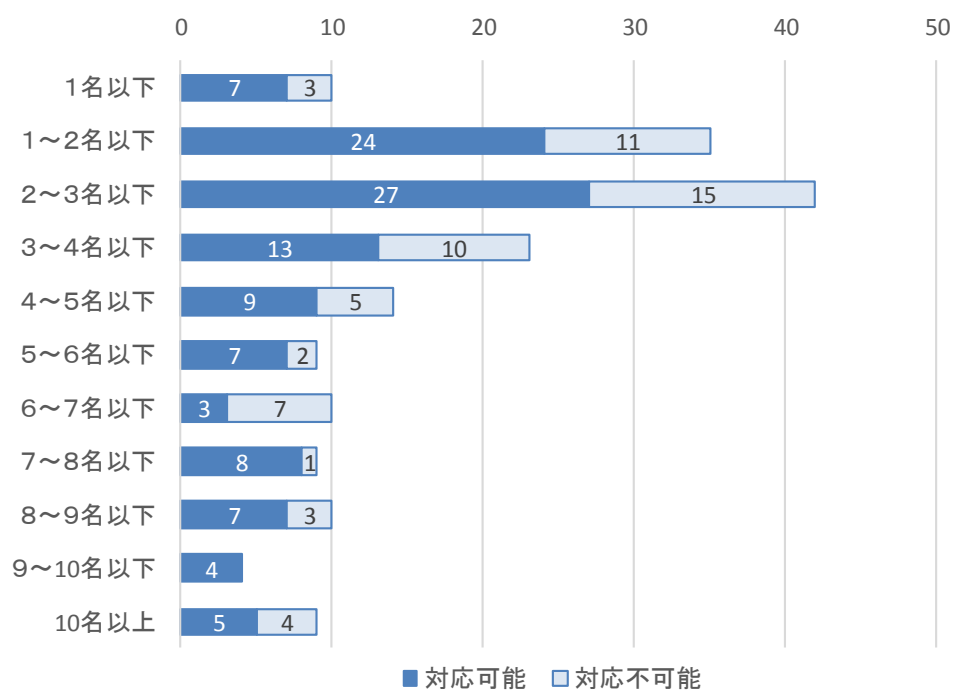
問6 現在よりも多くの患者の受け入れに対応できるか

- ・現在よりも多くの在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等の患者に対応できるかについては、「対応可能」が116件（65.5%）となっている。
- ・実施している薬局の薬剤師数の違いで見ると、薬剤師数「1～2名以下」と「2～3人以下」の薬局で「対応可能」という回答が多くなっている。

【現在よりも多くの患者の受け入れ】



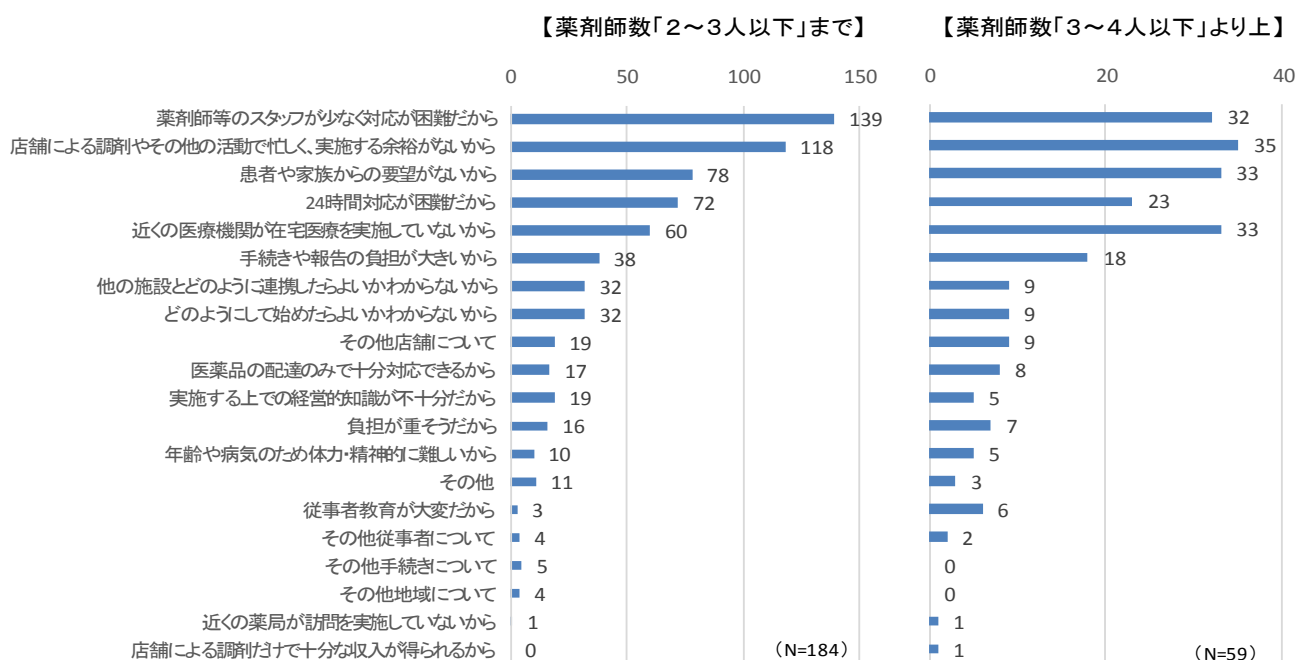
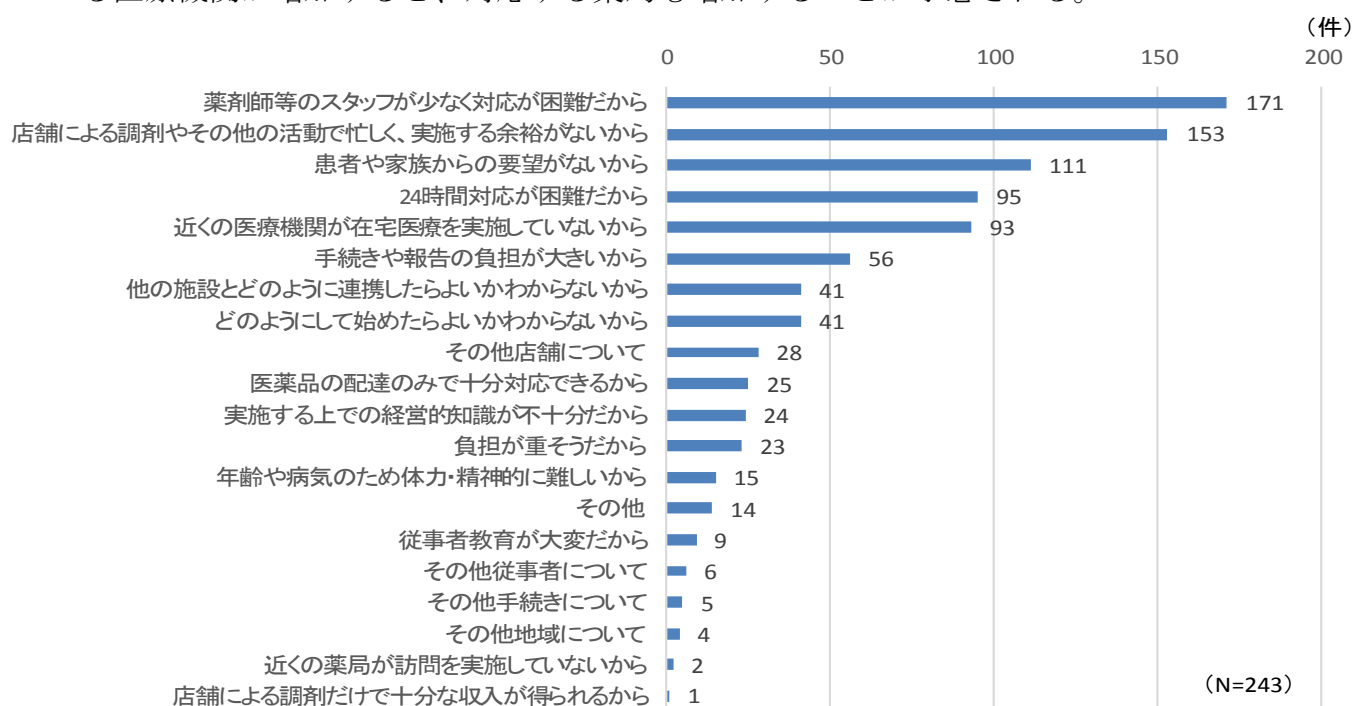
【薬剤師総数別に見た回答】



※問7は、問3で在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を実施していない、または、問6でこれ以上の患者の受け入れは対応不可能と答えた薬局が回答

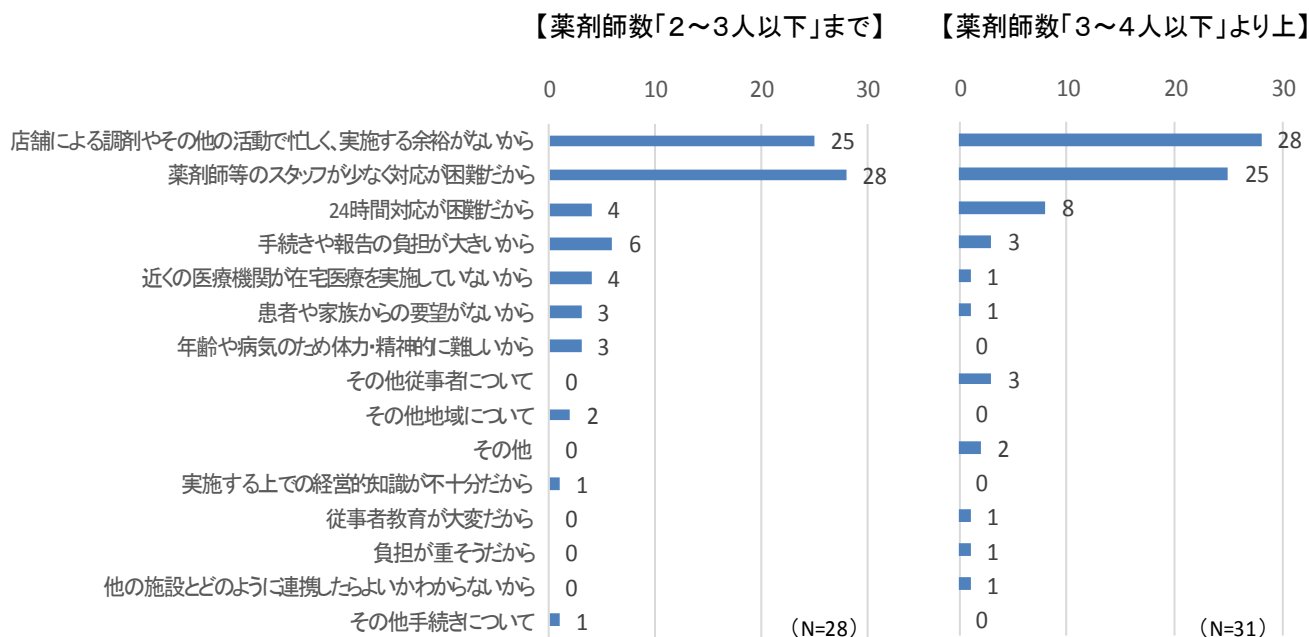
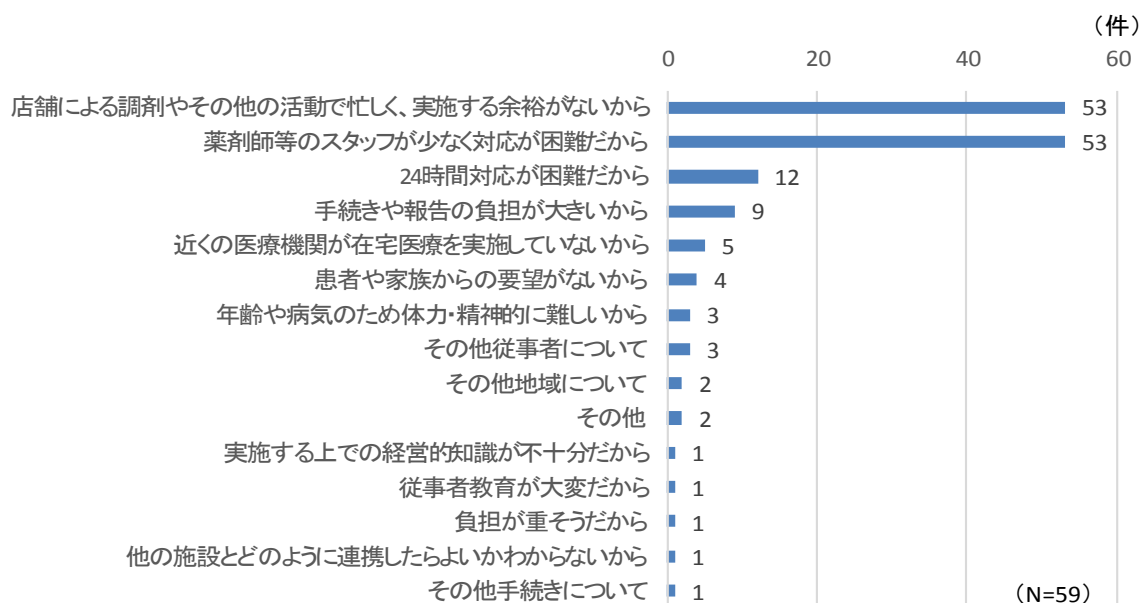
問7 在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を「実施していない」理由

- ・在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を実施していない理由は、「薬剤師等のスタッフが少なく対応が困難だから」が171件（70.4%）で最も多く、次いで「店舗による調剤やその他の活動で忙しく、実施する余裕がないから」が153件（63.0%）、「患者や家族からの要望がないから」が111件（45.7%）となっている。
- ・薬局の薬剤師数の違いで見ると、薬剤師数「3～4人以下」より上の薬局では「近くの医療機関が在宅医療を実施していないから」という回答が多く、在宅医療を実施する医療機関が増加すると、対応する薬局も増加することが予想される。



問7 現在以上の在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等の受入が「対応不可能」とした理由

- ・現在以上の在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等の受入について対応不可能とした理由は、「店舗による調剤やその他の活動で忙しく、実施する余裕がないから」と「薬剤師等のスタッフが少なく対応が困難だから」がそれぞれ53人(89.8%)で最も多くなっている。
- ・薬局の薬剤師数の違いで見ても同様に、「実施する余裕がない」と「スタッフが少なく対応が困難」の2つの理由に回答が集中している。

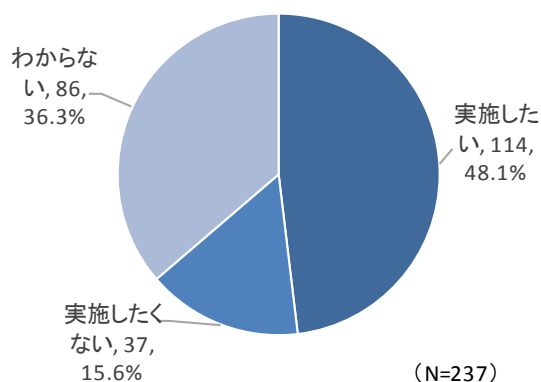


※問8と問9は、在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を実施していないと答えた薬局が回答

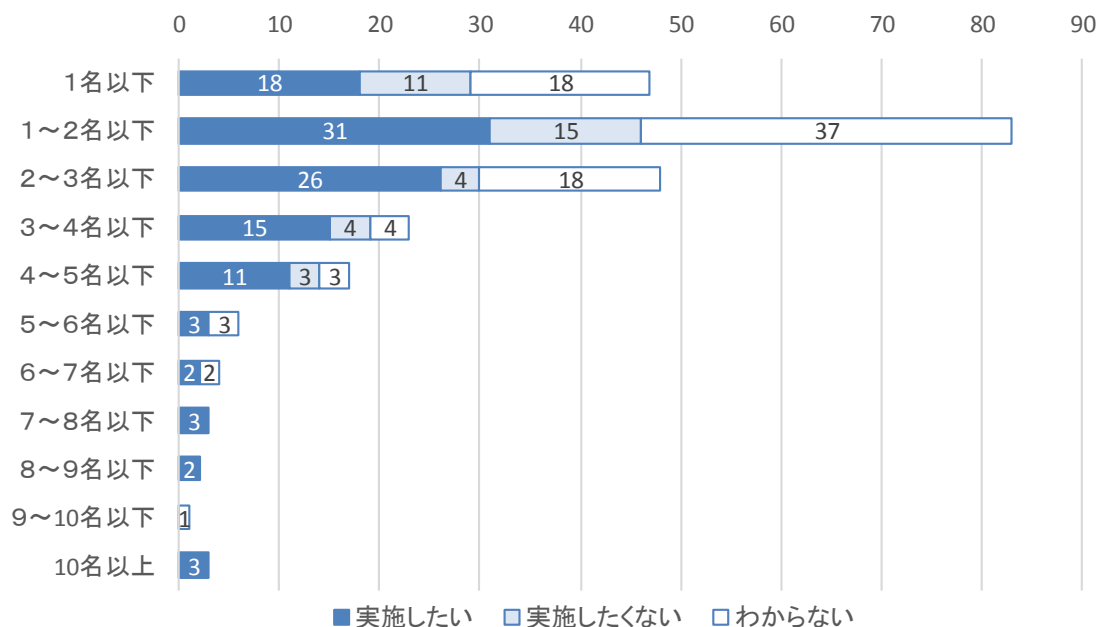
問8 今後、在宅患者への訪問を実施する意思があるか

- ・今後の在宅患者への訪問を実施する意向については、「実施したい」が114件(48.1%)で最も多くなっている。
- ・薬局の薬剤師の違いで見ると、今後「実施したい」という回答は、薬剤師数「4～5人以下」よりも少ない薬局に多くなっている。

【今後、在宅患者への訪問意向】



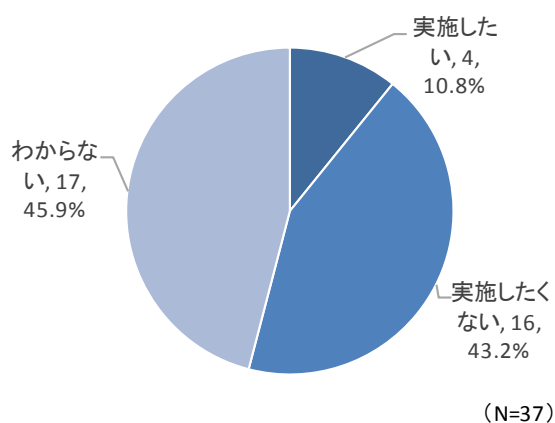
【薬剤師総数別に見た回答】



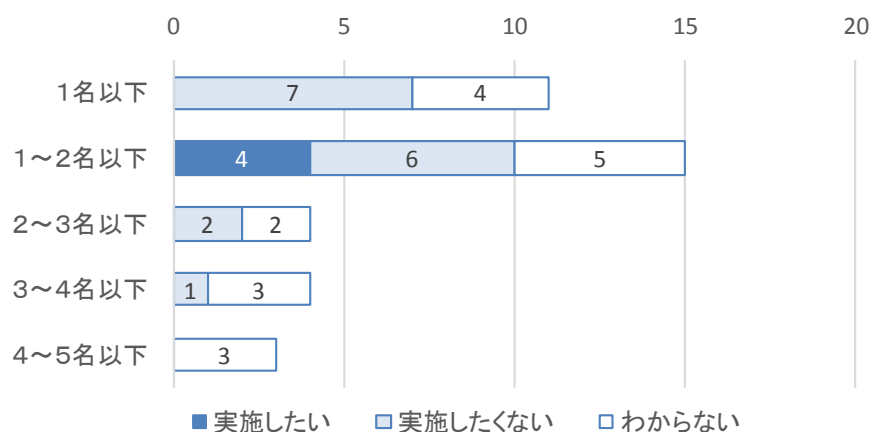
問9 今後、近くの医療機関の医師から在宅医療への協力を求められた場合、訪問を実施する意思があるか

- ・問8で今後の訪問意向がないと回答した薬局に対して、近くの医療機関の医師から在宅医療への協力を求められた場合の訪問実施意向を質問したところ、「実施したい」は4件（10.8%）であった。
- ・薬局の薬剤師の違いで見ると、「実施したい」と回答したのはすべて「1～2人以下」の薬局となっている。

【今後、近くの医療機関の医師から、在宅医療への協力を求められた場合、訪問を実施するか】

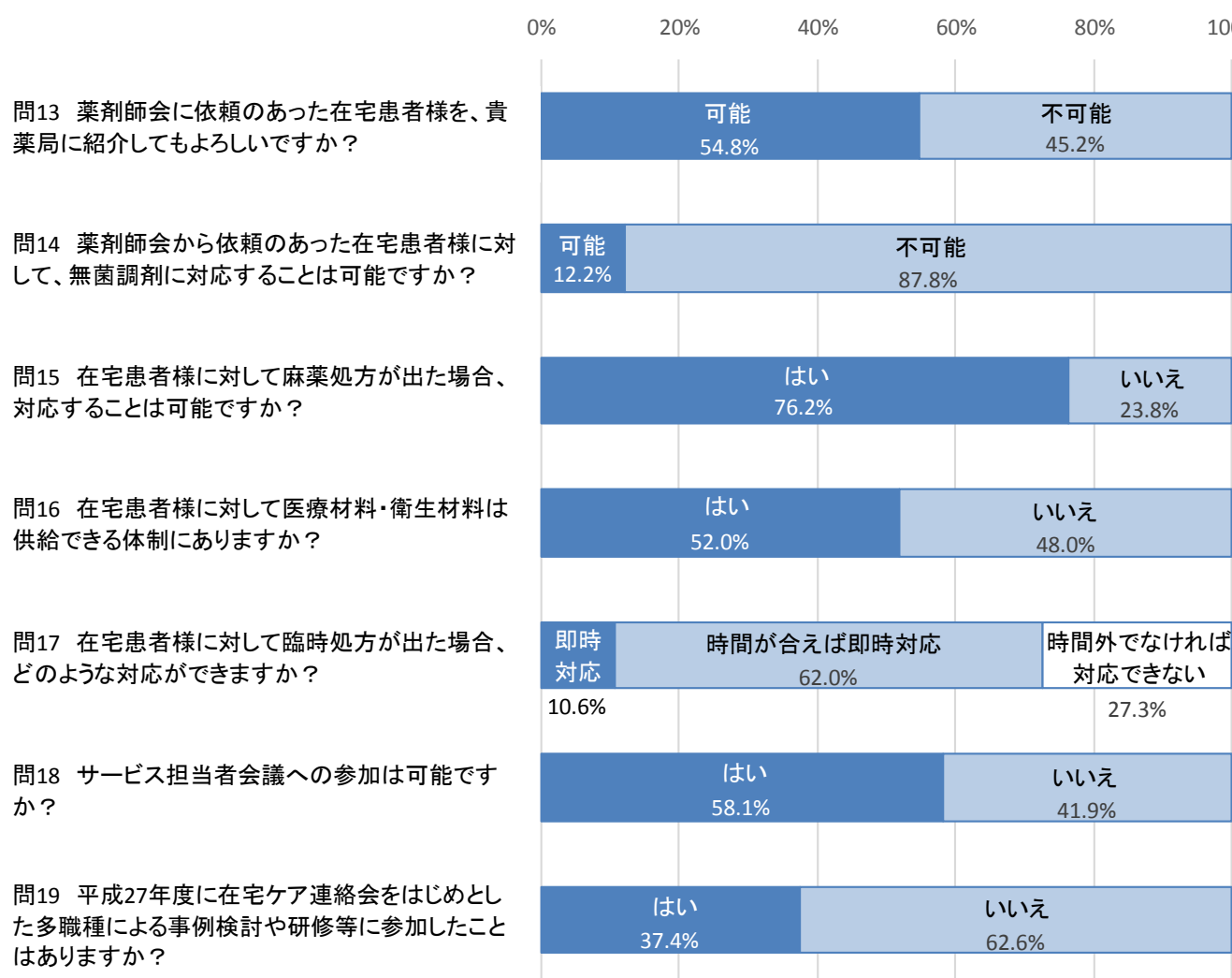


【薬剤師総数別に見た回答】



問 13～19 在宅医療に関する対応など

- ・薬剤師会に依頼のあった在宅患者の紹介を「可能」と回答した薬局は 229 件 (54.8%)。
- ・薬剤師会から依頼のあった在宅患者に対して無菌調剤に対応することが「可能」と回答した薬局は 28 件 (12.2%)。
- ・在宅患者に対して麻薬処方が出た場合の対応に「はい」と回答した薬局は 321 件 (76.2%)。
- ・在宅患者に対して医療材料・衛生材料が供給できる体制について「はい」と回答した薬局は 220 件 (52.0%)。
- ・在宅患者様に対して臨時処方が出た場合に、「即時対応」と回答した薬局が 42 件 (10.6%)、「時間が合えば即時対応」と回答した薬局が 245 件 (62.0%)、「時間外でなければ対応できない」と回答した薬局が 108 件 (27.3%)。
- ・サービス担当者会議への参加に対して「はい」と回答した薬局は 240 件 (58.1%)。
- ・平成 27 年度に在宅ケア連絡会をはじめとした多職種による事例検討や研修等に参加した薬局は 158 件 (37.4%)。



③調査結果のまとめ

【実態】

- ・現在、在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を実施している薬局は、181件（42.5%）。薬剤数が増えるに連れて実施している薬局が増える傾向にあり、「5～6名」以上の薬局では実施している薬局が半数を超えている。
- ・1か月当たりの患者数は3人以下の薬局が56.8%、居宅への訪問回数は4回以下の薬局が60.7%。

【今後】

- ・現在よりも多くの患者に「対応可能」と回答した薬局が116件（65.5%）。
- ・今後、在宅患者への訪問実施意向は「実施したい」が114件（48.1%）。

【課題】

- ・現在実施している薬局で、今以上の受入不可能な理由は、「店舗による調剤やその他の活動で忙しく、実施する余裕がないから」と「薬剤師等のスタッフが少なく対応が困難だから」がそれぞれ53人（89.8%）で最も多くなっている。
- ・現在実施していない薬局の理由は、「薬剤師等のスタッフが少なく対応が困難だから」が171件（70.4%）で最も多く、次いで「店舗による調剤やその他の活動で忙しく、実施する余裕がないから」が153件（63.0%）、「患者や家族からの要望がないから」が111件（45.7%）となっている。

(3) 市民向けアンケート

①調査概要

- ・札幌市の在宅医療提供体制を検討するための基礎資料として、札幌市民を対象にアンケート調査を実施した。対象となる市民は、居住区・年齢構成などに配慮した上で、無作為抽出した。
- ・アンケート調査の対象とした市民は5,000人(このうち24人が宛名不明で返送)で、このうち2,208人から回答を得た(有効回答率44.4%)。(調査は、郵送送付・回収により実施した)

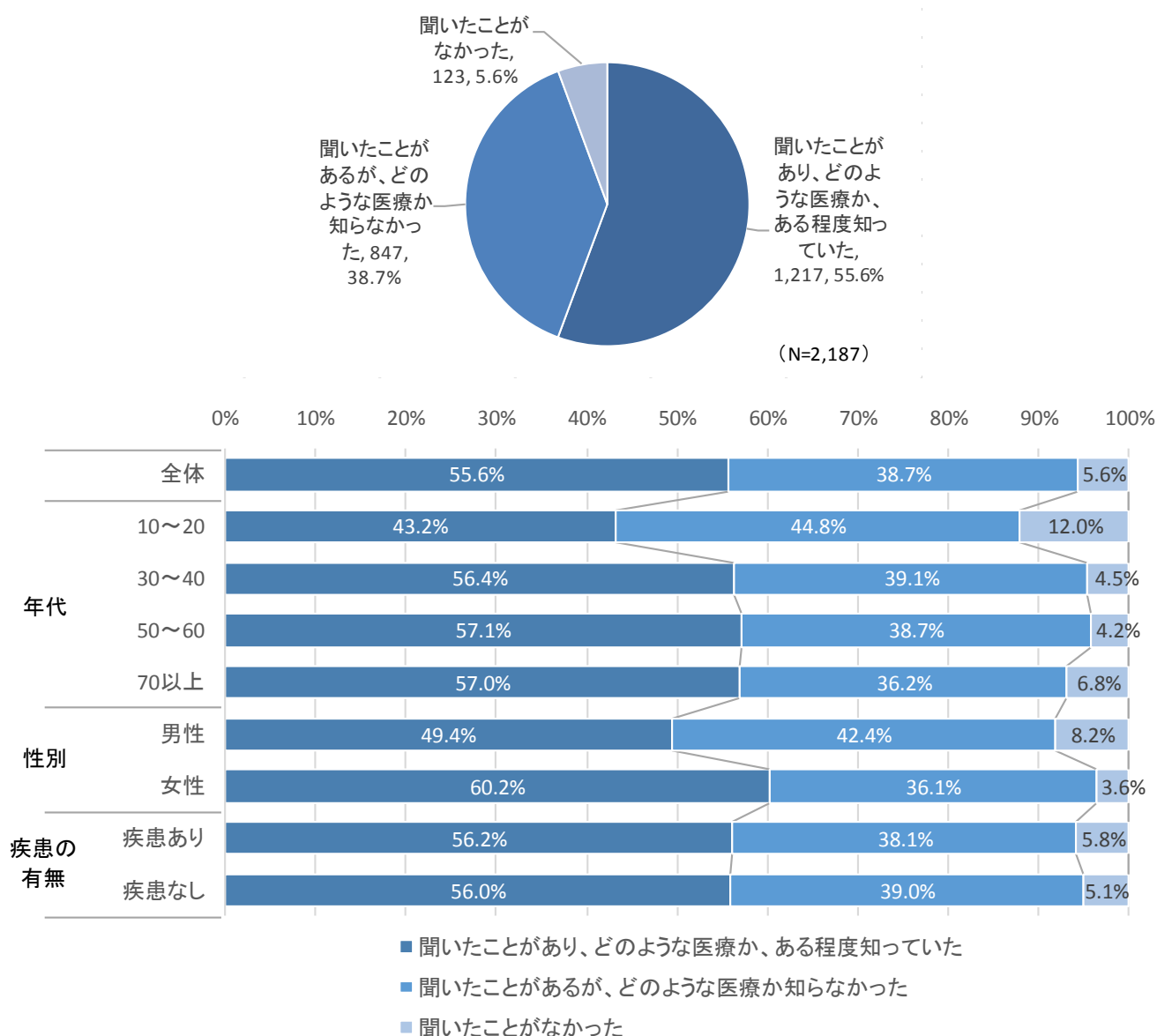
②調査結果

《在宅医療に関する意識》

問1 この調査票が届くまで「在宅医療」という言葉を知っていたか

- ・「在宅医療」という言葉の認知状況は、「聞いたことがあり、どのような医療か、ある程度知っていた」が1,217人（55.6%）となっており、「在宅医療」という言葉の認知度は5割を超えている。
- ・属性別では、年代が高い方が「ある程度知っていた」という割合が増え、30歳以上では半数以上が「ある程度知っていた」と回答している。また、女性の方が「ある程度知っていた」と回答した割合が10ポイント以上高くなっている。

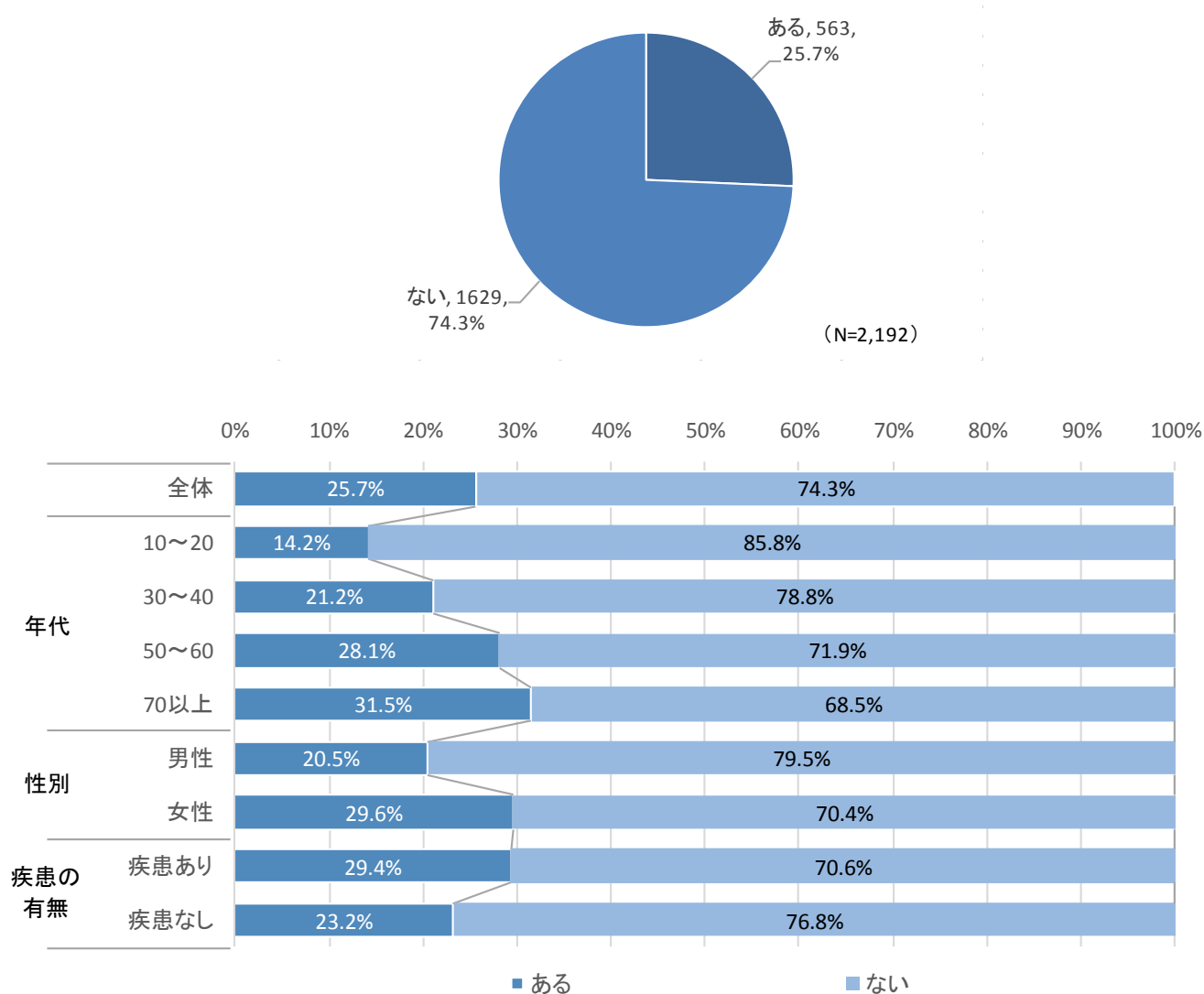
【「在宅医療」という言葉の認知度】



問2 回答者自身や家族・友人などの身近な人が在宅医療を受け、その様子を見たり聞いたりした経験はあるか

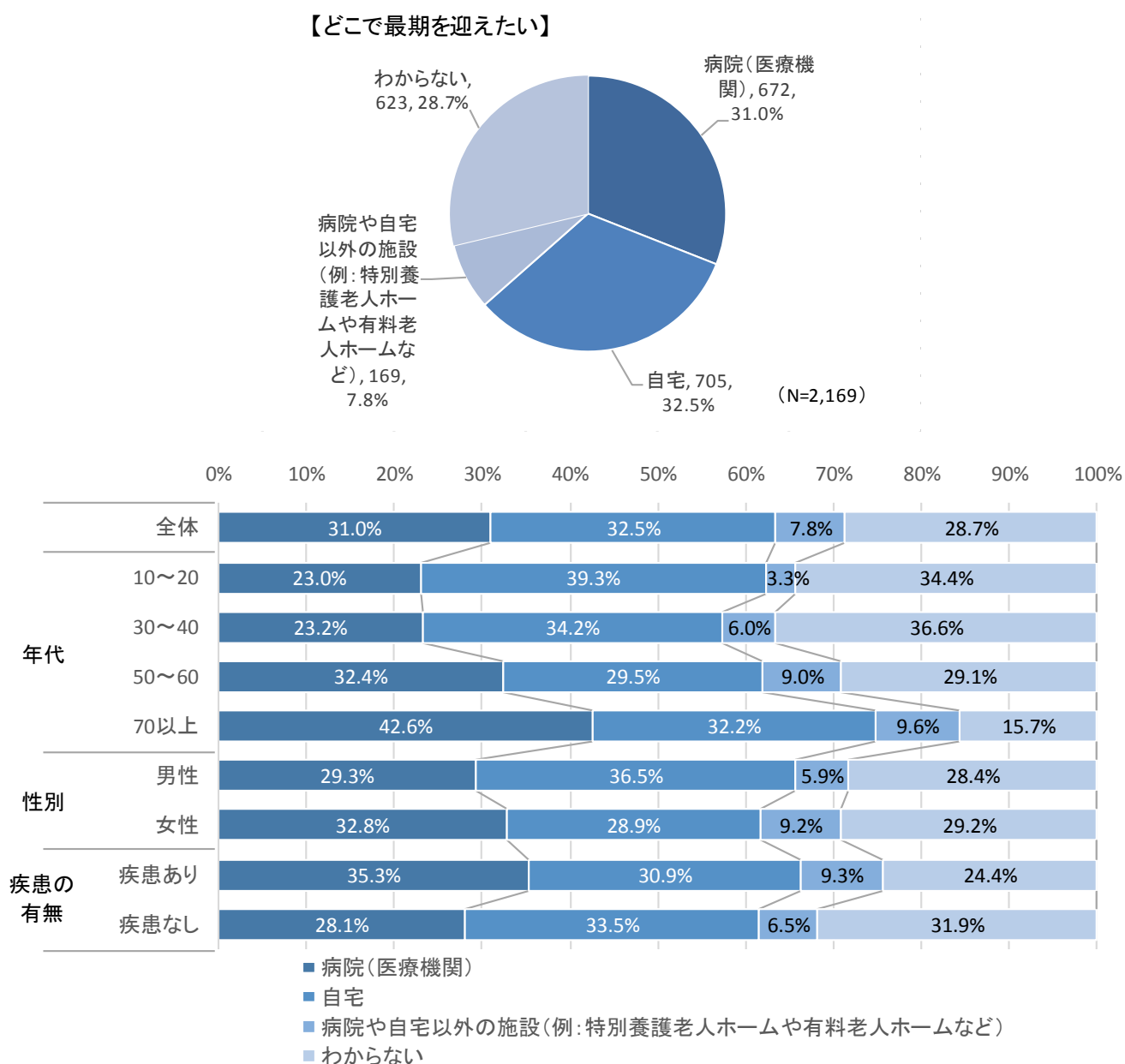
- ・在宅医療を見たり聞いたりした経験は、「ある」が 563 件（25.7%）となっている。
- ・属性別では、年代が高くなると「ある」という回答が増える。

【在宅医療の様子を見たり聞いたりした経験】



問3 在宅医療では、本人が望む場合、在宅で最期を迎えることもできる。あなたが病気を治療しながら最期を迎えると仮定した場合、どこで最期を迎えたいと思うか。

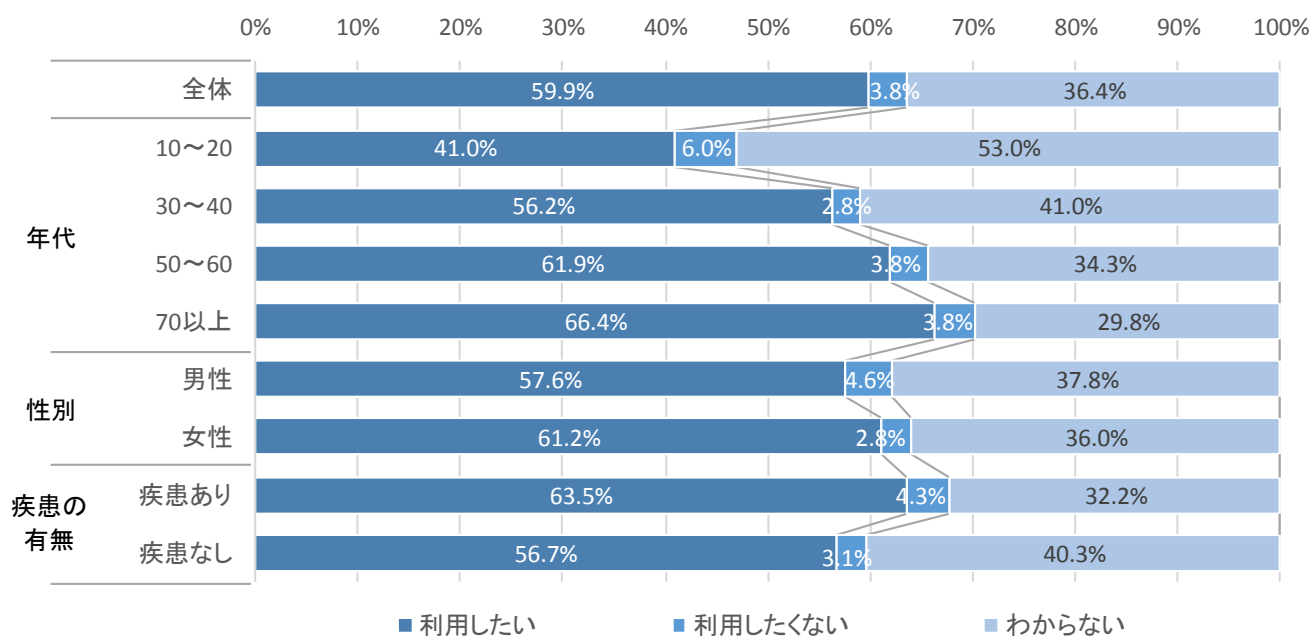
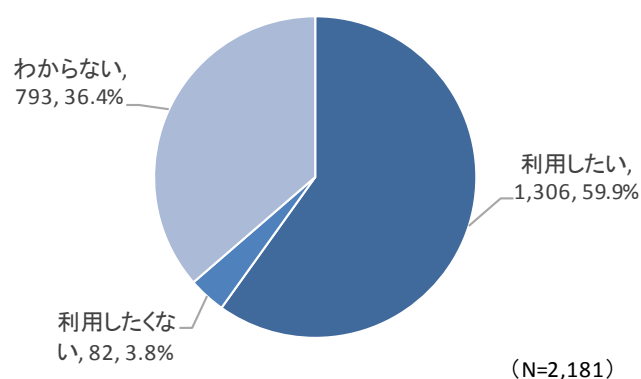
- ・最後を迎える場所については、「自宅」が705件（32.5%）で最も多くなっている。
- ・属性別では、年代が低いほど「自宅」が多く、年代が高いと「病院（医療機関）」が多くなっている。また、男性は「自宅」、女性は「病院（医療機関）」が多くなっている。



問 4 札幌市が在宅医療に関する相談窓口を設置した場合、窓口を利用したいと思うか

- ・在宅医療に関する相談窓口は「利用したい」が1,306件（59.9%）で最も多くなっている。
- ・属性別では、年代が高いほど「利用したい」という割合が多くなる。

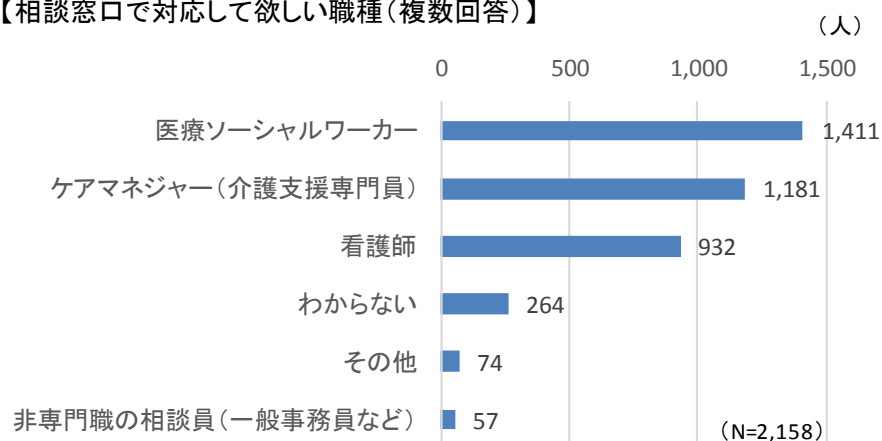
【在宅医療に関する相談窓口】



問5 在宅医療に関する相談窓口を設置した場合に、対応して欲しい職種（複数回答）

- ・相談窓口で対応して欲しい職種は、「医療ソーシャルワーカー」が1,411人（65.4%）で最も多く、次いで「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が1,181人（54.7%）となっている。
- ・属性別では、40代までは「医療ソーシャルワーカー」が7割を超えている。

【相談窓口で対応して欲しい職種（複数回答）】

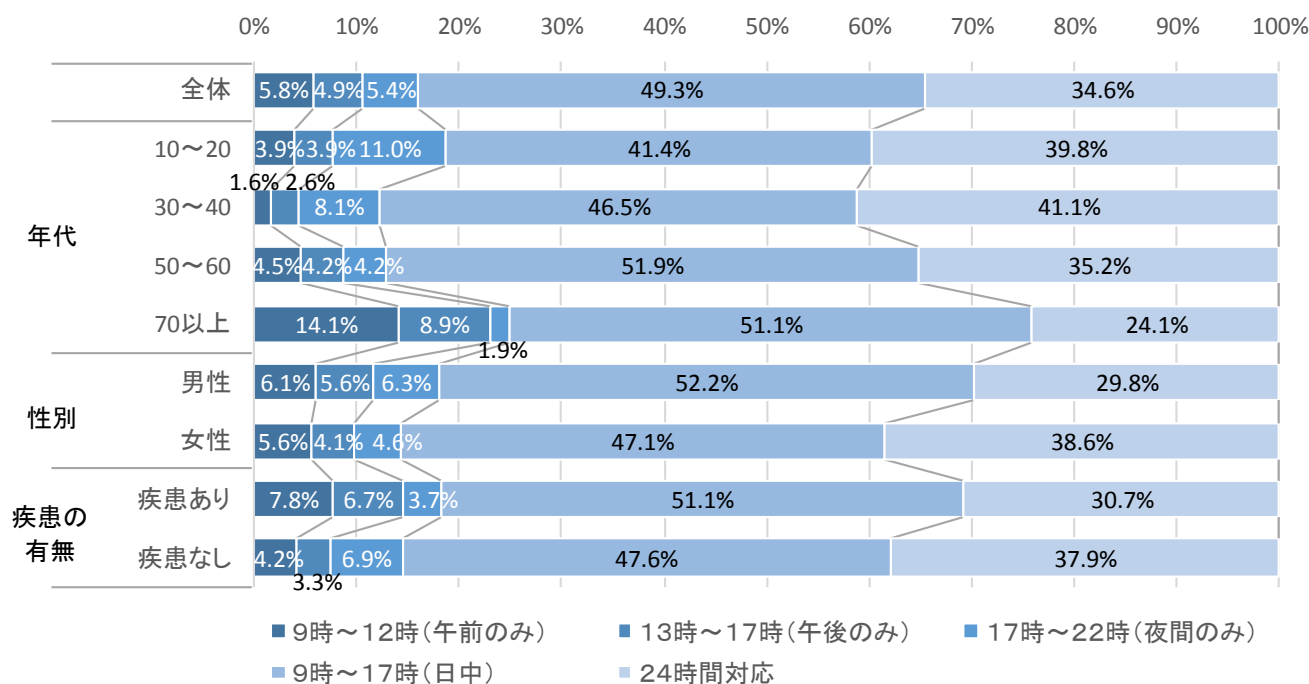
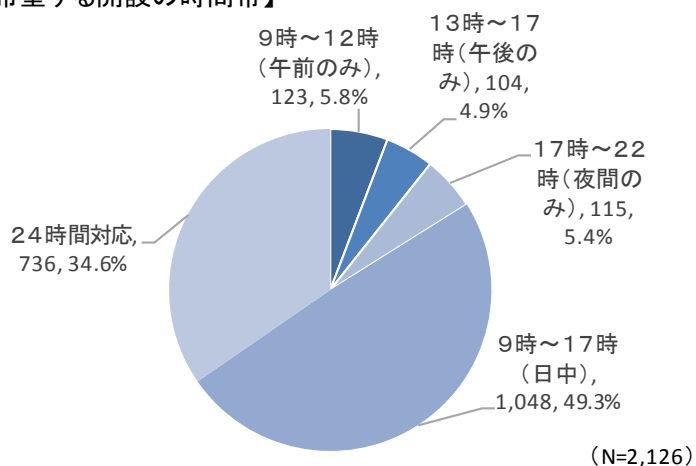


【属性クロス表】	全体	年代				性別		疾患の有無	
		10～20	30～40	50～60	70以上	男性	女性	あり	なし
看護師	43.2%	54.1%	48.0%	42.1%	34.4%	38.2%	46.9%	39.6%	45.8%
医療ソーシャルワーカー	65.4%	73.2%	72.2%	69.5%	47.4%	61.3%	69.1%	62.1%	68.8%
ケアマネジャー (介護支援専門員)	54.7%	59.6%	58.3%	55.3%	46.8%	47.4%	60.1%	50.8%	57.4%
非専門職の相談員 (一般事務員など)	2.6%	3.8%	1.9%	3.1%	2.3%	3.1%	2.3%	2.1%	3.1%
その他	3.4%	2.2%	5.0%	3.4%	1.7%	3.4%	3.4%	2.2%	4.4%
わからない	12.2%	14.8%	11.6%	9.7%	16.8%	14.8%	10.4%	12.5%	12.2%

問6 札幌市が在宅医療に関する相談窓口を設置した場合、開設を希望する時間帯

- ・相談窓口の開設を希望する時間帯は、「9～17時（日中）」が1,048人（49.3％）で最も多く、次いで「24時間対応」が736人（34.6％）となっている。
- ・属性別では、40代までは「24時間対応」や「17時～22時（夜間のみ）」の割合が比較的高くなっており、日中仕事をしているため夜間に相談したいという希望が伺える。

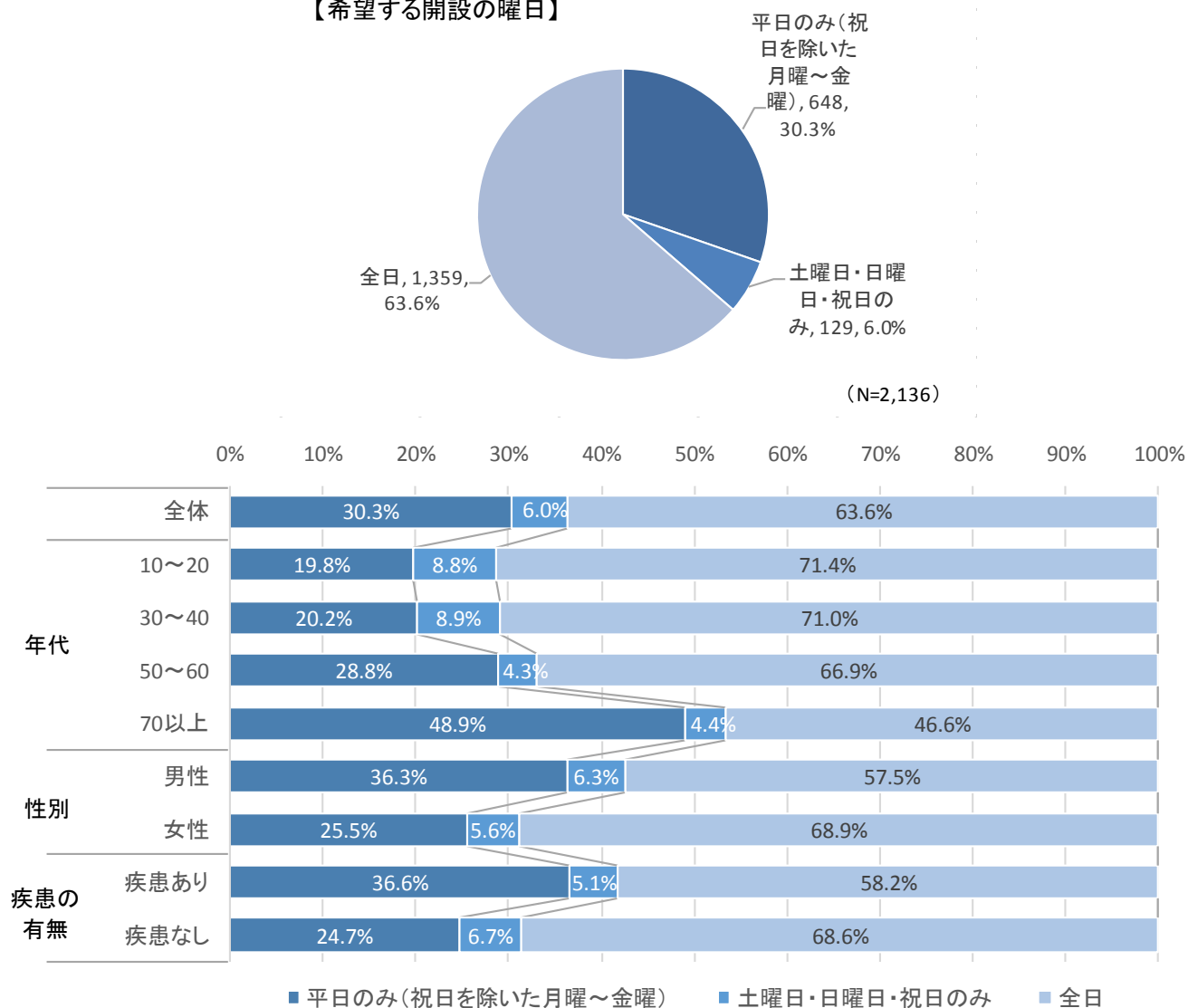
【希望する開設の時間帯】



問7 札幌市が在宅医療に関する相談窓口を設置した場合、開設を希望する曜日

- ・相談窓口の開設を希望する曜日は、「全日」が1,359件（63.6%）で最も多い。
- ・属性別では、年代が低いほど「全日」の希望が多く、年代が高いほど「平日のみ（祝日を除いた月曜～金曜）」の希望が多くなっている。

【希望する開設の曜日】



問8 在宅医療を利用すると仮定した場合に、相談したいこと（複数回答）

- ・在宅医療を利用すると仮定して相談したいことは、「在宅医療を利用したときの医療費」が1,670人（77.1%）で最も多く、次いで「在宅医療を提供してくれる医師または医療機関」が1,480人（68.3%）、「在宅医療の利用の仕組み」が1,386人（64.0%）、「介護者の負担を軽減する介護の方法」が1,233人（56.9%）となっており、4つの相談内容が5割を超えている。
- ・属性別では、40代までは「医療費」に関することが8割を超えている。

【在宅医療を利用すると仮定した場合、相談したいこと（複数回答）】

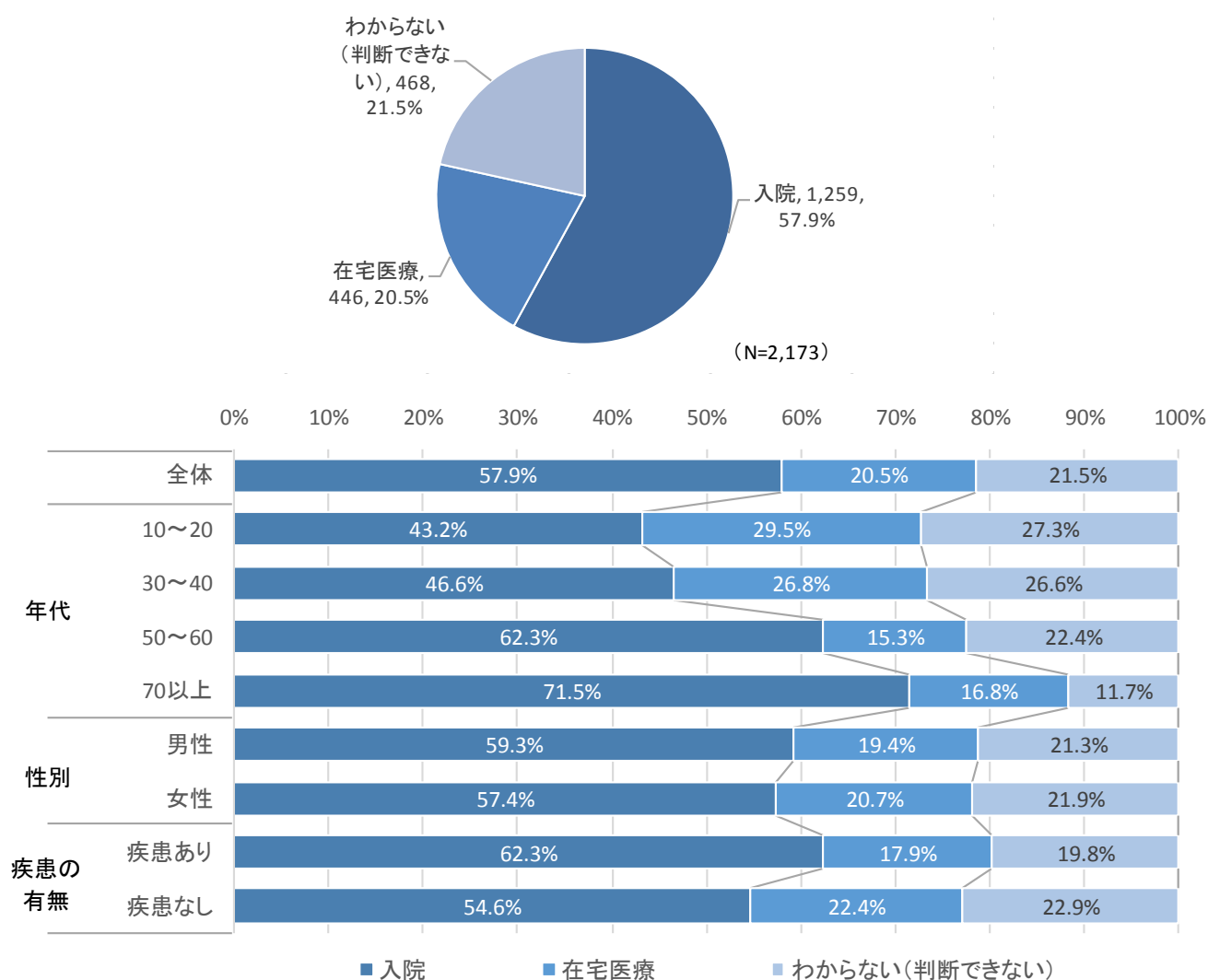


【属性クロス表】	全体	年代				性別		疾患の有無	
		10～20	30～40	50～60	70以上	男性	女性	あり	なし
在宅医療の利用の仕組み	64.0%	55.2%	67.4%	65.3%	61.0%	60.8%	66.5%	63.6%	64.1%
在宅医療を利用したときの医療費	77.1%	80.3%	84.4%	76.9%	65.7%	71.9%	80.8%	73.9%	79.5%
在宅医療を提供してくれる医師または医療機関	68.3%	58.5%	72.4%	72.0%	61.4%	65.2%	71.2%	68.9%	68.5%
介護者が実施可能なケアの方法 (喀痰吸引、経管栄養など)	44.8%	47.5%	55.5%	44.1%	30.6%	41.2%	47.3%	40.8%	48.2%
介護者の負担を軽減する介護の方法	56.9%	50.8%	63.1%	59.8%	46.6%	50.9%	61.7%	54.7%	59.2%
その他	2.7%	3.8%	2.4%	3.3%	1.6%	3.1%	2.3%	2.8%	2.7%
とくになし (相談したいことが思いつかない)	6.5%	13.1%	5.0%	4.9%	8.6%	8.3%	5.1%	6.9%	6.0%

問9 あなたが、生涯にわたって治療を必要とする病気になり、自力での通院が困難な状況になったと仮定した場合、病院への入院と在宅医療のどちらを選択したいと思うか（本人の意思で自由に治療方法を選択できるものとする）

- ・回答者自身が通院困難な状況になった時の選択は、「入院」が1,259人（57.9%）で最も多く、「在宅医療」という回答は446人（20.5%）となっている。
- ・属性別では、年代が高くなるほど「入院」の割合が増える。また、疾患のある回答者についても「入院」の割合が高くなっている。

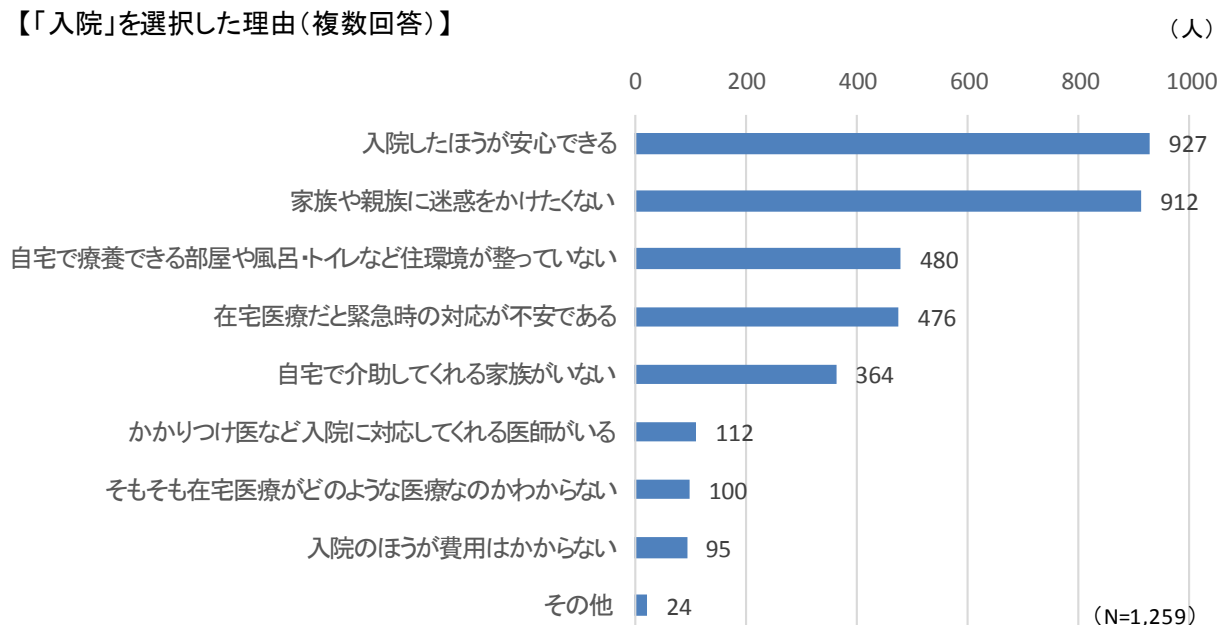
【回答者自身が通院困難になった場合】



問 10 問 9 で「入院」を選択した理由（複数回答）

- ・入院を選択した理由は、「入院したほうが安心できる」が 927 人（73.6%）で最も多く、次いで「家族や親族に迷惑をかけたくない」が 912 人（72.4%）となっている。
- ・属性別では、年代が高いほど「入院したほうが安心できる」や「自宅で介護してくれる家族がいない」の割合が多くなっている。

【「入院」を選択した理由（複数回答）】

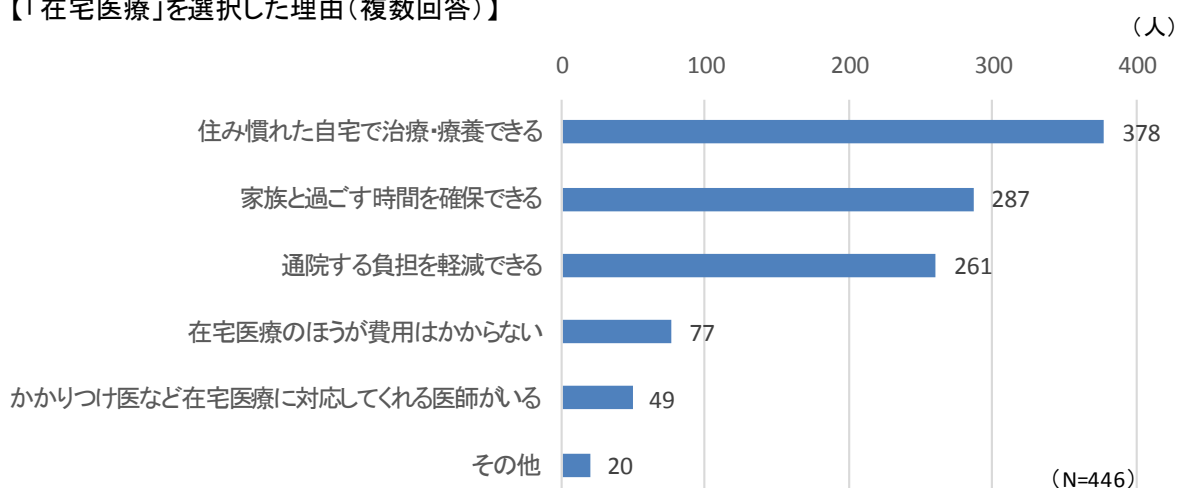


【属性クロス表】	全体	年代				性別		疾患の有無	
		10～20	30～40	50～60	70 以上	男性	女性	あり	なし
入院したほうが安心できる	73.6%	59.5%	66.9%	71.7%	85.3%	76.0%	71.8%	78.6%	69.3%
在宅医療だと緊急時の対応が不安である	37.8%	48.1%	37.6%	35.5%	38.8%	39.4%	36.4%	38.9%	37.4%
自宅で介護してくれる家族がいない	28.9%	11.4%	22.6%	30.5%	34.8%	20.8%	35.1%	32.4%	25.0%
家族や親族に迷惑をかけたくない	72.4%	72.2%	83.3%	75.0%	60.1%	69.9%	74.7%	69.0%	76.4%
入院のほうが費用はかからない	7.5%	5.1%	7.3%	7.0%	8.5%	6.5%	8.2%	7.5%	7.2%
自宅で療養できる部屋や風呂・トイレなど住環境が整っていない	38.1%	21.5%	39.4%	40.4%	37.1%	32.9%	42.1%	38.7%	37.1%
かかりつけ医など入院に対応してくれる医師がいる	8.9%	8.9%	7.3%	6.6%	13.9%	9.5%	8.6%	10.9%	7.3%
そもそも在宅医療がどのような医療なのかわからない	7.9%	11.4%	4.9%	6.6%	11.9%	8.4%	7.9%	10.2%	5.9%
その他	1.9%	1.3%	2.1%	1.8%	2.3%	1.5%	2.3%	2.7%	1.2%

問 11 問 9 で「在宅医療」を選択した理由（複数回答）

- ・在宅医療を選択した理由は、「住み慣れた自宅で治療・療養できる」が 378 人（84.8%）で最も多く、次いで「家族と過ごす時間を確保できる」が 287 人（64.3%）、「通院する負担を軽減できる」が 261 人（58.5%）となっている。
- ・属性別では、40 代までは「家族と過ごす時間を確保できる」が多く、50 代以上では「在宅医療のほうで費用はかからない」が多くなっている。

【「在宅医療」を選択した理由（複数回答）】

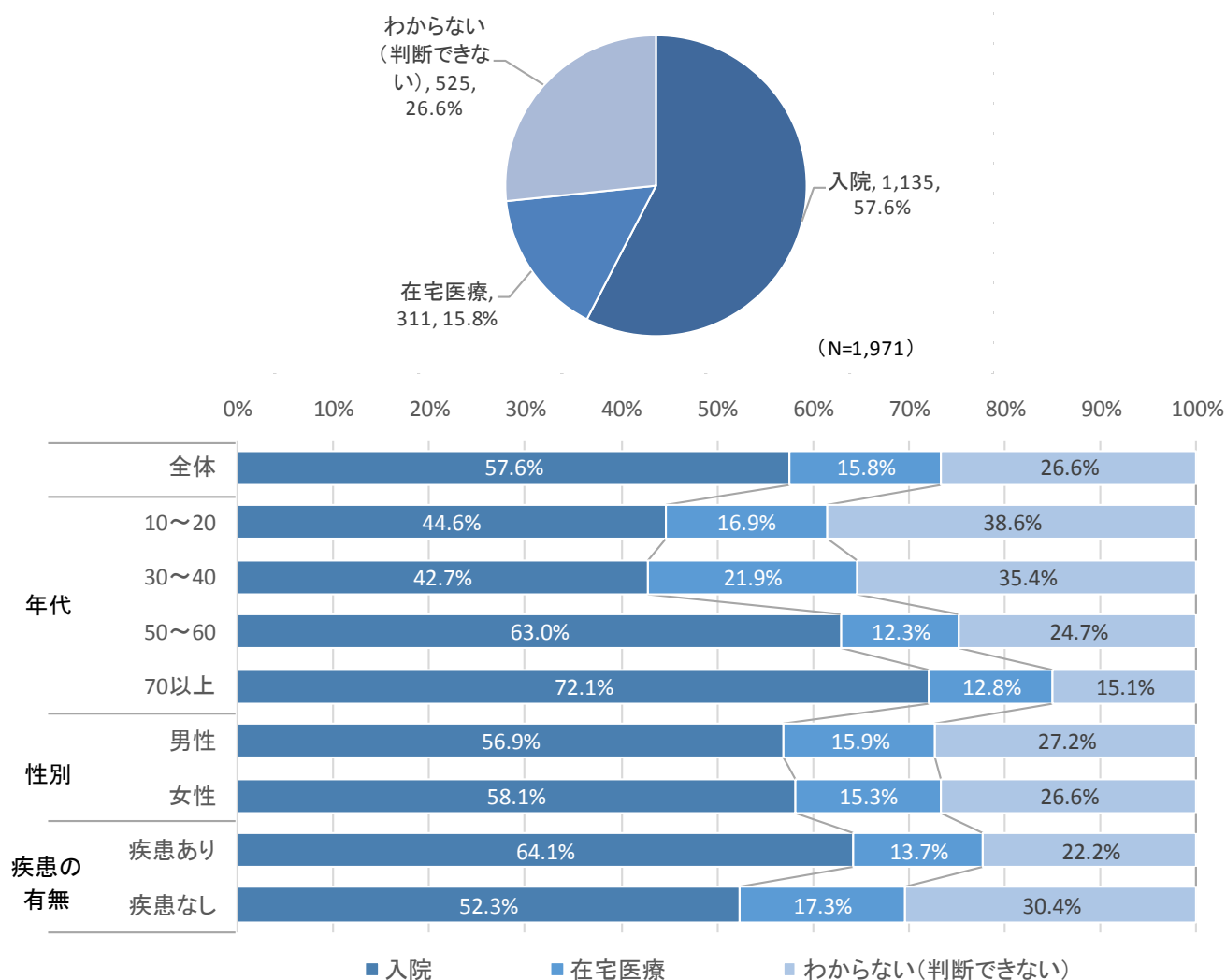


【属性クロス表】	全体	年代				性別		疾患の有無	
		10～20	30～40	50～60	70 以上	男性	女性	あり	なし
住み慣れた自宅で治療・療養できる	84.8%	88.9%	86.7%	81.7%	83.1%	83.0%	86.2%	86.3%	83.7%
家族と過ごす時間を確保できる	64.3%	74.1%	72.7%	57.9%	51.8%	65.3%	64.0%	59.0%	67.3%
通院する負担を軽減できる	58.5%	57.4%	61.8%	59.5%	54.2%	55.7%	61.1%	62.7%	56.7%
在宅医療のほうで費用はかからない	17.3%	13.0%	11.5%	20.6%	27.7%	19.3%	15.4%	20.5%	15.2%
かかりつけ医など在宅医療に対応してくれる医師がいる	11.0%	13.0%	4.2%	8.7%	25.3%	9.7%	10.9%	14.3%	8.4%
その他	4.5%	3.7%	5.5%	4.8%	1.2%	4.5%	4.0%	5.0%	3.8%

問 12 今後、あなたの身近な人（同居している方を想定）が生涯にわたって治療を必要とする病気になり、自力での通院が困難な状況になったと仮定した場合、入院と在宅医療のどちらを選択してほしいか

- ・同居家族など身近な人が通院困難な状況になった時の選択は、「入院」が 1,135 人（57.6%）で最も多く、「在宅医療」という回答は 311 人（15.8%）となっている。
- ・属性別では、年代が高くなるほど「入院」の割合が増える。また、疾患のある回答者についても「入院」の割合が高くなっている。これは、回答者自身の質問と同じ傾向である。

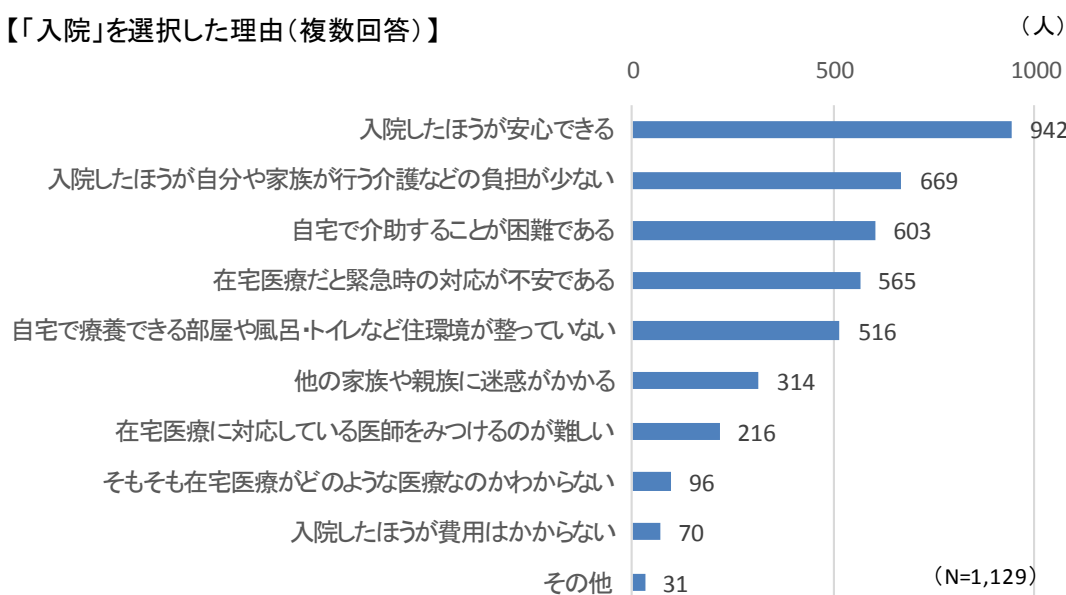
【身近な人が通院困難になった場合】



問 13 問 12 で「入院」を選択した理由（複数回答）

- ・入院を選択した理由は、「入院したほうが安心できる」が 942 人（83.4%）で最も多く、次いで「入院したほうが自分や家族が行う介護などの負担が少ない」が 669 人（59.3%）、「自宅で介助することが困難である」が 603 人（53.4%）となっている。
- ・属性別では、70 歳以上で「入院したほうが安心できる」が 9 割を超えている。また、女性は「自宅で介助することが困難である」や「自宅で療養できる部屋や風呂・トイレなど住環境が整っていない」の割合が 5 割を超えている。

【「入院」を選択した理由（複数回答）】

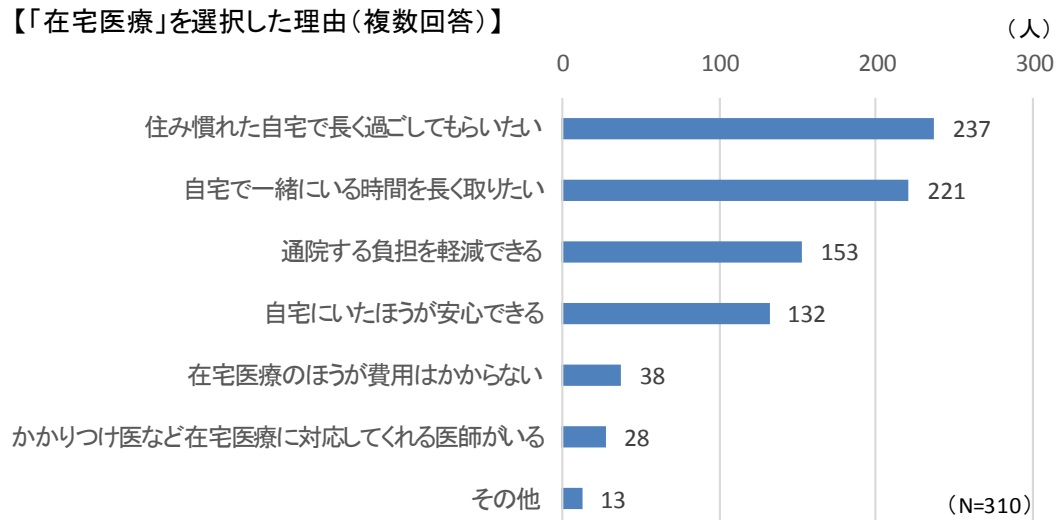


【属性クロス表】	全体	年代				性別		疾患の有無	
		10～20	30～40	50～60	70 以上	男性	女性	あり	なし
入院したほうが安心できる	83.4%	80.8%	85.7%	78.8%	90.3%	83.2%	84.3%	84.9%	82.3%
在宅医療だと緊急時の対応が不安である	50.0%	65.8%	56.3%	48.1%	44.2%	48.1%	51.3%	46.7%	53.6%
自宅で介助することが困難である	53.4%	45.2%	53.8%	53.2%	55.8%	48.6%	57.0%	56.0%	51.4%
入院したほうが自分や家族が行う介護などの負担が少ない	59.3%	50.7%	62.2%	62.6%	54.2%	58.0%	60.2%	59.7%	59.6%
他の家族や親族に迷惑がかかる	27.8%	9.6%	24.8%	31.4%	28.2%	26.0%	29.0%	27.2%	28.2%
入院したほうが費用はかからない	6.2%	0.0%	6.7%	6.4%	6.3%	3.9%	7.4%	6.9%	5.2%
自宅で療養できる部屋や風呂・トイレなど住環境が整っていない	45.7%	35.6%	47.5%	50.0%	39.5%	36.5%	52.0%	46.7%	44.4%
在宅医療に対応している医師を見つけるのが難しい	19.1%	17.8%	15.5%	19.9%	20.7%	18.4%	19.7%	19.3%	19.1%
そもそも在宅医療がどのような医療なのかわからない	8.5%	6.8%	5.5%	6.6%	13.5%	9.4%	7.6%	10.5%	6.0%
その他	2.7%	2.7%	2.5%	2.8%	2.5%	1.3%	3.6%	3.8%	1.6%

問 14 問 12 で「在宅医療」を選択した理由（複数回答）

- ・在宅医療を選択した理由は、「住み慣れた自宅で長く過ごしてもらいたい」が 237 人（76.5%）で最も多く、次いで「自宅で一緒にいる時間を長く取りたい」が 221 人（71.3%）で多い。
- ・属性別では、40 代までは「自宅で一緒にいる時間を長く取りたい」が多くなっている。

【「在宅医療」を選択した理由（複数回答）】



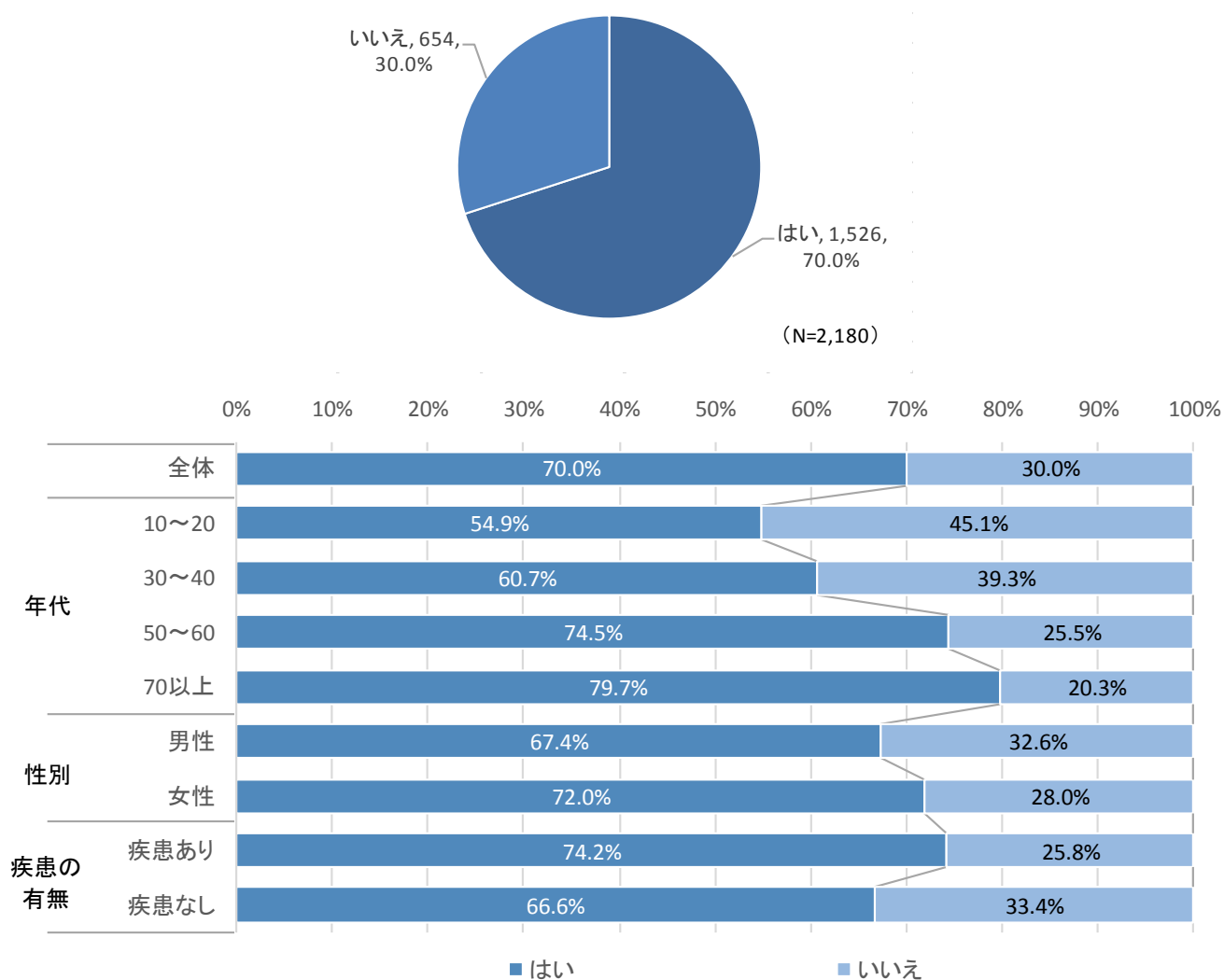
【属性クロス表】	全体	年代				性別		疾患の有無	
		10～20	30～40	50～60	70 以上	男性	女性	あり	なし
自宅にいたほうが安心できる	42.6%	39.3%	45.5%	32.6%	54.4%	41.7%	42.3%	43.8%	41.5%
自宅で一緒にいる時間を長く取りたい	71.3%	100.0%	78.5%	64.1%	57.9%	74.8%	70.2%	69.6%	73.8%
住み慣れた自宅で長く過ごしてもらいたい	76.5%	85.7%	71.9%	82.6%	68.4%	74.8%	76.8%	76.8%	74.9%
通院する負担を軽減できる	49.4%	53.6%	49.6%	45.7%	56.1%	48.8%	50.6%	49.1%	50.8%
在宅医療のほうが費用はかからない	12.3%	10.7%	8.3%	9.8%	24.6%	14.2%	9.5%	13.4%	10.4%
かかりつけ医など在宅医療に対応してくれる医師がいる	9.0%	14.3%	1.7%	5.4%	28.1%	11.0%	6.5%	10.7%	7.7%
その他	4.2%	0.0%	5.0%	5.4%	3.5%	3.1%	5.4%	5.4%	3.8%

《歯科治療に関する意識》

問 15 かかりつけの歯科診療所の有無

- ・ かかりつけの歯科診療所の有無について、「はい」という回答が 1,526% (70.0%) となっている。
- ・ 属性別では、年代が高い方が「はい」という回答が多くなっている。

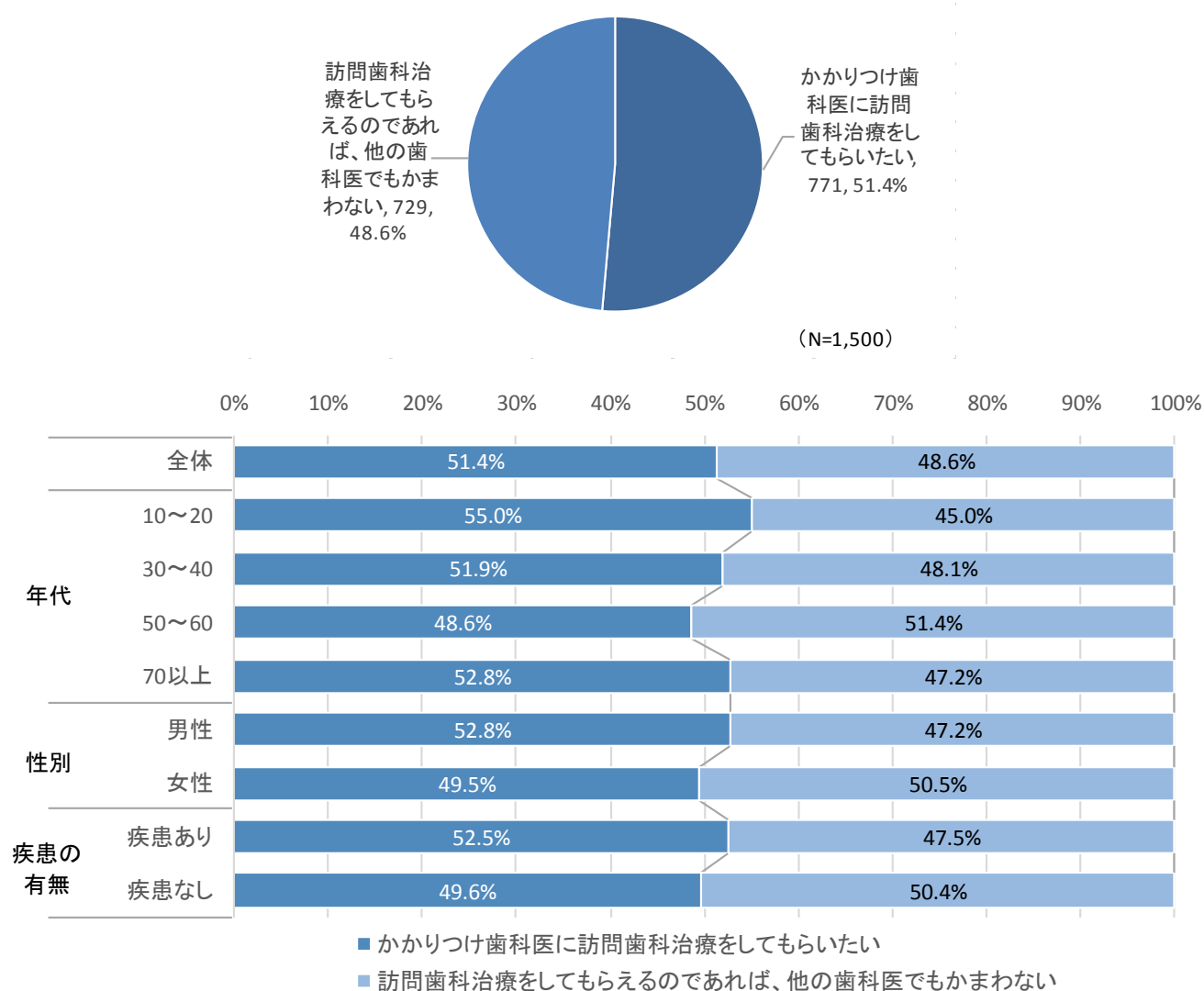
【かかりつけの歯科診療所はありますか】



**問 16 訪問歯科治療を受ける場合に、かかりつけ歯科医を希望するか
(かかりつけの歯科診療所がある回答者)**

- ・ 訪問歯科治療を受けるとした場合にかかりつけ歯科医による訪問診療を希望する人は、771 人（51.4%）で約半数。
- ・ 年代・性別による大きな違いはない。

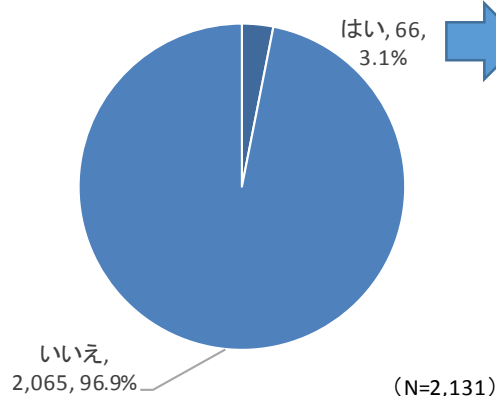
【訪問歯科治療に、かかりつけ歯科医を希望するか】



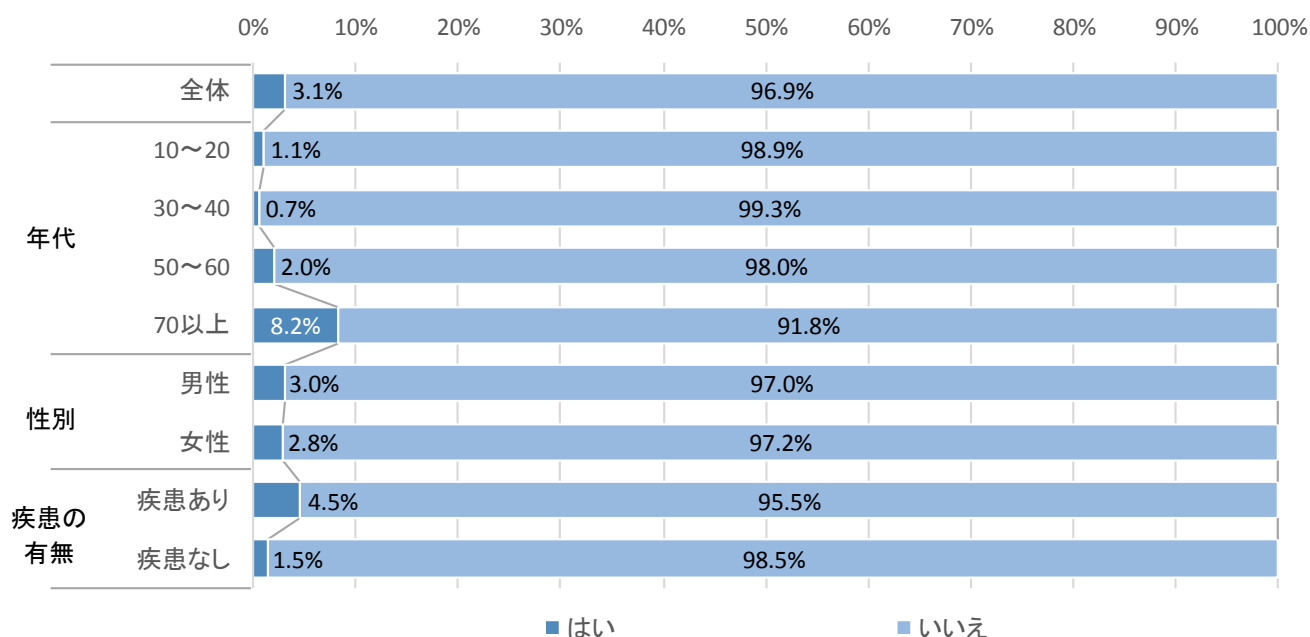
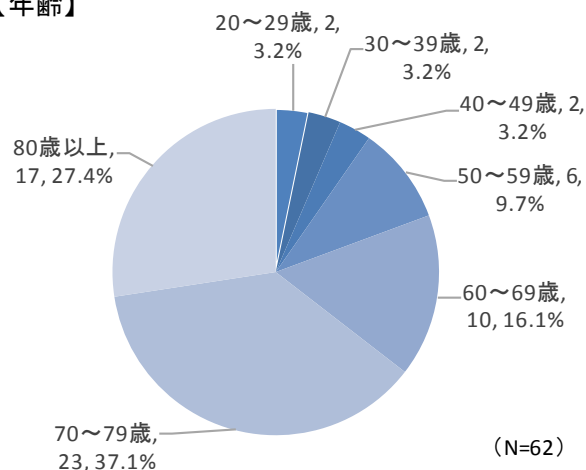
問 17 訪問歯科治療の受診状況

- ・現在、訪問歯科治療を受けているのは 66 人 (3.1%) となっている。
- ・属性別では、「70 歳以上」や「疾患あり」の人で、訪問歯科治療を受けている割合が高くなっている。
- ・訪問歯科診療を受けている人を年齢別に見ると、「70～79 歳」が 23 人 (37.1%) で最も多く、次いで「80 歳以上」が 17 人 (27.4%) となっている。70 歳以上で 64.5%、60 歳以上で 80.6%となっている。

【訪問歯科治療を受けていますか】



【年齢】



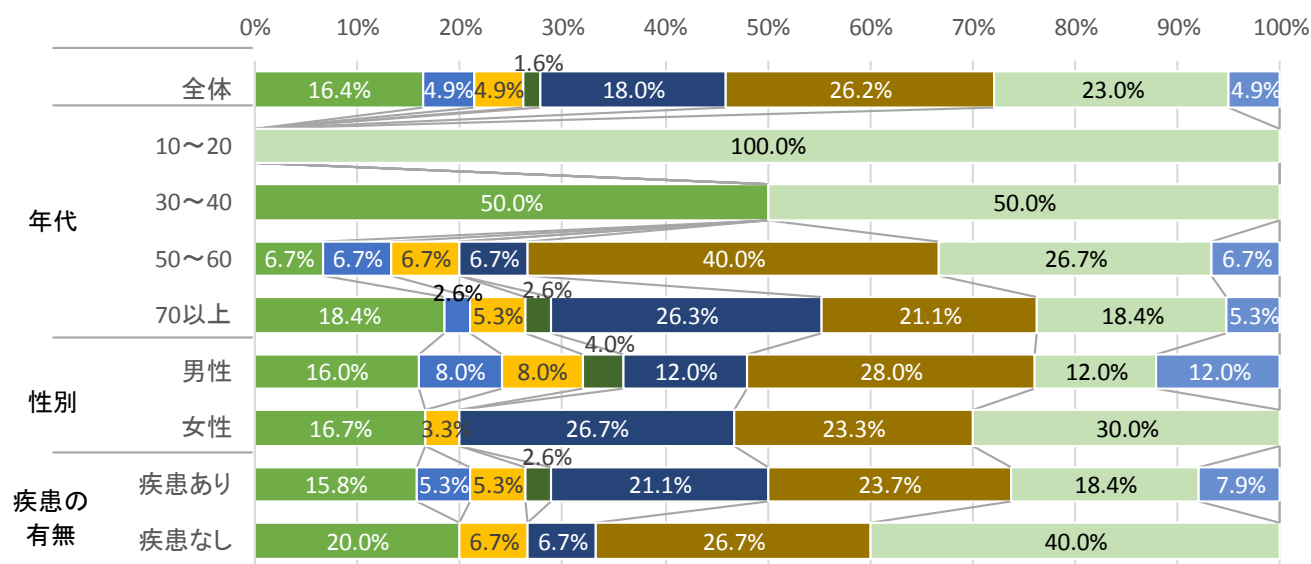
問 18 訪問歯科治療を受けている歯科医の紹介者

- ・訪問歯科診療を受けている歯科医の紹介者は、「親族や友人・知人からの紹介」が 16 人 (26.2%) で最も多く、次いで「紹介を受けずに自分(または家族)で探した」が 14 人 (23.0%)、「ケアマネジャーなど介護職員からの紹介」が 11 人 (18.0%)、「かかりつけ歯科医(または通院経験のある歯科医)の訪問歯科治療を受けている」が 10 人 (16.4%) となっている。
- ・属性別では、年代が低いほど自分で探す人が多い一方、70 歳以上では「ケアマネジャーなど介護職員からの紹介」が最も多くなっている。

【訪問歯科治療を受けている歯科医の紹介者】



※「かかりつけ歯科医」には「通院経験のある歯科医」を含む

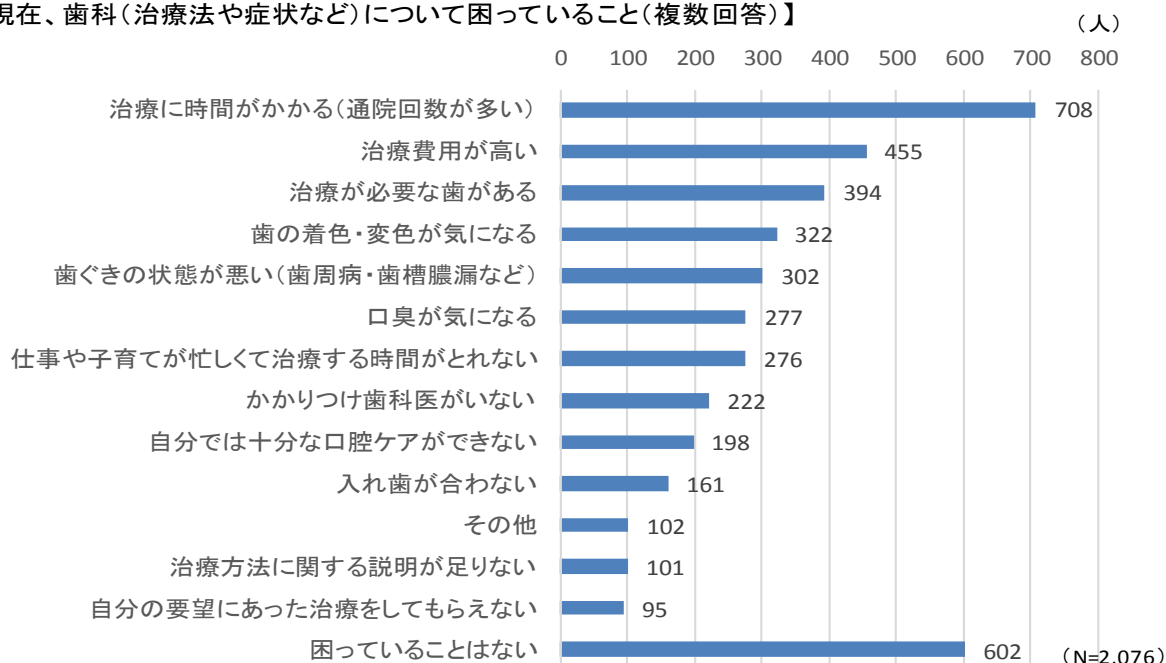


- かかりつけ歯科医(または通院経験のある歯科医)の訪問歯科治療を受けている
- かかりつけ歯科医(または通院経験のある歯科医)からの紹介
- 診療所などのかかりつけ医からの紹介
- 訪問薬剤師、訪問看護師など医療関係者からの紹介
- ケアマネジャーなど介護職員からの紹介
- 親族や友人・知人からの紹介
- 紹介を受けずに自分(または家族)で探した
- その他

問 19 現在、歯科（治療法や症状など）について困っていること（複数回答）

- ・ 歯科（治療法や症状など）について困っていることは、「治療に時間がかかる（通院回数が多い）」が 708 人（34.1%）で最も多く、次いで「治療費用が高い」が 455 人（21.9%）、「治療が必要な歯がある」が 394 人（19.0%）となっている。また、「困っていることはない」という回答は 602 人（29.0%）となっている。
- ・ 属性別では、40 代までは「治療に時間がかかる（通院回数が多い）」の割合が 4 割を超えて高く、70 歳以上では「困っていることはない」が 4 割を超えている。

【現在、歯科（治療法や症状など）について困っていること（複数回答）】

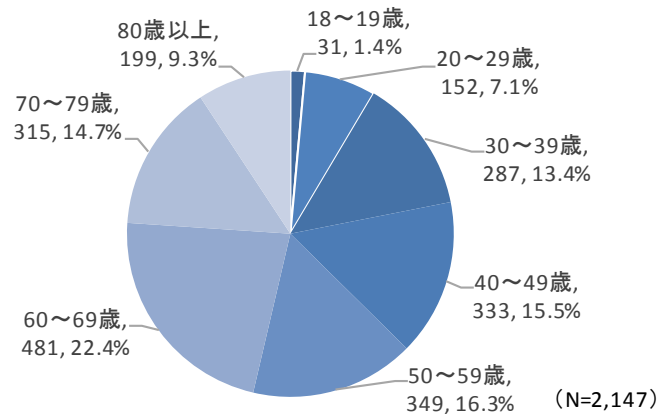


【属性クロス表】	全体	年代				性別		疾患の有無	
		10～20	30～40	50～60	70 以上	男性	女性	あり	なし
かかりつけ歯科医がいない	10.7%	11.7%	13.7%	9.7%	7.9%	9.5%	11.5%	10.2%	11.1%
自分の要望にあった治療を してもらえない	4.6%	2.2%	5.4%	5.3%	3.0%	3.8%	5.1%	4.7%	4.4%
治療方法に関する説明が足りない	4.9%	3.9%	5.5%	5.7%	3.0%	4.6%	5.1%	5.0%	4.9%
治療費用が高い	21.9%	26.8%	28.0%	24.3%	7.9%	19.6%	24.1%	18.8%	24.6%
治療に時間がかかる (通院回数が多い)	34.1%	41.9%	44.5%	32.8%	20.1%	32.5%	35.9%	30.3%	38.0%
治療が必要な歯がある	19.0%	18.4%	16.4%	21.1%	18.5%	18.2%	19.4%	21.7%	16.8%
歯ぐきの状態が悪い (歯周病・歯槽膿漏など)	14.5%	5.0%	11.7%	18.0%	15.5%	16.4%	12.9%	18.6%	11.4%
入れ歯が合わない	7.8%	0.0%	1.0%	8.2%	19.2%	8.8%	6.8%	13.2%	3.1%
歯の着色・変色が気になる	15.5%	21.8%	21.3%	12.8%	8.8%	13.0%	17.1%	13.6%	16.8%
口臭が気になる	13.3%	10.6%	13.4%	15.7%	9.5%	13.7%	12.9%	14.4%	12.1%
自分では十分な口腔ケアができない	9.5%	9.5%	9.8%	8.1%	11.1%	9.5%	9.2%	10.8%	8.2%
仕事や子育てが忙しくて 治療する時間がとれない	13.3%	20.7%	28.5%	7.0%	0.7%	11.0%	15.3%	7.4%	18.1%
困っていることはない	29.0%	27.4%	20.8%	29.7%	40.2%	30.9%	27.6%	29.2%	29.3%
その他	4.9%	2.8%	4.6%	4.9%	5.5%	3.4%	5.8%	5.6%	3.9%

《回答者自身について》

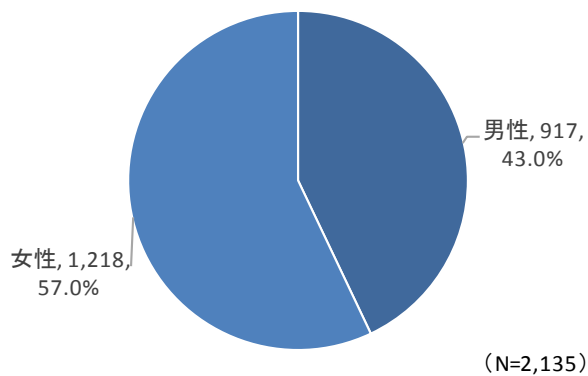
問 21 年齢

- ・回答者の年齢は60歳代が最も多く、60歳以上の年代で46.3%となっている。



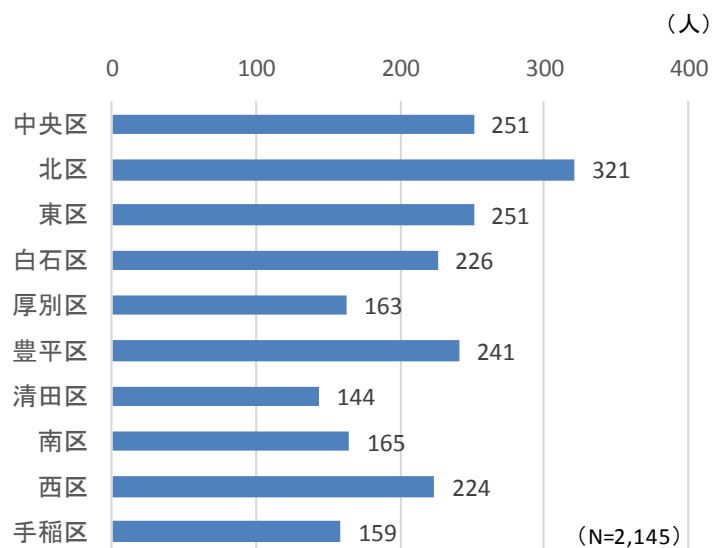
問 22 性別

- ・性別は「女性」が1,218人（57.0%）で多くなっている。



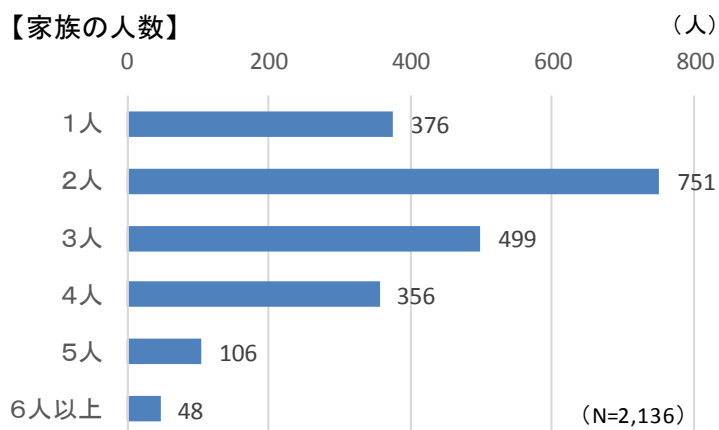
問 23 居住区

- ・居住区は「北区」が321人（15.0%）で最も多くなっている。



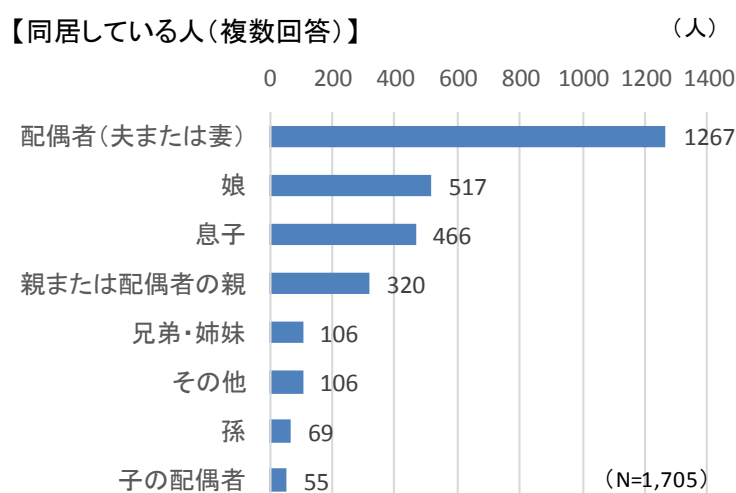
問 24 家族の人数（二世帯住宅の場合はすべてを含んだ同居人数、回答者自身を含む）

- ・家族の人数は「2人」が751人（35.2%）で最も多くなっている。
- ・属性別では、70歳以上で「2人」が5割を超えている（51.4%）。また、70歳以上で一人暮らしは21.9%となっている。



問 24-1 同居者（複数回答）

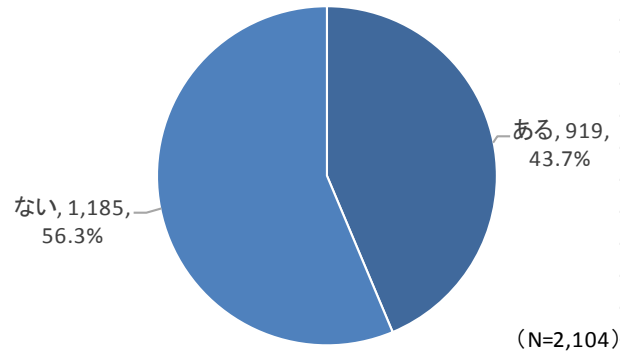
- ・同居の家族は「配偶者（夫または妻）」が1,267人（74.3%）で最も多くなっている。
- ・属性別では、70歳以上で「息子」または「娘」と同居しているのは42.8%。



問 25 現在治療中の疾患の有無

- ・現在治療中の疾患が「ある」と回答したのは919人（43.7%）となっている。
- ・属性別では、年代が高くなるに連れて疾患が「ある」と回答する割合が高くなる。

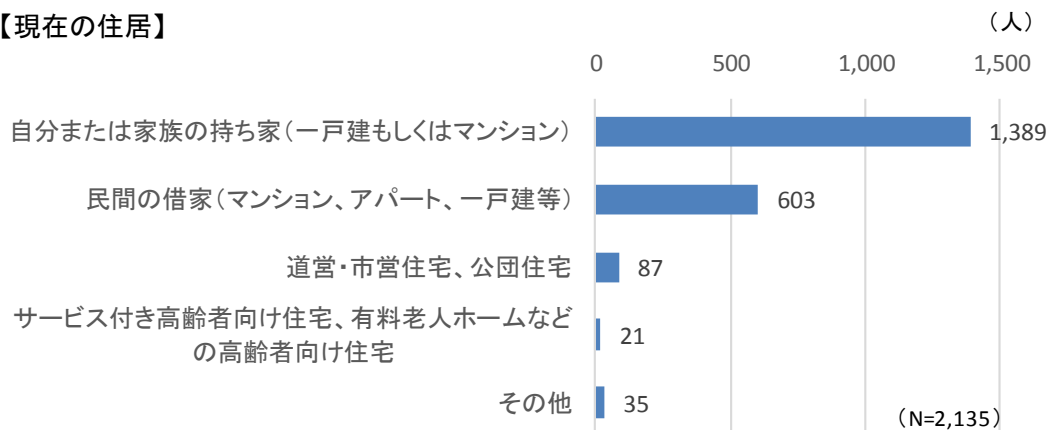
【治療中の疾患】



問 26 現在の住居

- ・現在の住居は、「自分または家族の持ち家（一戸建もしくはマンション）」が1,389人（65.1%）で最も多く、次いで「民間の借家（マンション、アパート、一戸建等）」が603人（28.2%）となっている。
- ・属性別では、年代が低いほど「民間の借家」の割合が高く、年代が高いほど「持ち家」の割合が高くなる。

【現在の住居】



③調査結果のまとめ

【認知度】

- ・「在宅医療」という言葉を「ある程度知っている」と回答したのは1,217人(55.6%)。属性別では、年代が高い方が「ある程度知っていた」という割合が増える。
- ・在宅医療を見たり聞いたりした経験は、「ある」が563件(25.7%)。

【在宅医療の希望者】

- ・病気を治療しながら最期を迎えると仮定した場合に、最後を迎える場所については「自宅」が705件(32.5%)で最も多くなっている。
- ・回答者自身が通院困難になった場合に「在宅医療」を選択する回答者は446人(20.5%)。年代が高くなると「在宅医療」の希望は減少し、「入院」の割合が増える。
- ・回答者の身近な人(同居家族)が通院困難になった場合に「在宅医療」を選択する回答者は311人(15.8%)。回答者自身の場合と同様に、年代が高くなると「入院」を選択する割合が高くなる。
- ・在宅医療という言葉を知っている」と回答した人に限って「在宅医療」を選択した回答者を見ると、回答者自身の場合で249人(20.8%)、身近な人の場合で191人(17.5%)。

【入院を選択する理由】

- ・回答者自身の場合に「入院」を選択した理由は、「入院したほうが安心できる」が927人(73.6%)で最も多く、次いで「家族や親族に迷惑をかけたくない」が912人(72.4%)となっている。
- ・身近な人の場合に「入院」を選択した理由は、「入院したほうが安心できる」が942人(83.4%)で最も多く、次いで「入院したほうが自分や家族が行う介護などの負担が少ない」が669人(59.3%)、「自宅で介助することが困難である」が603人(53.4%)となっている。

【歯科治療について】

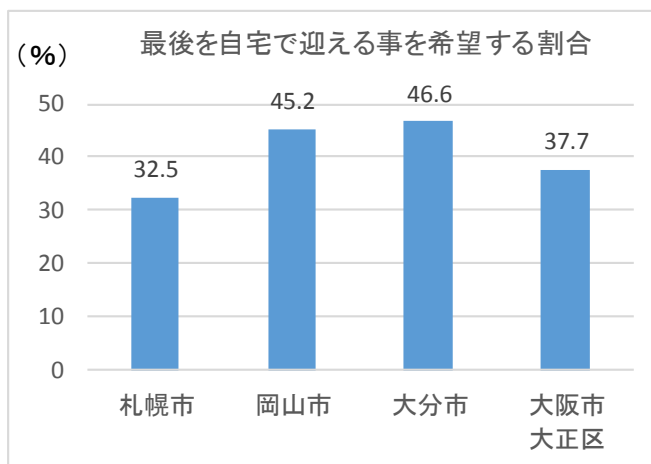
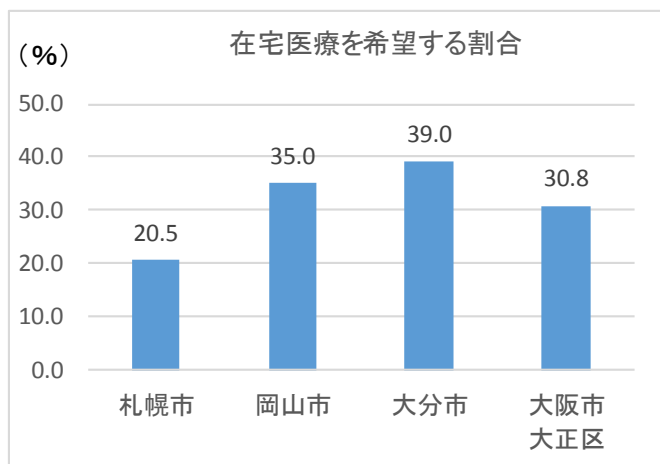
- ・かかりつけの歯科診療所がある回答者は1,526人(70.0%)。
- ・訪問歯科治療を受けるとした場合にかかりつけ歯科医による訪問診療を希望する人は、771人(51.4%)で約半数。
- ・現在、訪問歯科治療を受けているのは66人(3.1%)。年代別では、「70歳以上」で8.2%が訪問歯科治療を受けている。

【参考】在宅医療希望割合に関する他都市との比較

【比較対象】岡山市・大分市・大阪市大正区

【比較項目】在宅医療を希望する割合、最後を自宅で迎える事を希望する割合

【結果】在宅医療を希望する割合、最後を自宅で迎える事を希望する割合、いずれも札幌市は他の都市に比べて5ポイント以上低くなっている。



平成 22 年の国勢調査結果から、各都市の高齢化率・核家族世帯率・高齢夫婦世帯率を比較しても大きな差はなく、家族構成の差は回答結果の要因とはなっていない。

【国勢調査データ（平成 22 年度）】

	人口総数	65 歳以上人口割合	一般世帯数	うち核家族世帯	うち 夫婦のみの世帯	うち 高齢夫婦世帯
札幌市	1,913,545	20.5%	884,750	486,407	183,966	82,888
				55.0%	20.8%	9.4%
岡山市	709,584	21.5%	296,290	161,022	55,872	28,511
				54.3%	18.9%	9.6%
大分市	474,094	20.4%	195,228	114,723	40,923	19,758
				58.8%	21.0%	10.1%
大阪府大正区	69,510	25.4%	30,503	17,120	5,585	3,111
				56.1%	18.3%	10.2%

【比較対象調査】

- ・岡山市：「医療・介護の専門機関や市民に対する在宅医療に関する意識調査」（平成 24 年度）
- ・大分市：「在宅医療と介護に関するアンケート調査（市民意識調査）」（平成 26 年度）
- ・大阪市大正区：アンケート「在宅医療・介護などについて」（平成 27 年度）

3. 既存データの活用による推計分析

(1) 既存データの活用による各種推計値の分析

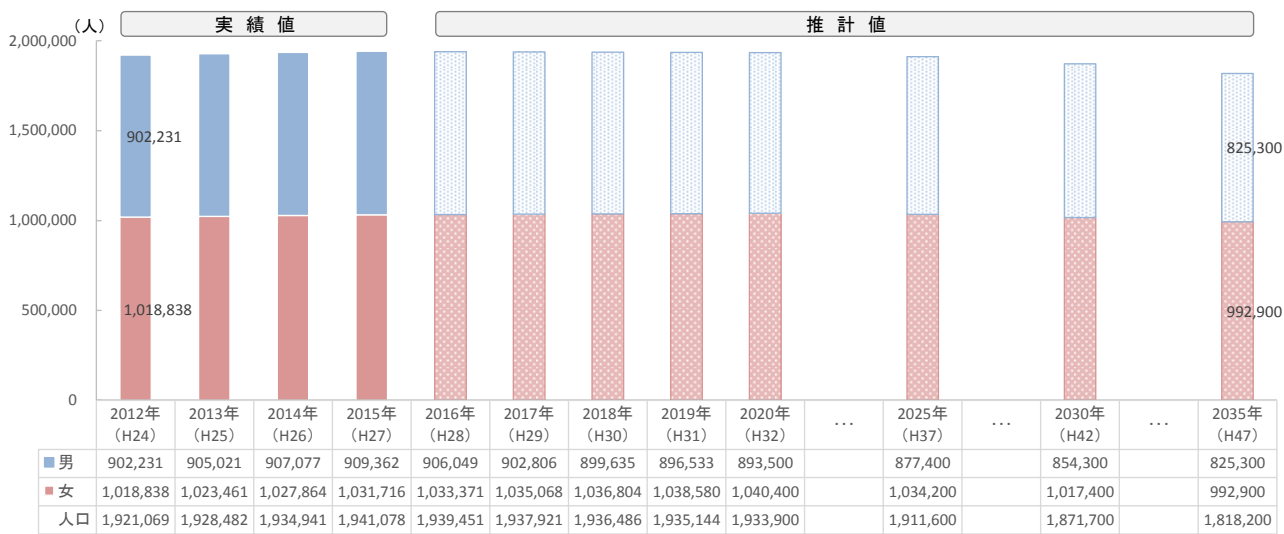
①人口推計

- ・札幌市の2015年（平成27年）の総人口は約194万人（男性が約91万人、女性が約103万人）であるが、20年後の2035年（平成47年）には、約182万人（男性が約83万人、女性が約99万人）となり、約12万人減少する見込みである。
- ・札幌市の高齢者総数は、2015年（平成27年）は約48万人（男性が約20万人、女性が約28万人）で、高齢化率24.5%であるが、20年後の2035年（平成47年）には、高齢者総数が約64万人（男性が約26万人、女性が約38万人）で、高齢化率35.1%となり、高齢者数が約16万人増加し、高齢化率が10.6%増加する見込みである。
- ・各地区でみると、いずれの地区も人口は減少傾向であるが、高齢者数は増加傾向にあり、特に厚別区と手稲区では2035年（平成47年）、南区では2025年（平成37年）に高齢化率が4割を超える見込みとなっており、高齢化が深刻化するものと考えられる。

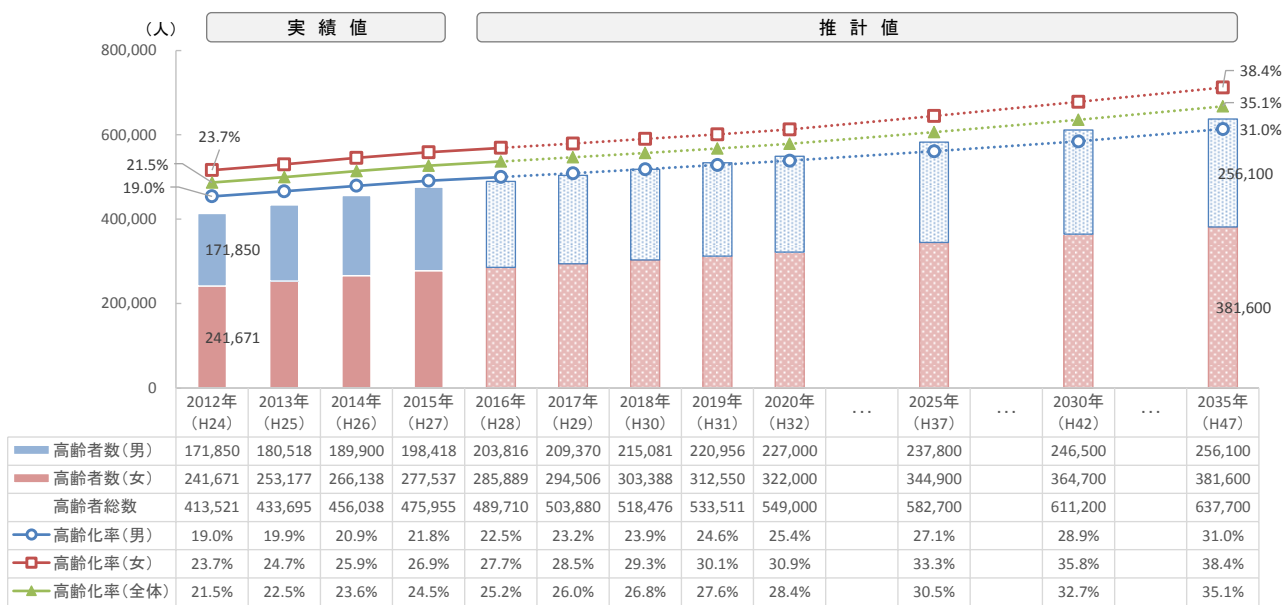
【人口推計の考え方】

- ・ 全市および次頁以降に示す各地区の人口は、2012年（平成24年）～2015年（平成27年）については、各年10月1日の住民基本台帳の実績値を採用した。
- ・ 2020年（平成32年）～2035年（平成42年）については、「さっぽろ未来創生プラン（人口ビジョン編）」の各地区の推計値を採用した。
- ・ 2016年（平成28年）～2019年（平成31年）については、2015年（平成27年）の実績値と2020年（平成32年）の推計値から変化率を算出し推計した。
- ・ なお、全市の推計値は、後述する各地区の推計値の積み上げとした。

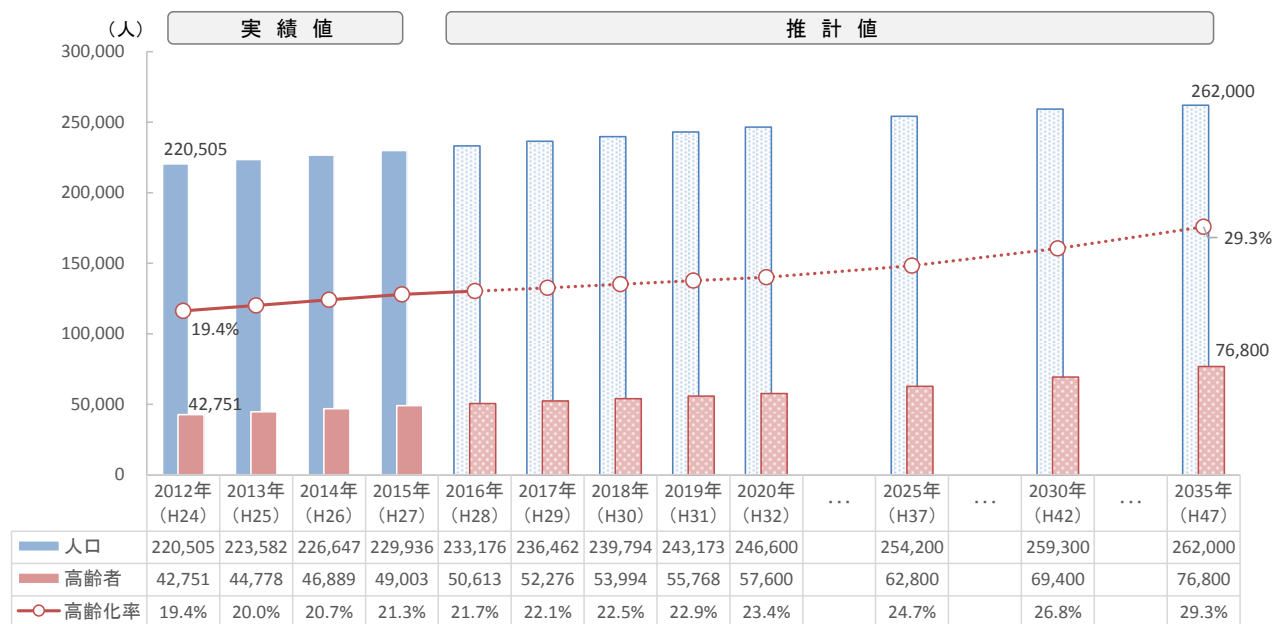
＜全市男女別の人口推移＞



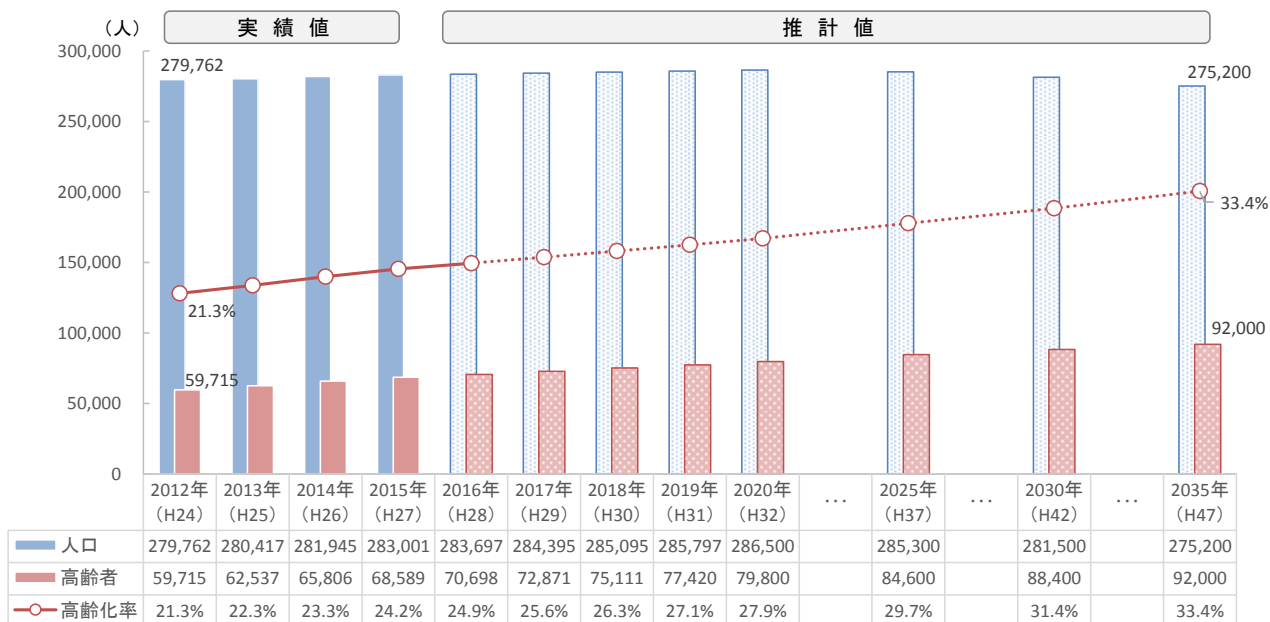
＜全市男女別の高齢者数・高齢化率の推移＞



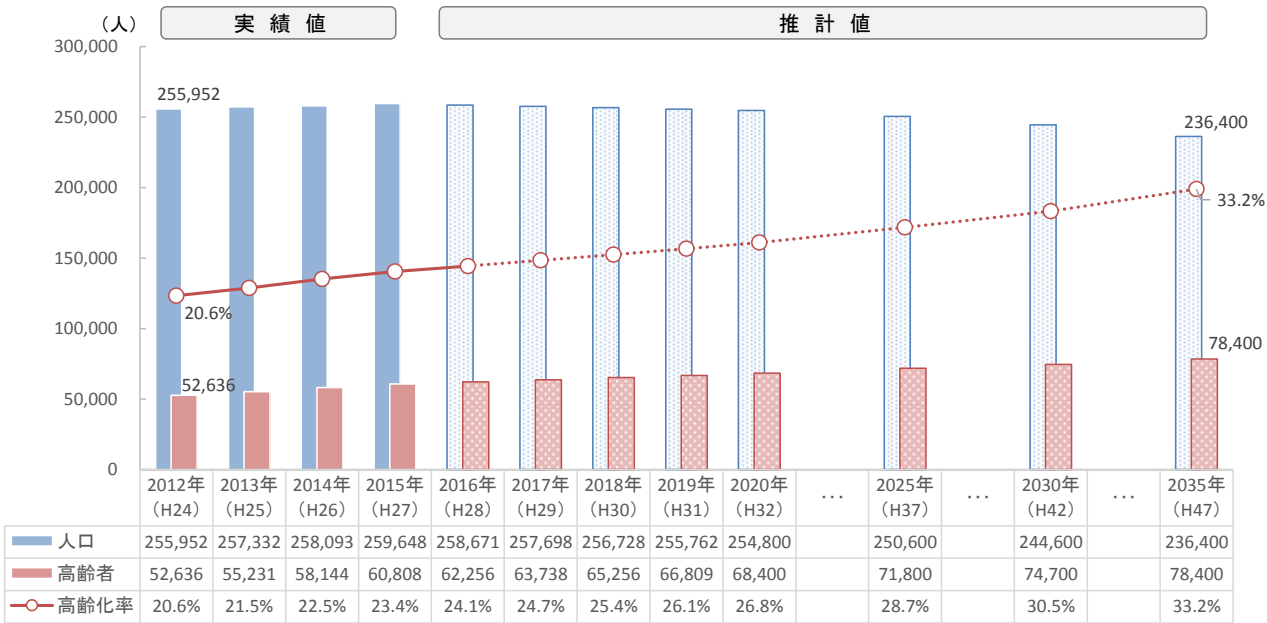
<中央区の人口・高齢者数・高齢化率の推移>



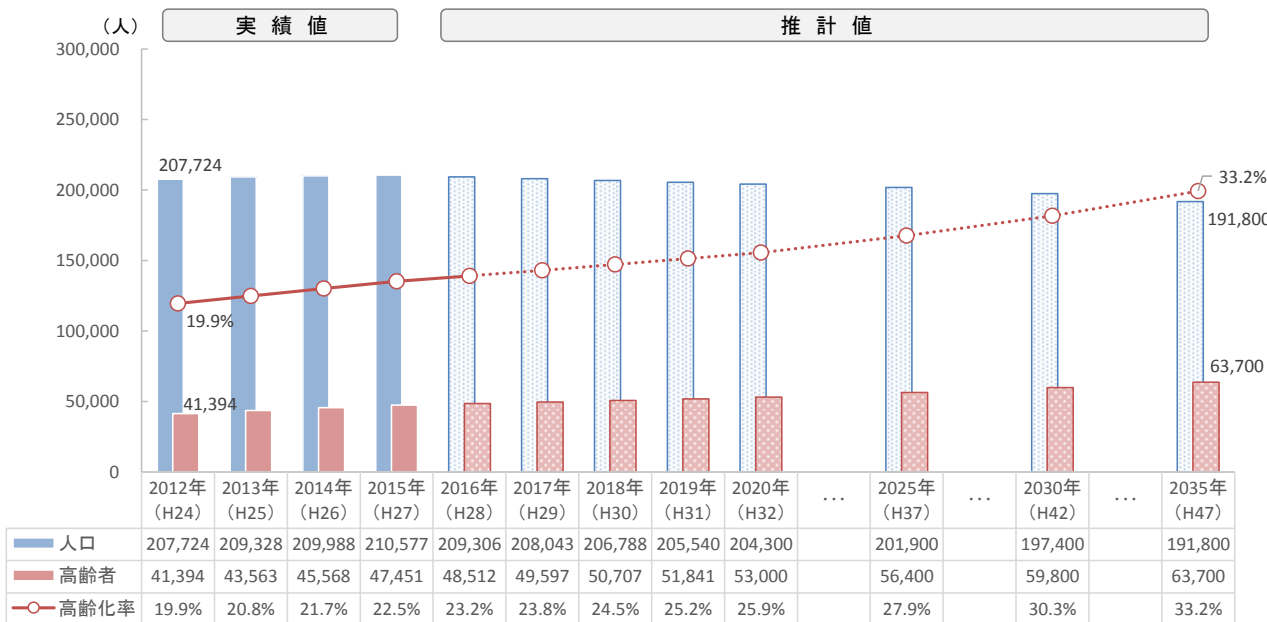
<北区の人口・高齢者数・高齢化率の推移>



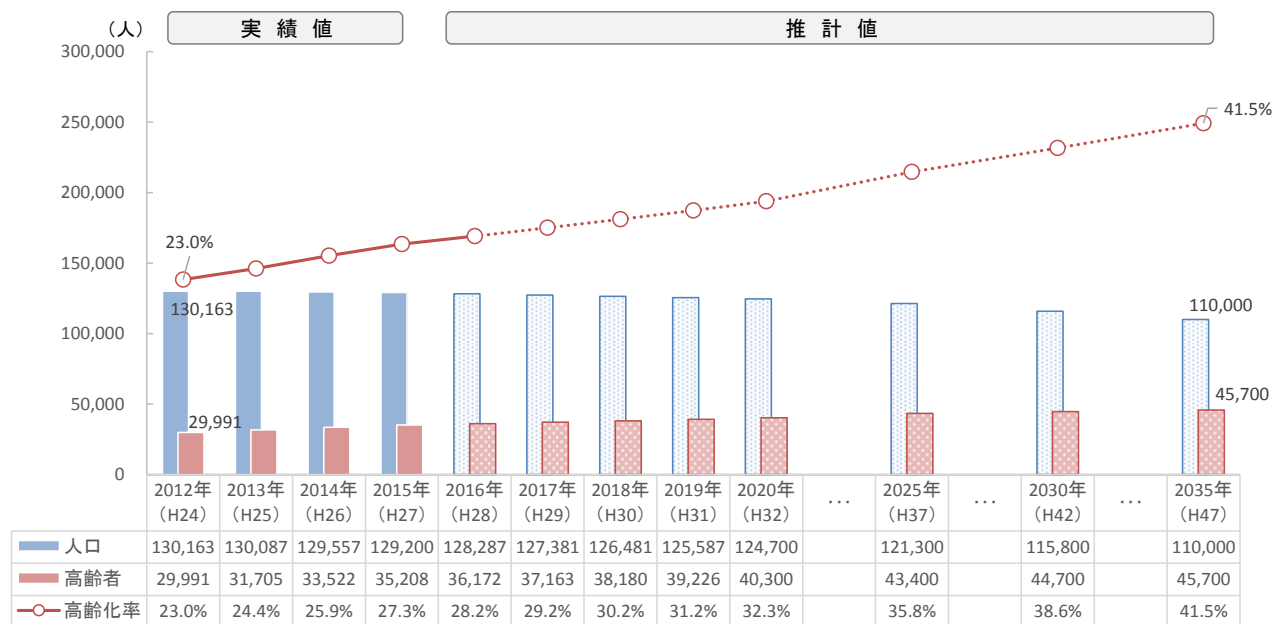
<東区の人口・高齢者数・高齢化率の推移>



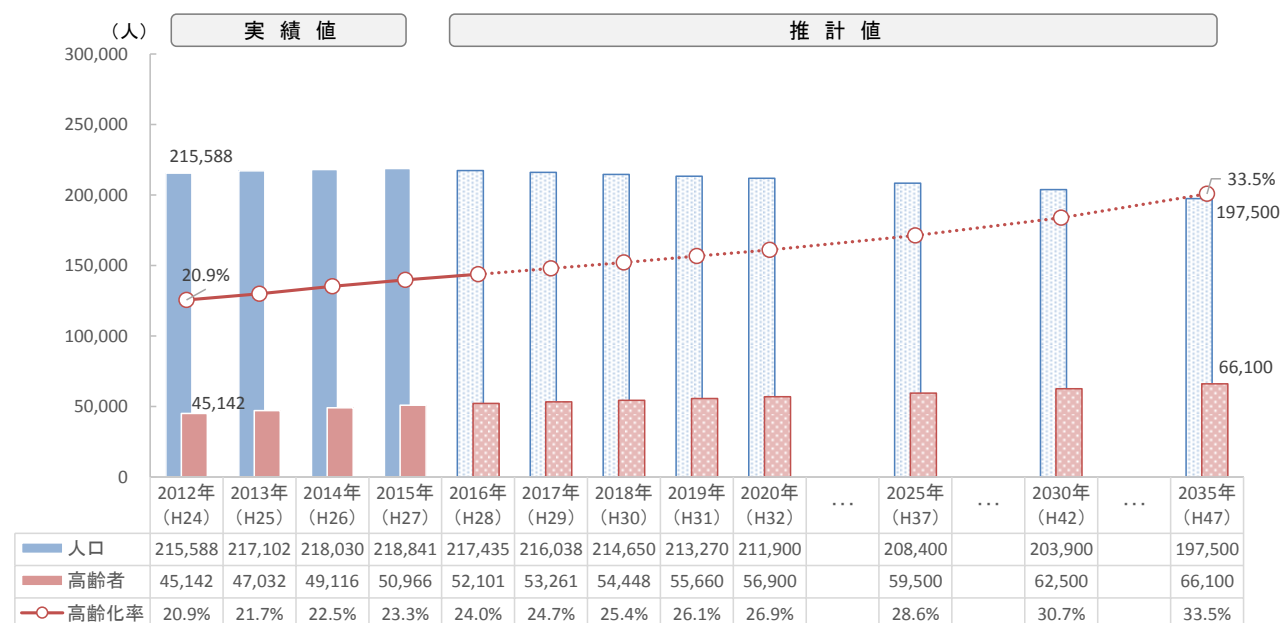
<白石区の人口・高齢者数・高齢化率の推移>



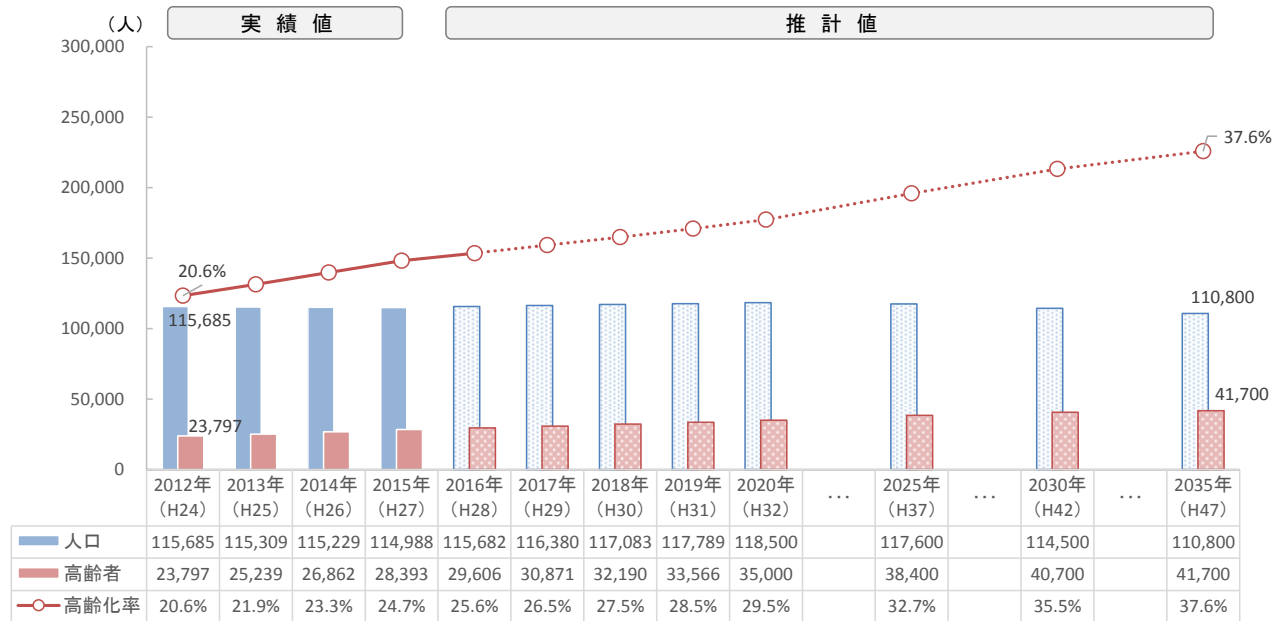
<厚別区の人口・高齢者数・高齢化率の推移>



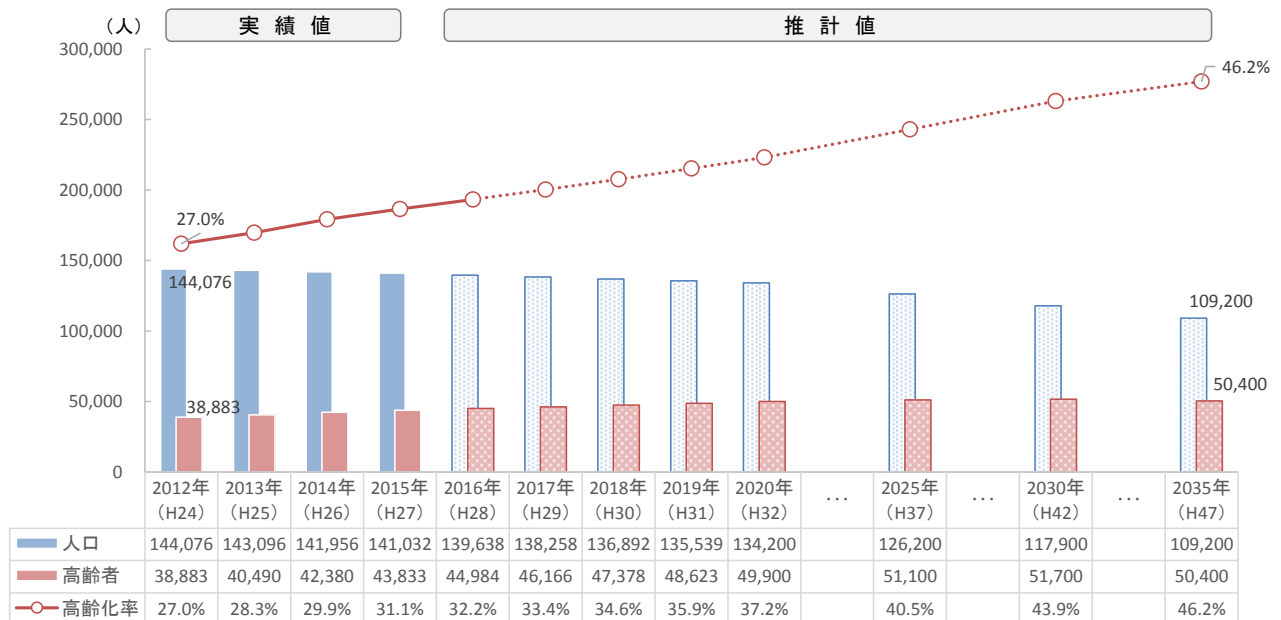
<豊平区の人口・高齢者数・高齢化率の推移>



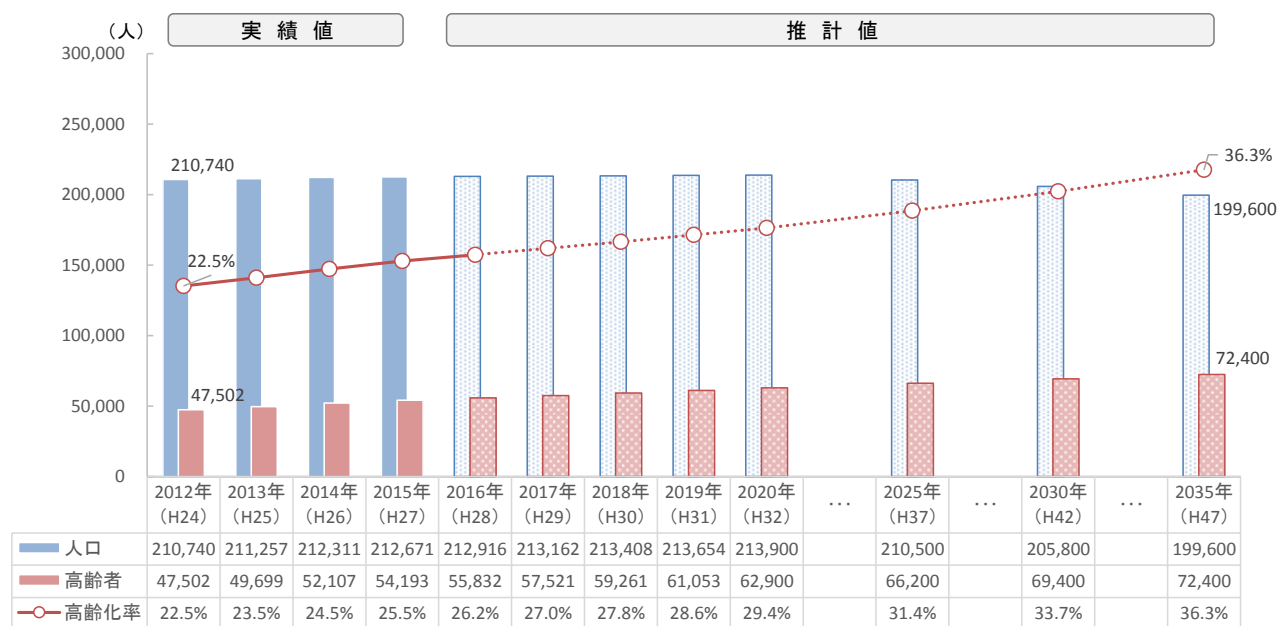
＜清田区の人口・高齢者数・高齢化率の推移＞



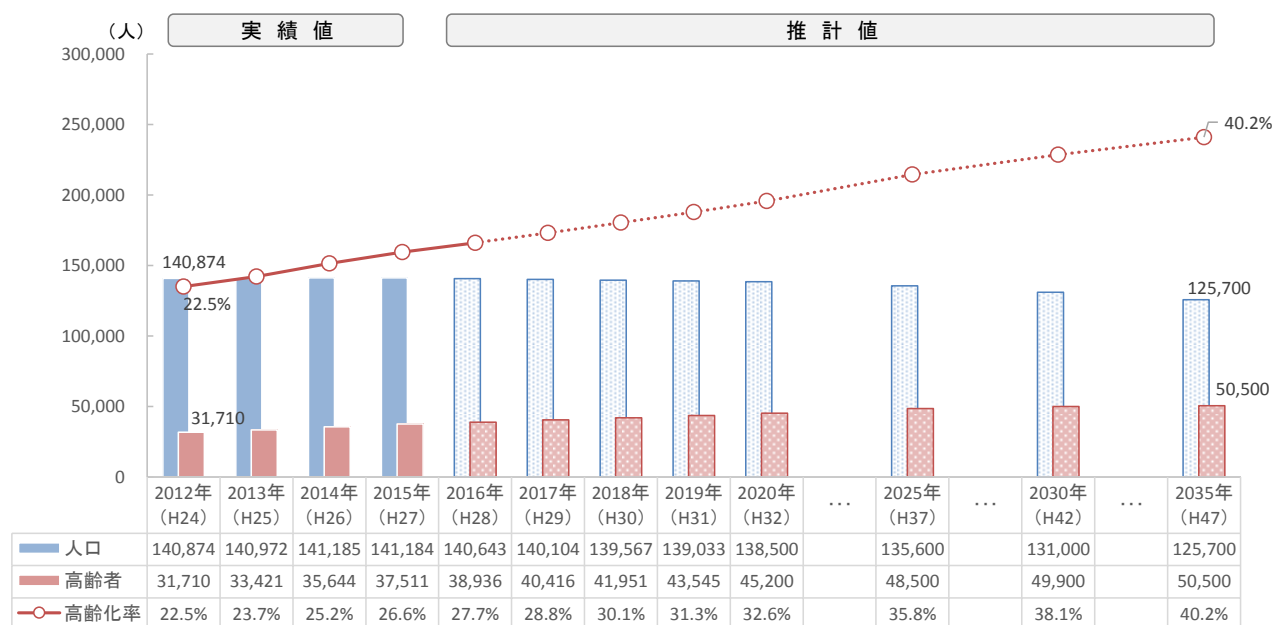
＜南区の人口・高齢者数・高齢化率の推移＞



<西区の人口・高齢者数・高齢化率の推移>



<手稲区の人口・高齢者数・高齢化率の推移>



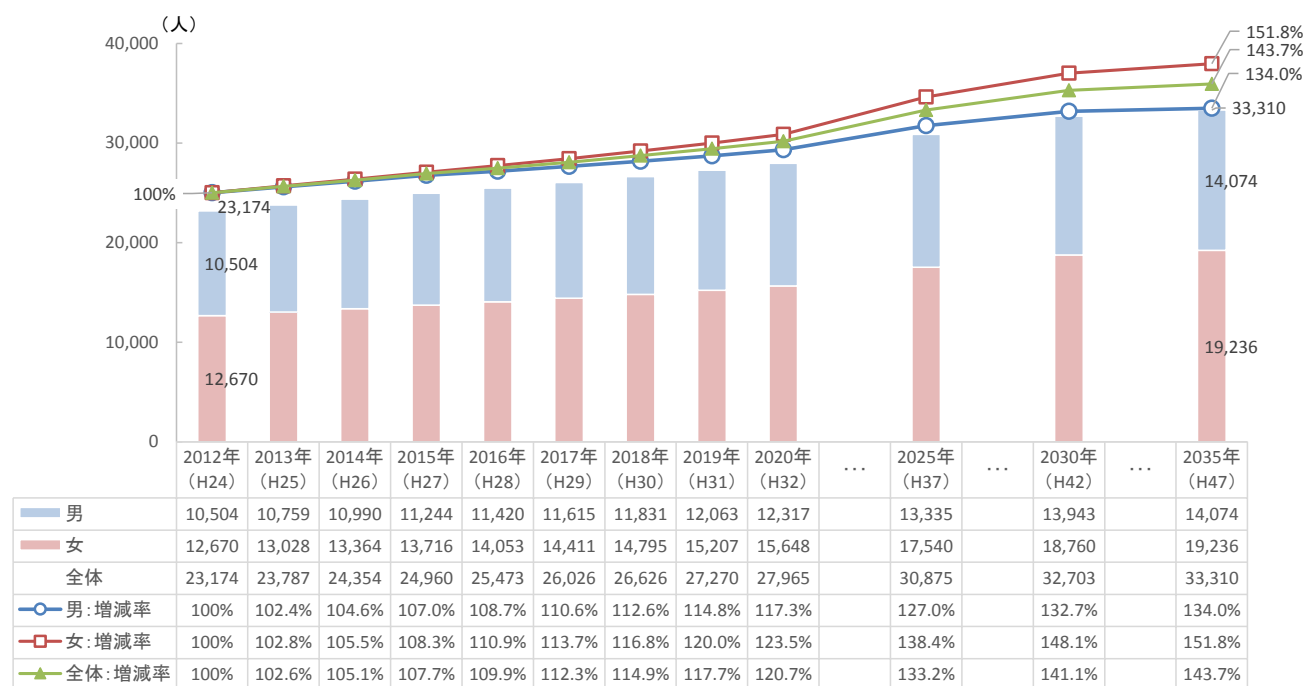
②患者数の推計

- ・札幌市民の1日あたりの入院患者数は、2015年（平成27年）は約2万5千人であるが、2035年（平成47年）には約3万3千人となり、2012年（平成24年）と比べ、全体で約4割程度増加することが見込まれる。
- ・札幌市民の1日あたりの外来患者数は、2015年（平成27年）は約8万9千人であるが、2035年（平成47年）には約10万人となり、2012年（平成24年）と比べ、全体で約1割程度増加することが見込まれる。
- ・地区別にみると、多くの地区で全市と同様の傾向となっているが、中央区、清田区、手稲区では、2035年（平成47年）の入院患者数や外来患者数の増加率が全市を上回っているのが特徴的である。また、唯一、南区は2020年（平成32年）に外来患者数の増加率がピークを迎え、それ以降減少傾向に転じている。

【患者数推計の考え方】

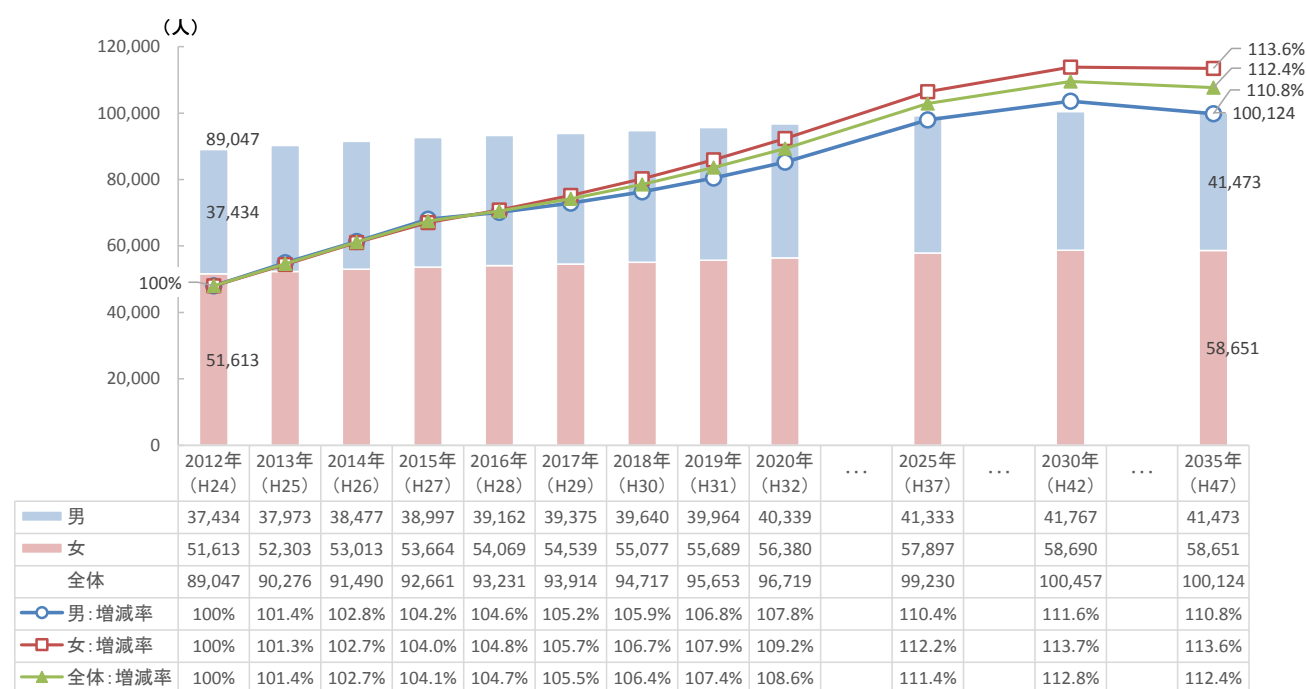
- ・ 地域の外来患者数および入院患者数は、一般的に受療率^{※1}に人口を積算することによって算出される。
 - ※1 受療率とは、人口に対する入院患者や外来患者の割合を算出する数値で、厚生労働省が3年に1度実施する「患者調査」で公表される。一般的に「0～4歳」で高く、「15～24歳」で低く、その後は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がある。ただし、受療率は、患者調査の調査期間である10月中旬の3日間のうち、調査対象の医療施設ごとに定める1日に、病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者の推計数という性質上、過去の数値と連動しておらず、あくまでも一つの目安となる数値である。
- ・ 本調査においては、平成26年患者調査の都道府県別受療率の北海道の数値^{※2}を用いて、全市および各地区の年代別人口を考慮し、各年の患者数を推計した。なお、2012年（平成24年）と2013年（平成25年）の患者数についても、便宜上、2014年（平成26年）の受療率を用いて推計した。
 - ※2 現在、公表されている受療率は、都道府県別レベルの数値であり、札幌市に特化した数値はないが、北海道における札幌市の人口規模を考慮すると、北海道の数字を用いても大差はないものとする。

<入院患者数 全市男女別>



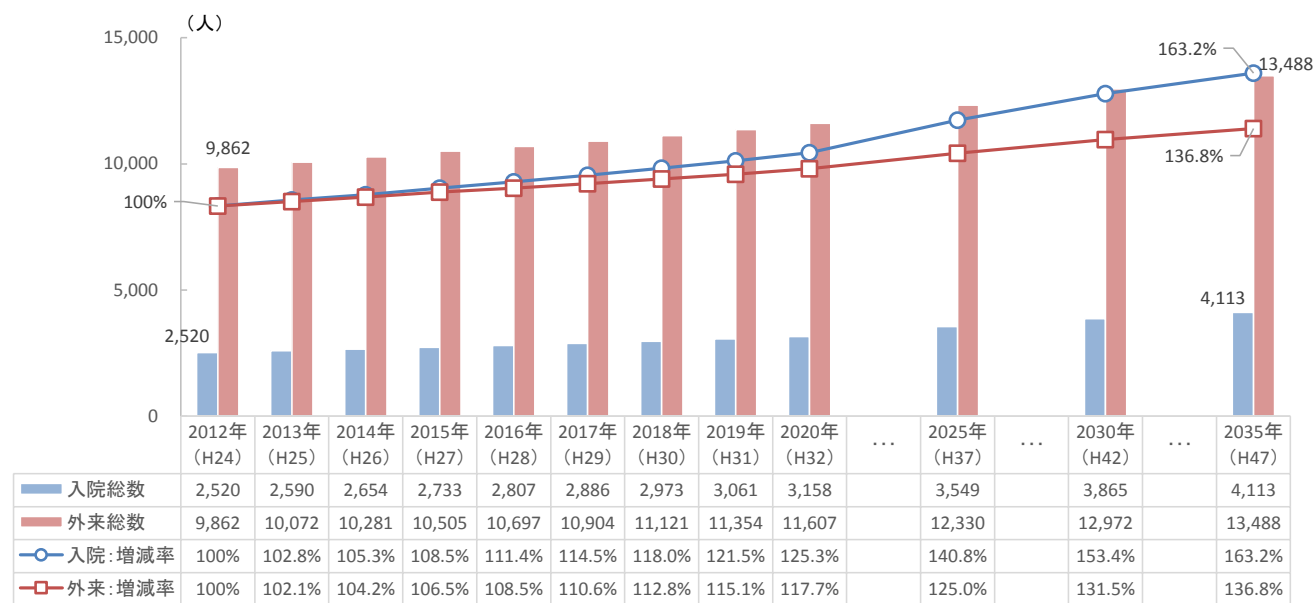
※増減率は対2012年比

<外来患者数 全市男女別>



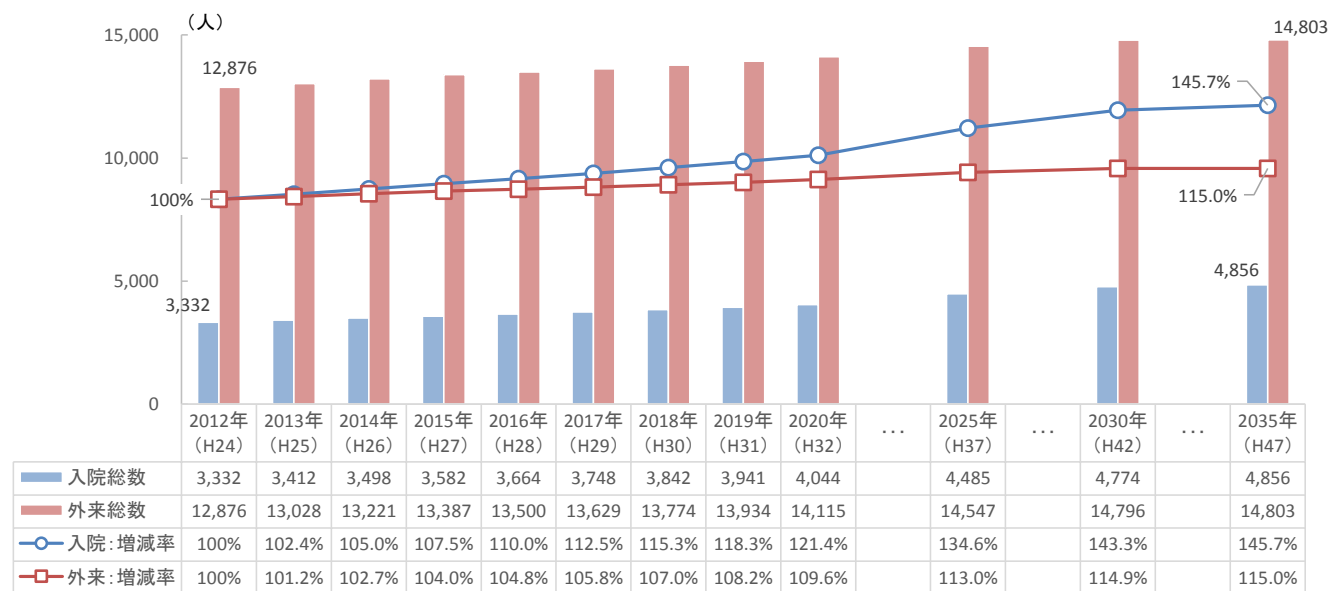
※増減率は対2012年比

<中央区>



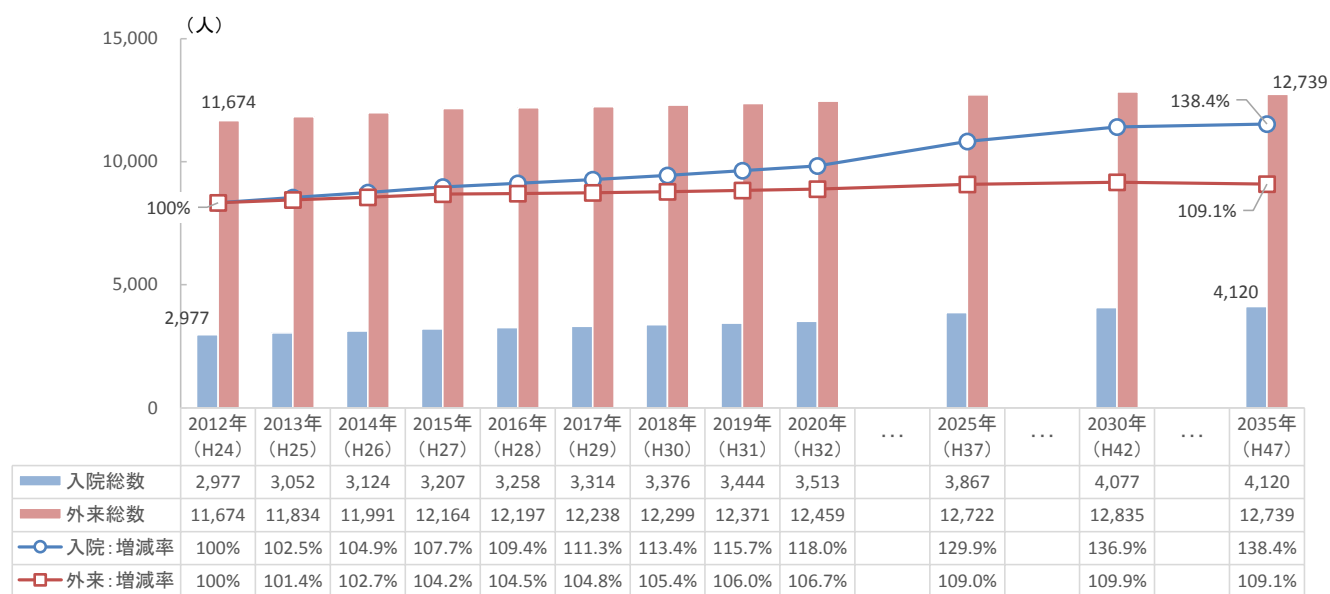
※増減率は対2012年比

<北区>



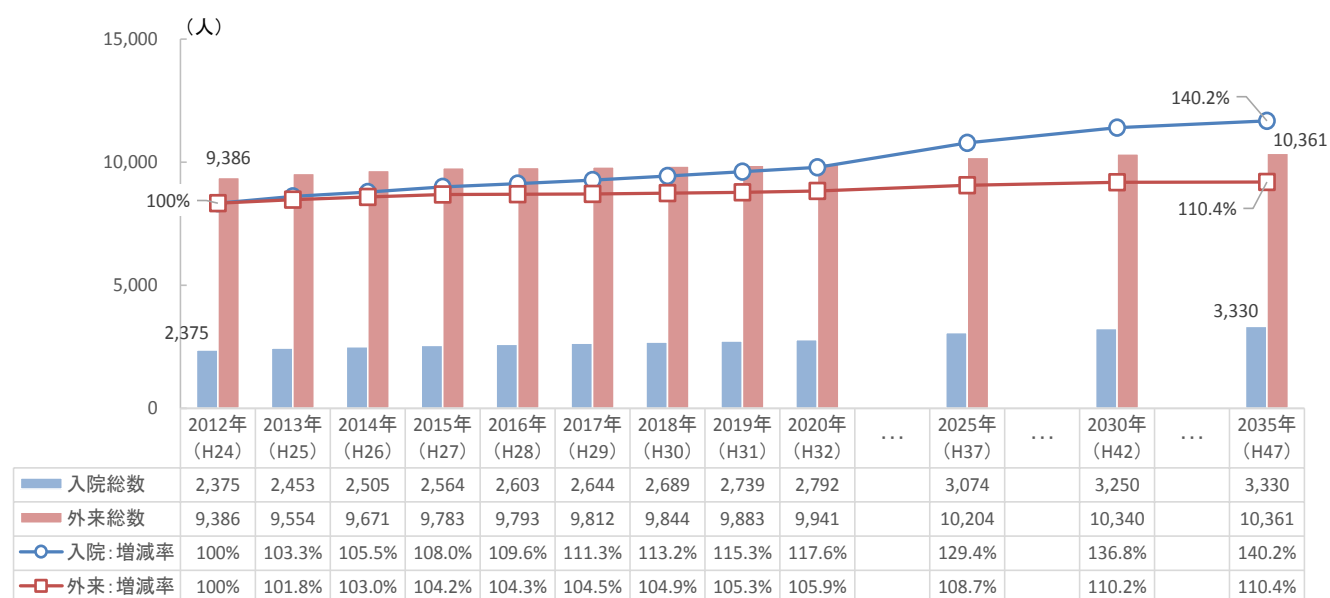
※増減率は対2012年比

<東区>



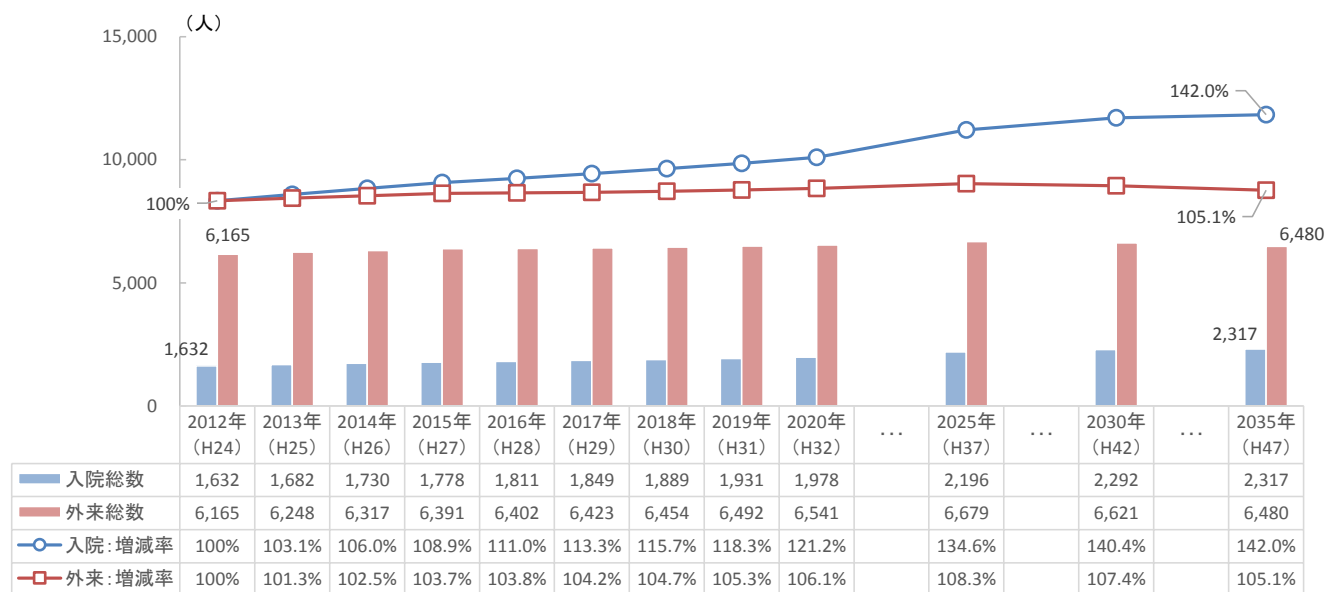
※増減率は対2012年比

<白石区>



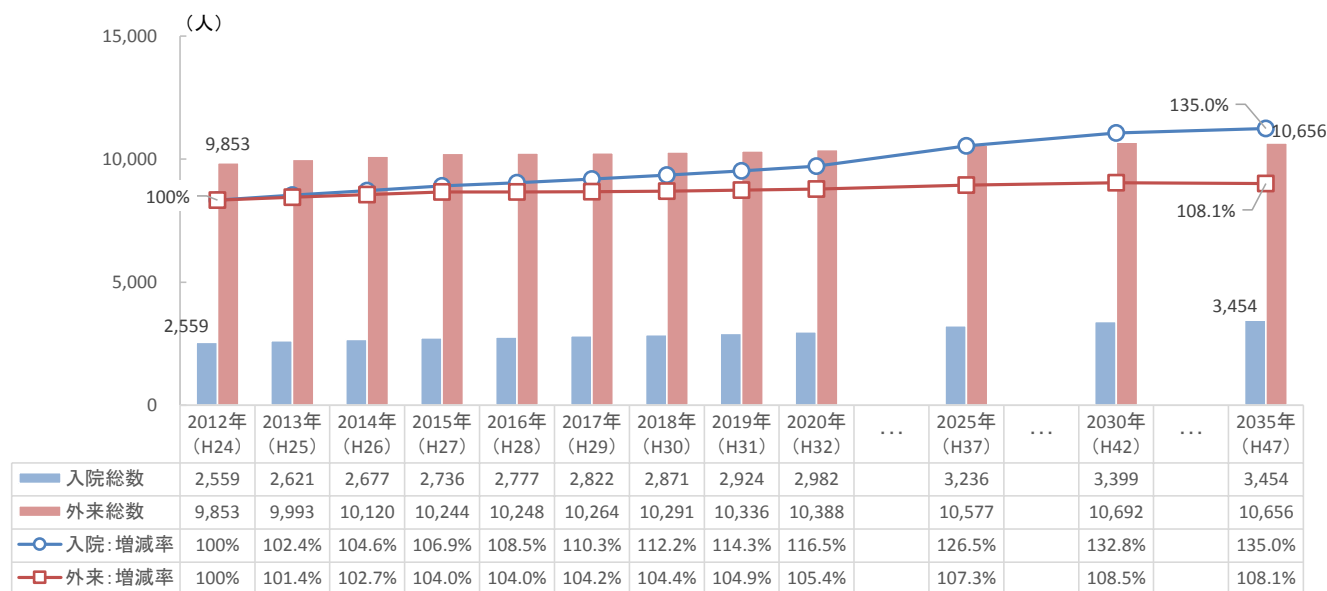
※増減率は対2012年比

<厚別区>



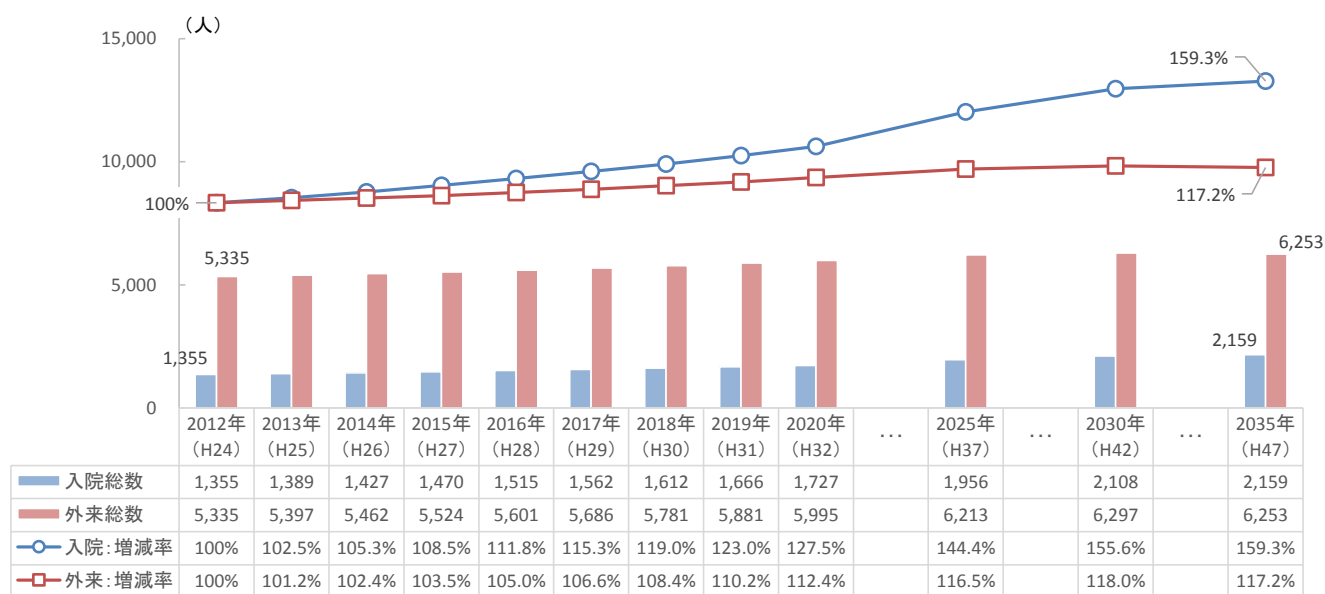
※増減率は対2012年比

<豊平区>



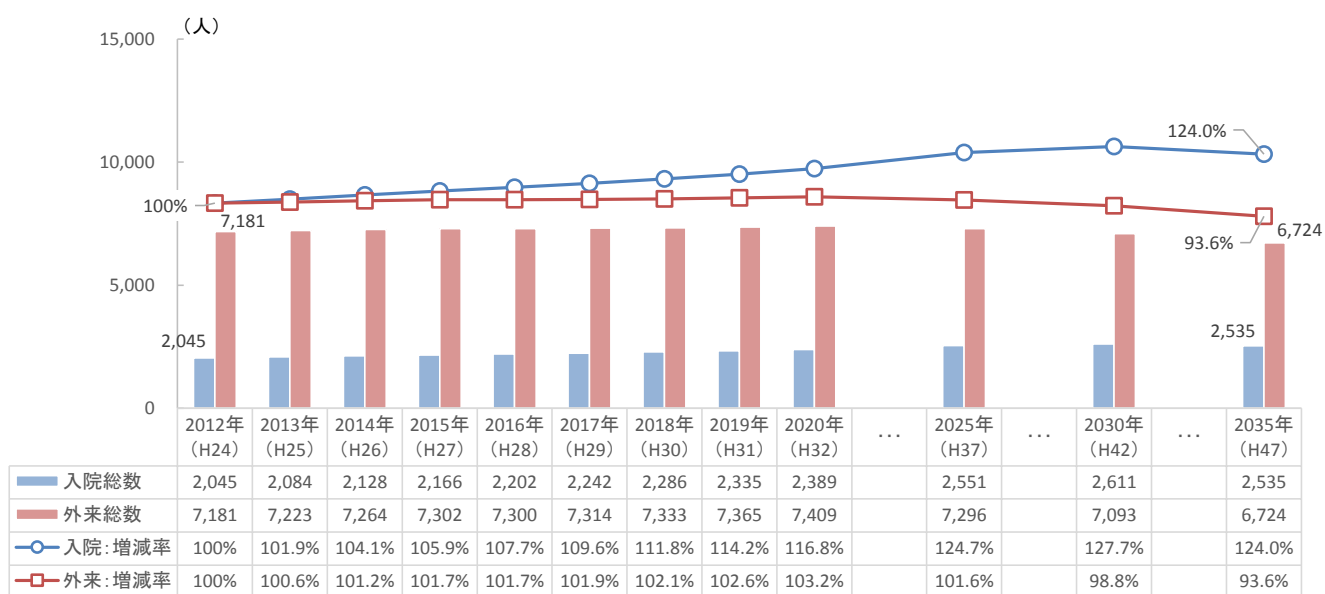
※増減率は対2012年比

<清田区>



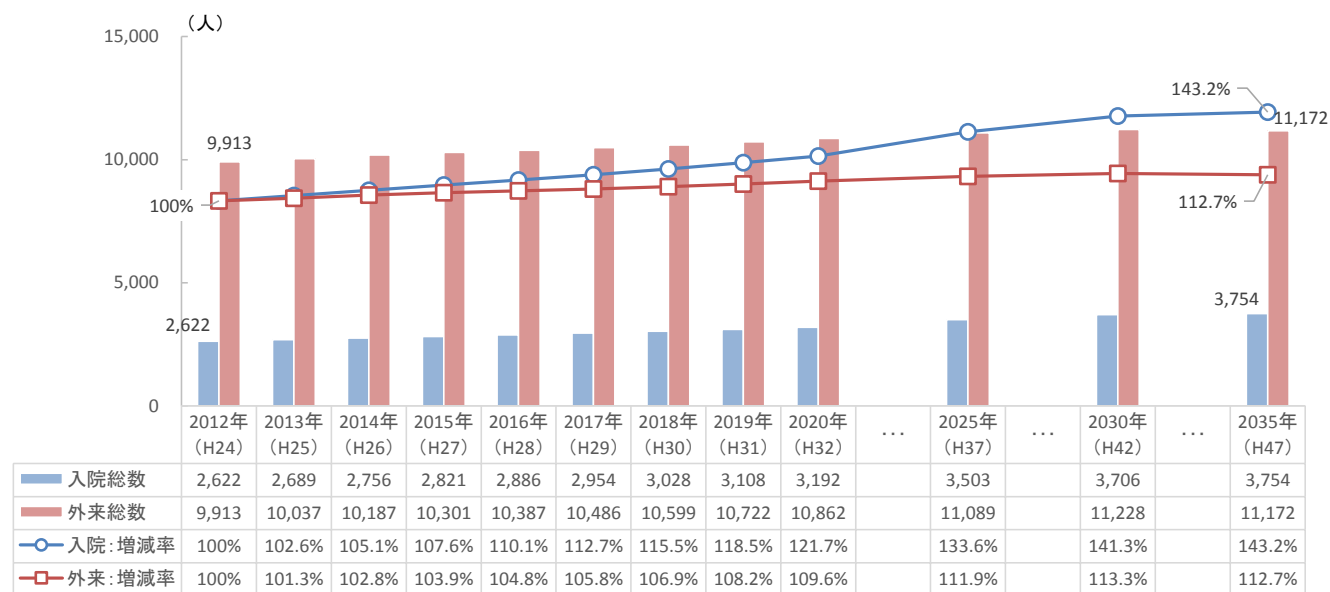
※増減率は対2012年比

<南区>



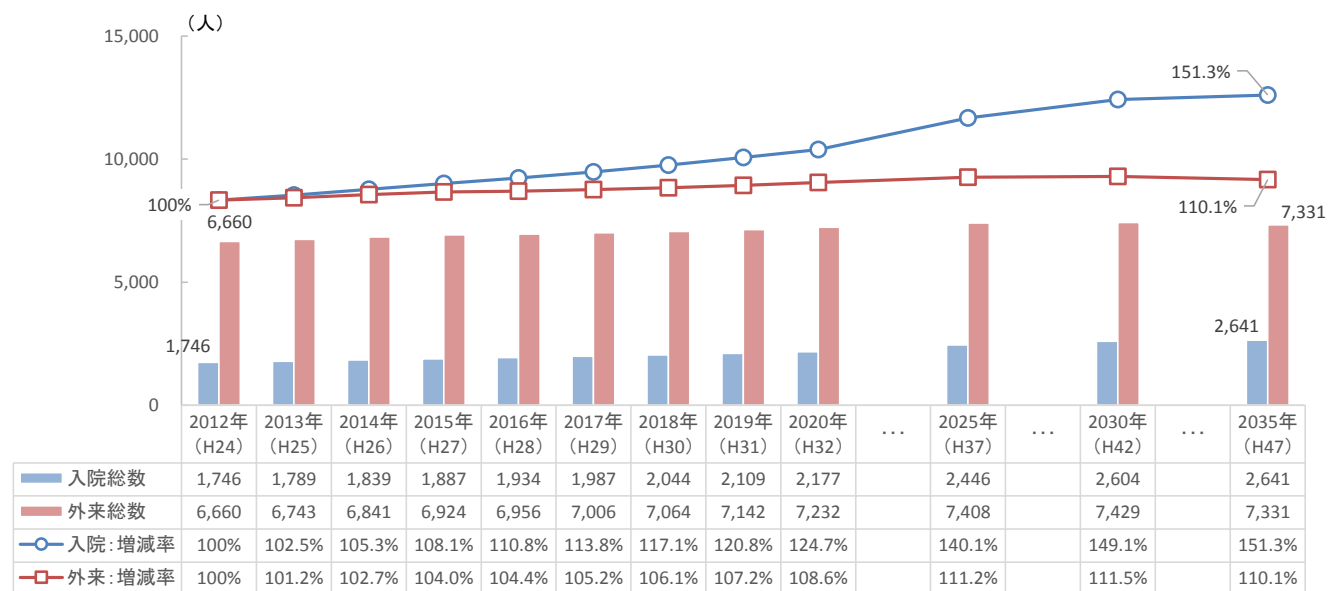
※増減率は対2012年比

<西区>



※増減率は対2012年比

<手稲区>



※増減率は対2012年比

③死亡者数の推計

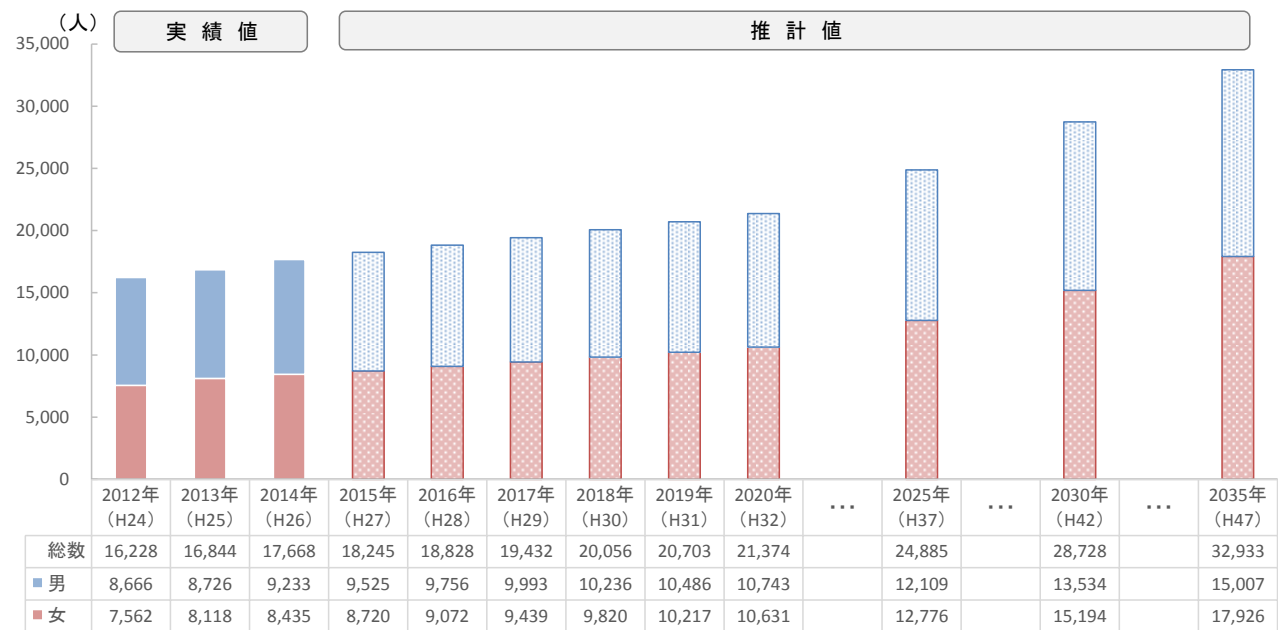
③－１ 死亡者総数

- ・全市の死亡者総数は、2014 年（平成 26 年）は約 1 万 8 千人（男性が約 9 千人、女性が約 8 千人）であるが、2035 年（平成 47 年）には約 3 万 3 千人（男性が約 1 万 5 千人、女性が約 1 万 8 千人）となり、約 1 万 5 千人程度増加することが見込まれる。
- ・各地区とも高齢化に伴い 2014 年（平成 26 年）から 2035 年（平成 47 年）にかけて、死亡者総数が約 1～2 千人程度増加しているが、中央区については、他地区よりも高齢化率がやや低いため、死亡者総数についても増加傾向が緩やかである。

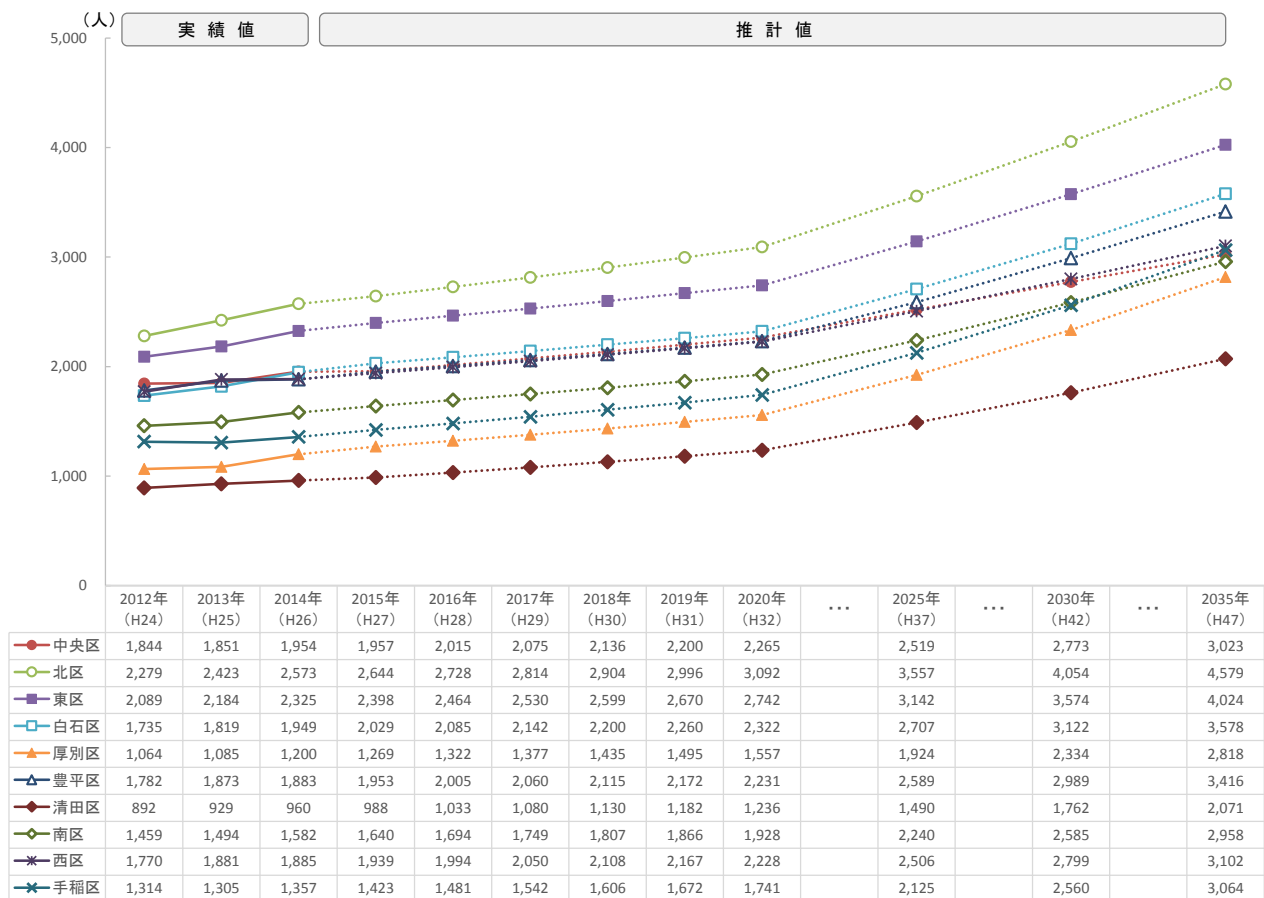
【死亡者総数の考え方】

- ・死亡者総数は、2012 年（平成 24 年）～2014 年（平成 26 年）は札幌市衛生年報の実績値を採用した。
- ・2015 年（平成 27 年）以降については、2004 年（平成 16 年）と 2014 年（平成 26 年）の粗死亡率（人口千対）から、変化率を算出し、粗死亡率を推計し、全市および各地区の人口に乗じて死亡者数を推計した。
- ・なお、全市の推計値は、総人口に粗死亡率を乗じて推計しており、各地区の推計値の合計とは、四捨五入の関係上、一致しない。

<死亡者総数 全市男女別>



<死亡者総数 地区別>



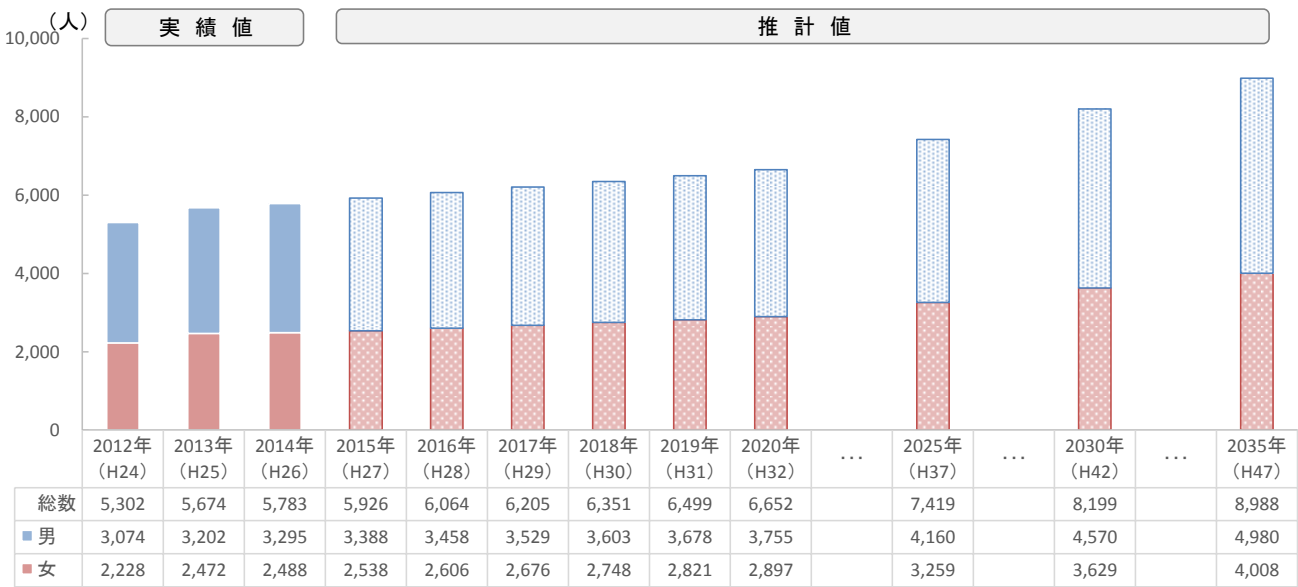
③－２ 主要疾患別の死亡者数

- ・全市のがんによる死亡者数は、2014 年（平成 26 年）は約 5,800 人であるが、2035 年（平成 47 年）には約 9,000 人となり、約 1.6 倍に増加する見込みである。地区別にみると、白石区が他地区に比べ、やや増加率が高くなることが見込まれる。
- ・全市の心疾患による死亡者数は、2014 年（平成 26 年）は約 2,400 人であるが、2035 年（平成 47 年）には約 3,800 人となり、約 1.6 倍に増加する見込みである。地区別にみると、東区が他地区に比べ、やや増加率が高くなることが見込まれる。
- ・全市の脳血管疾患による死亡者数は、2014 年（平成 26 年）は約 1,400 人であるが、2035 年（平成 47 年）には約 1,100 人と減少することが見込まれる。
- ・全市の肺炎による死亡者数は、2014 年（平成 26 年）は約 1,600 人であるが、2035 年（平成 47 年）には約 3,500 人となり、約 2.2 倍に増加する見込みである。地区別にみると、北区が他地区に比べ、やや増加率が高くなることが見込まれる。

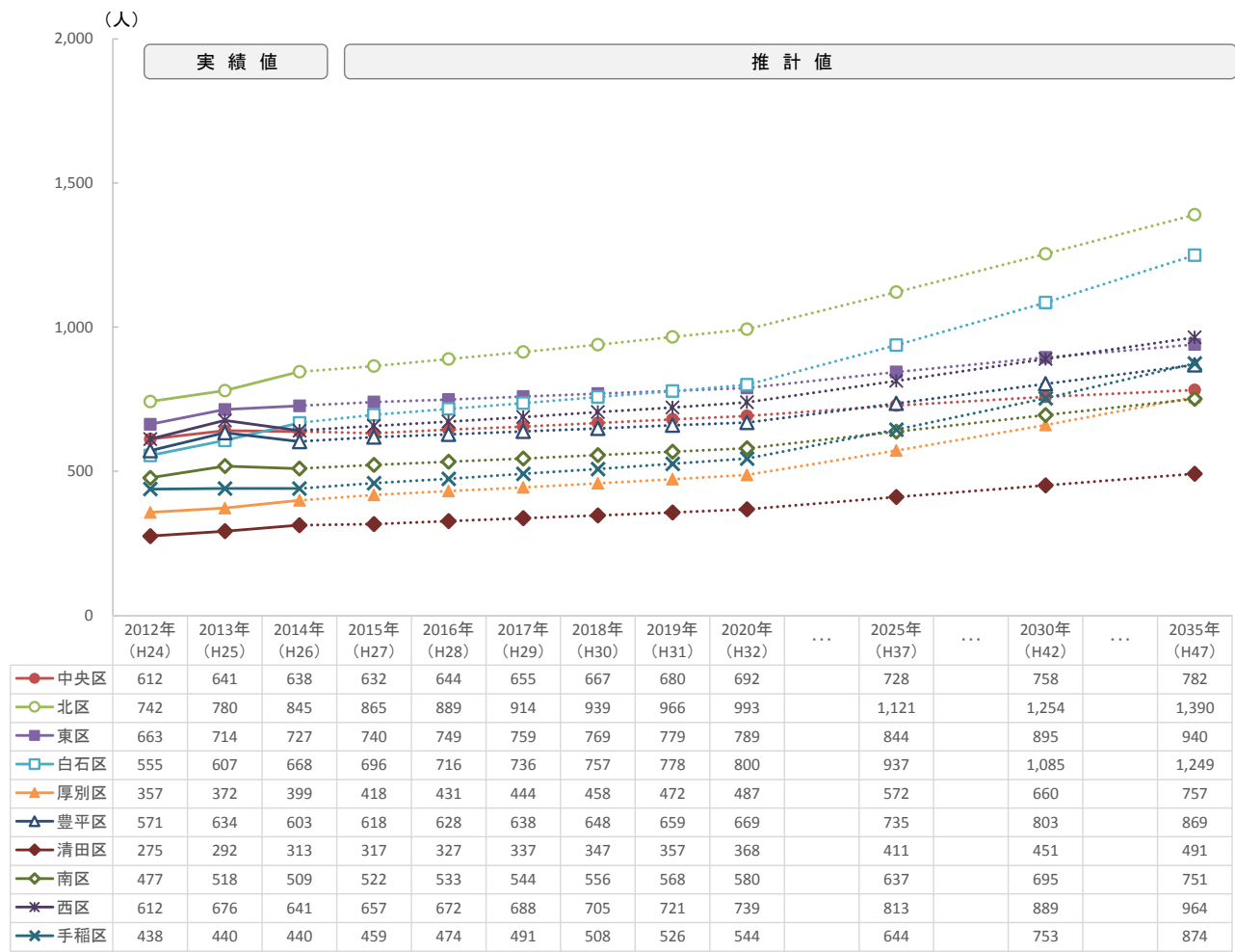
【主要疾患別の死亡者数の考え方】

- ・ 主要疾患別の死亡者数は、2012 年（平成 24 年）～2014 年（平成 26 年）は札幌市衛生年報の実績値を採用した。
- ・ 2015 年（平成 27 年）以降については、疾患別に 2004 年（平成 16 年）と 2014 年（平成 26 年）の粗死亡率（人口 10 万対）から、変化率を算出し、粗死亡率を推計し、全市および各地区の人口に乗じて死亡者数を推計した。
- ・ なお、全市の推計値は、総人口に疾患別の粗死亡率を乗じて推計しており、各地区の推計値の合計とは、四捨五入の関係上、一致しない。

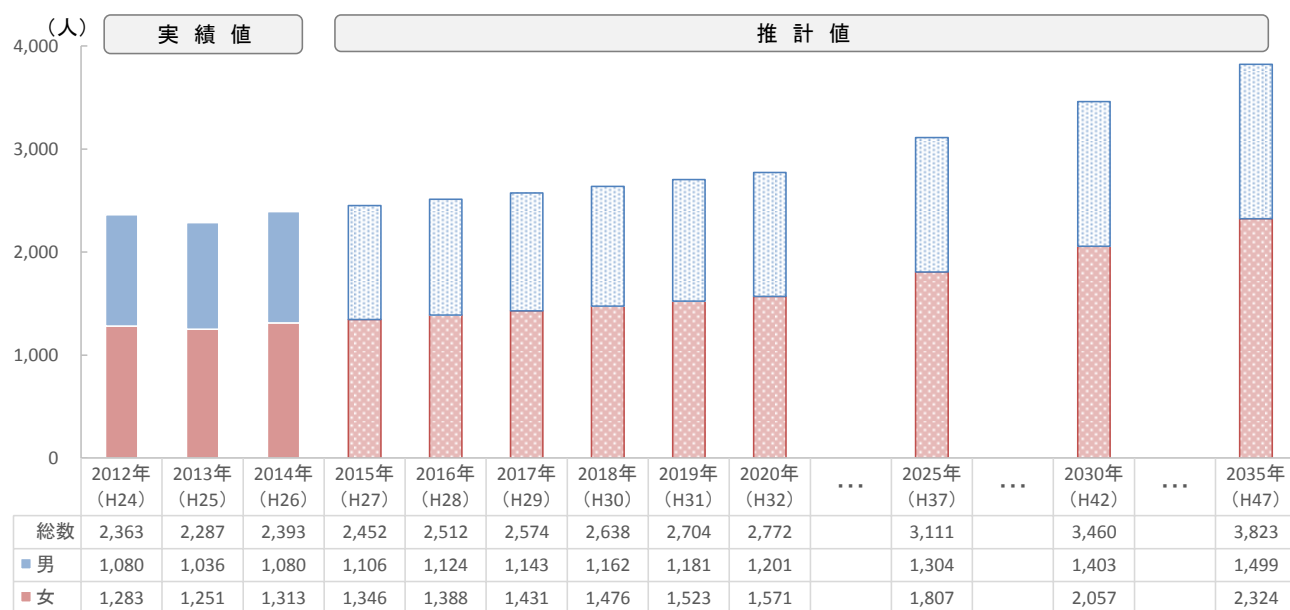
＜がんの死亡者数 全市男女別＞



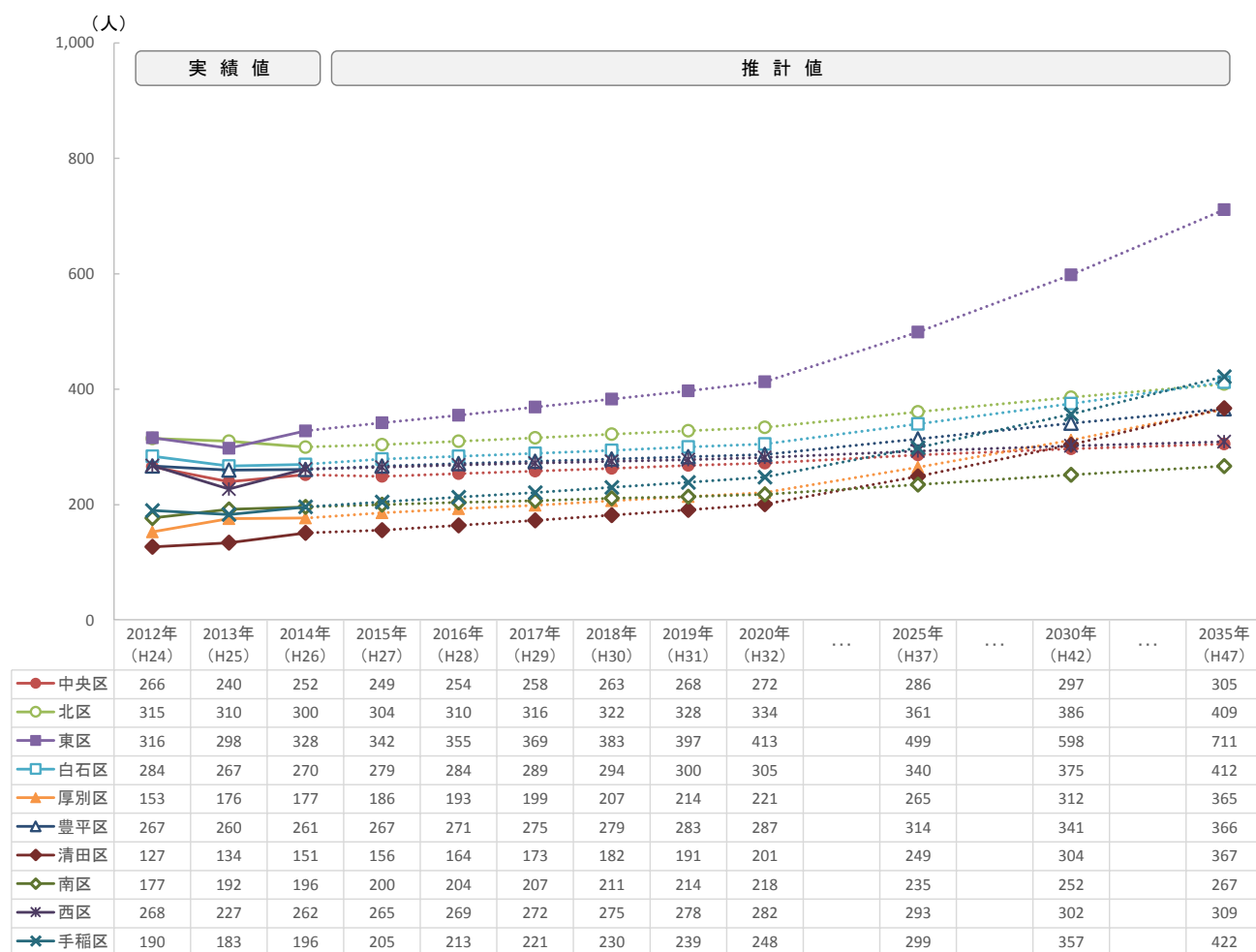
＜がんの死亡者数 地区別＞



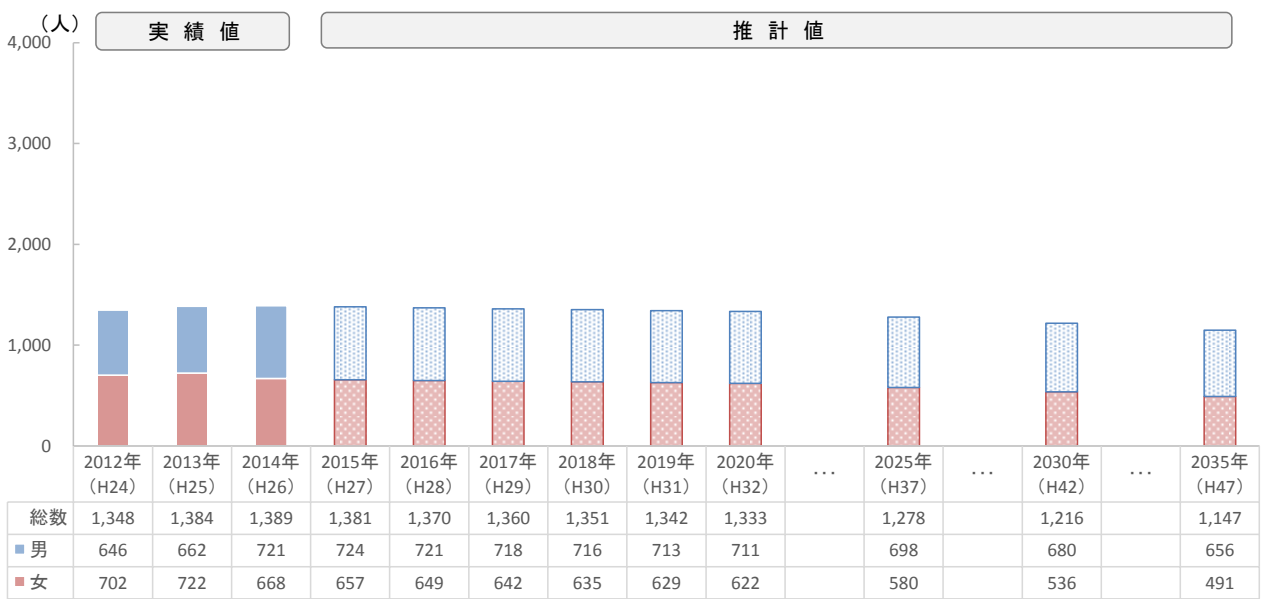
<心疾患の死亡者数 全市男女別>



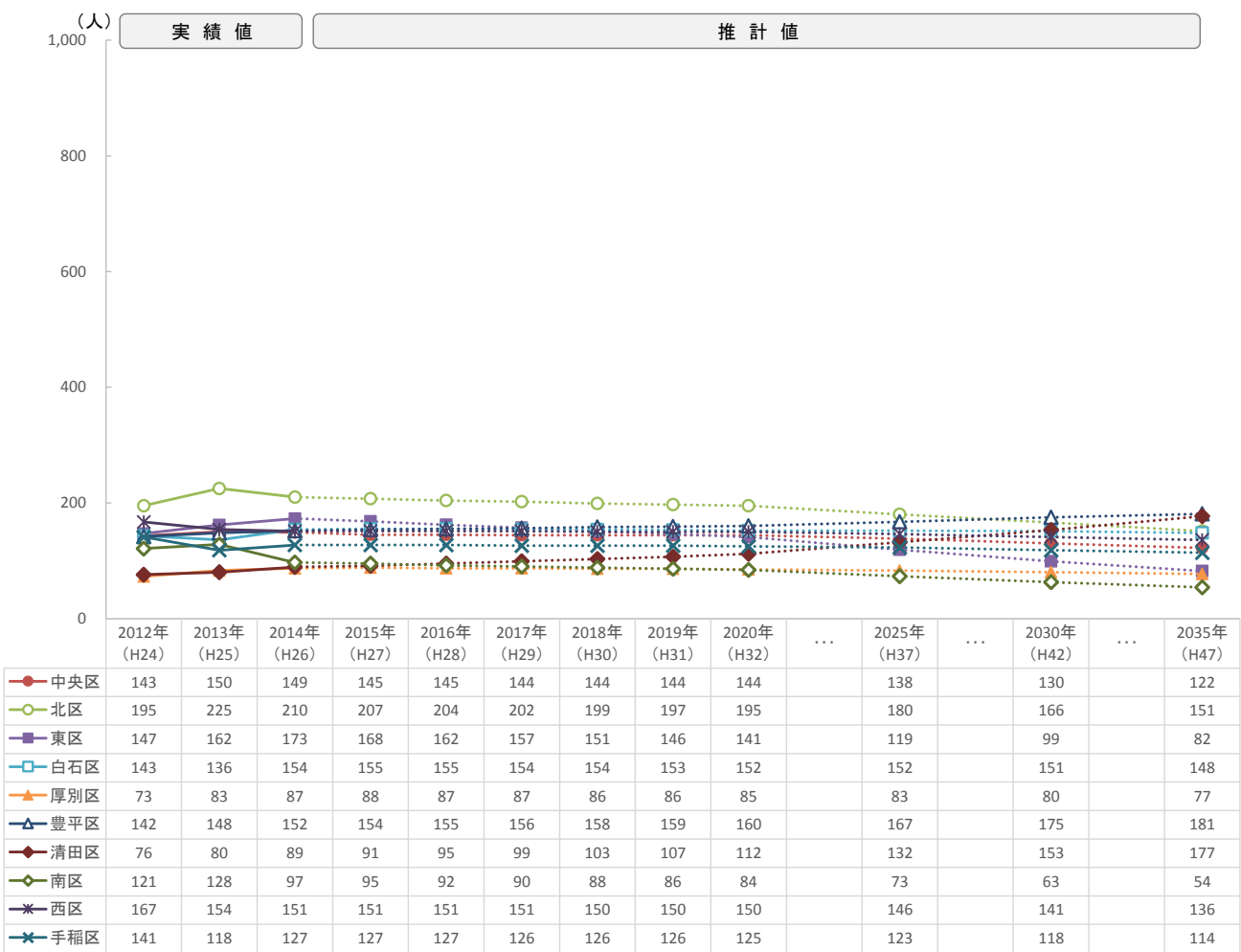
<心疾患の死亡者数 地区別>



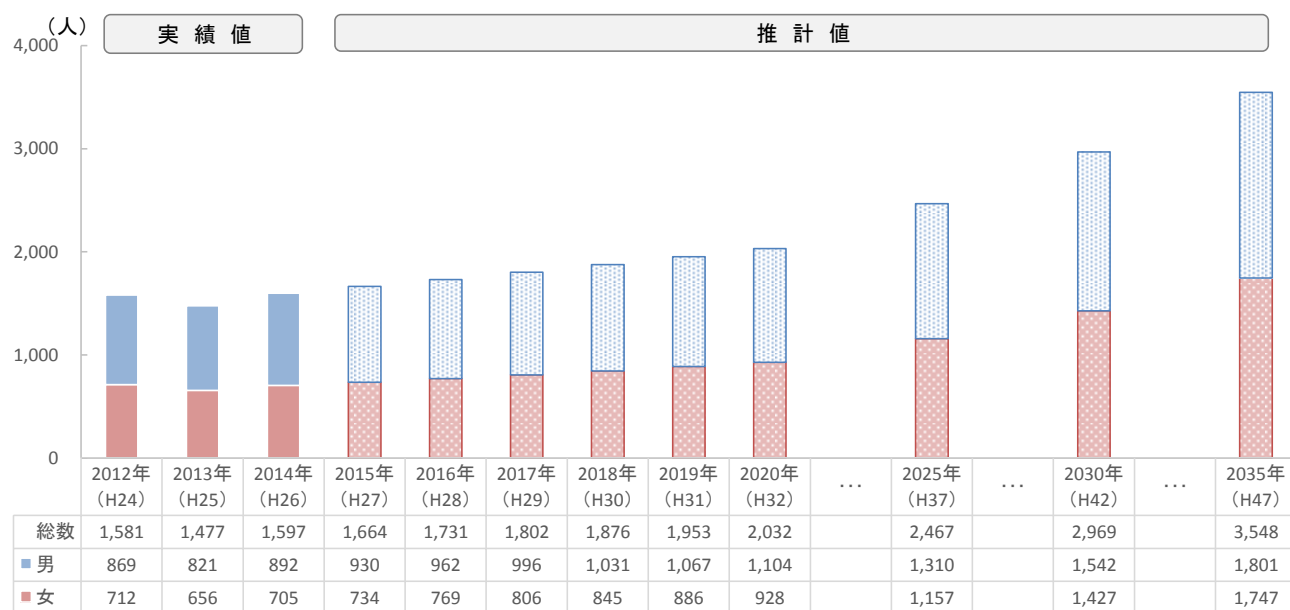
<脳血管疾患の死亡者数 全市男女別>



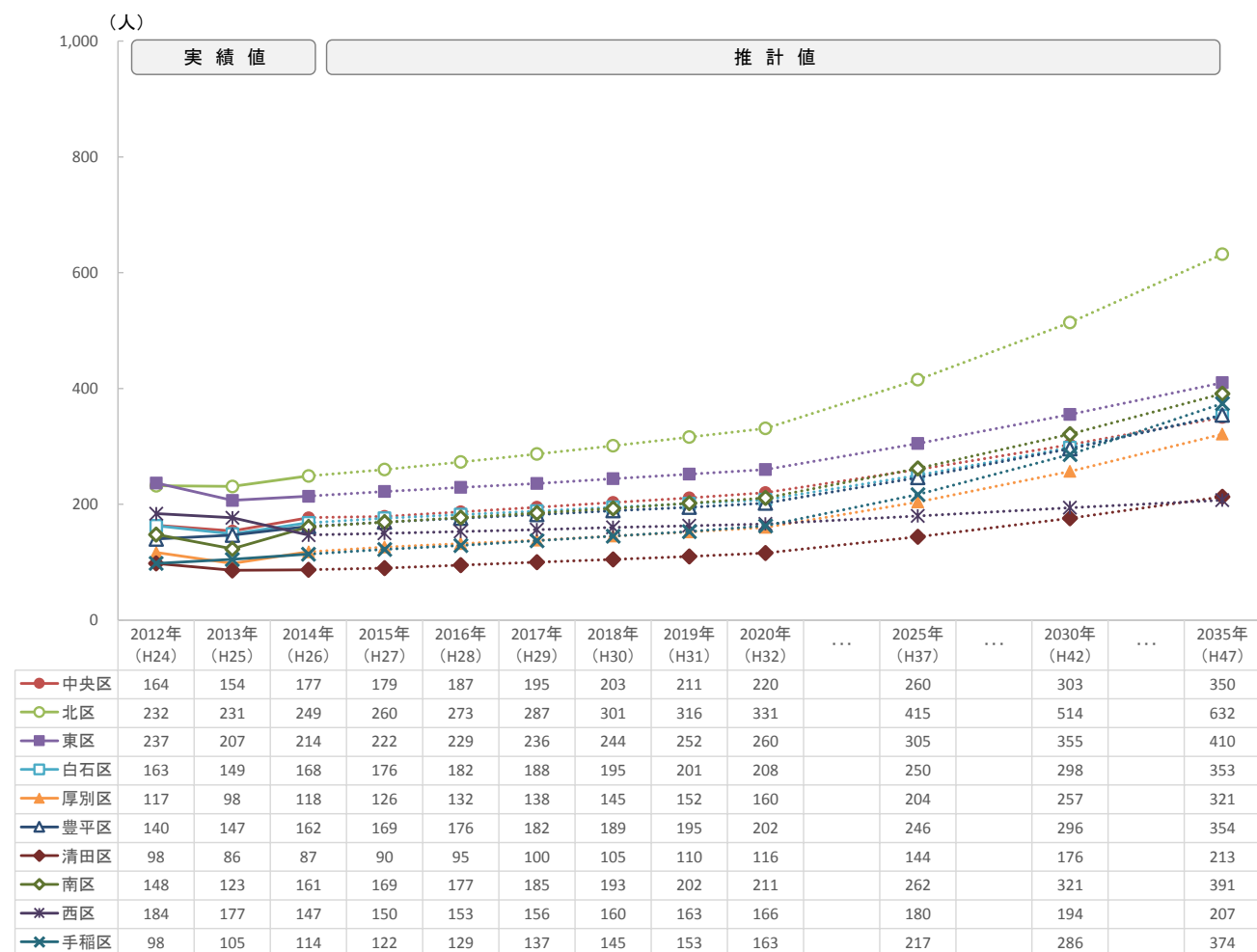
<脳血管疾患の死亡者数 地区別>



<肺炎の死亡者数 全市男女別>



<肺炎の死亡者数 地区別>



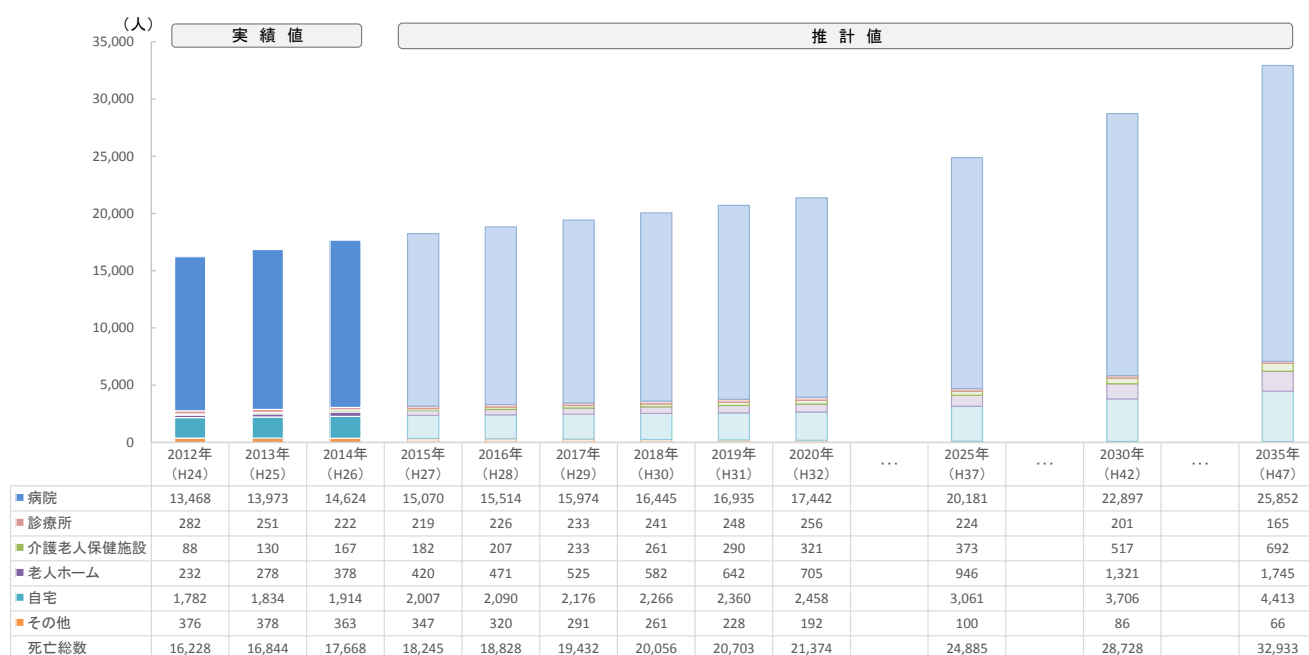
③－３ 死亡場所別の死亡者数

- ・全市の死亡場所別の死亡者数は病院が圧倒的に多く、次いで自宅となっており、今後も同様の傾向が見込まれる。また、地区別にみても同様の傾向が見込まれる。

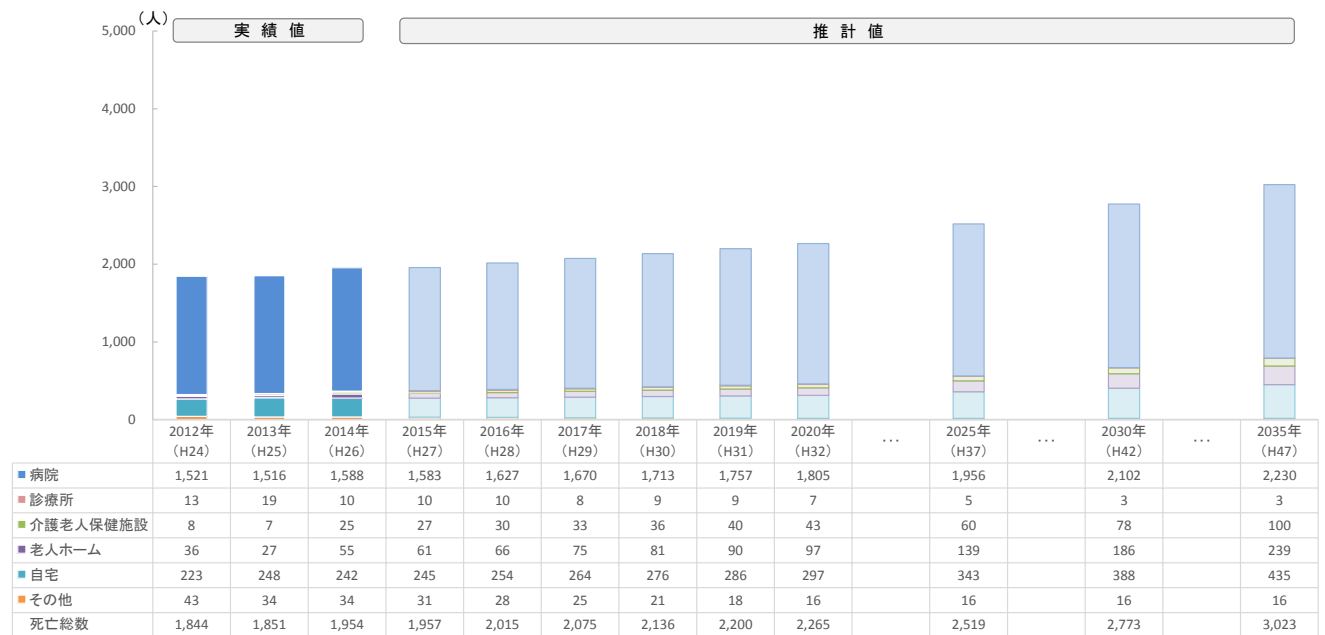
【死亡場所別の死亡者数の考え方】

- ・ 死亡場所別の死亡者数は、2012 年（平成 24 年）～2014 年（平成 26 年）は札幌市衛生年報の実績値を採用した。
- ・ 2015 年（平成 27 年）以降については、2004 年（平成 16 年）と 2014 年（平成 26 年）の死亡場所別の死亡数割合から、変化率を算出し、死亡場所の割合を推計し、全市および各地区の死亡者数に乗じて死亡場所別の死亡者数を推計した。
- ・ なお、全市の推計値は、死亡者総数に死亡場所の割合を乗じて推計しており、各地区の推計値の合計とは、四捨五入の関係上、一致しない。

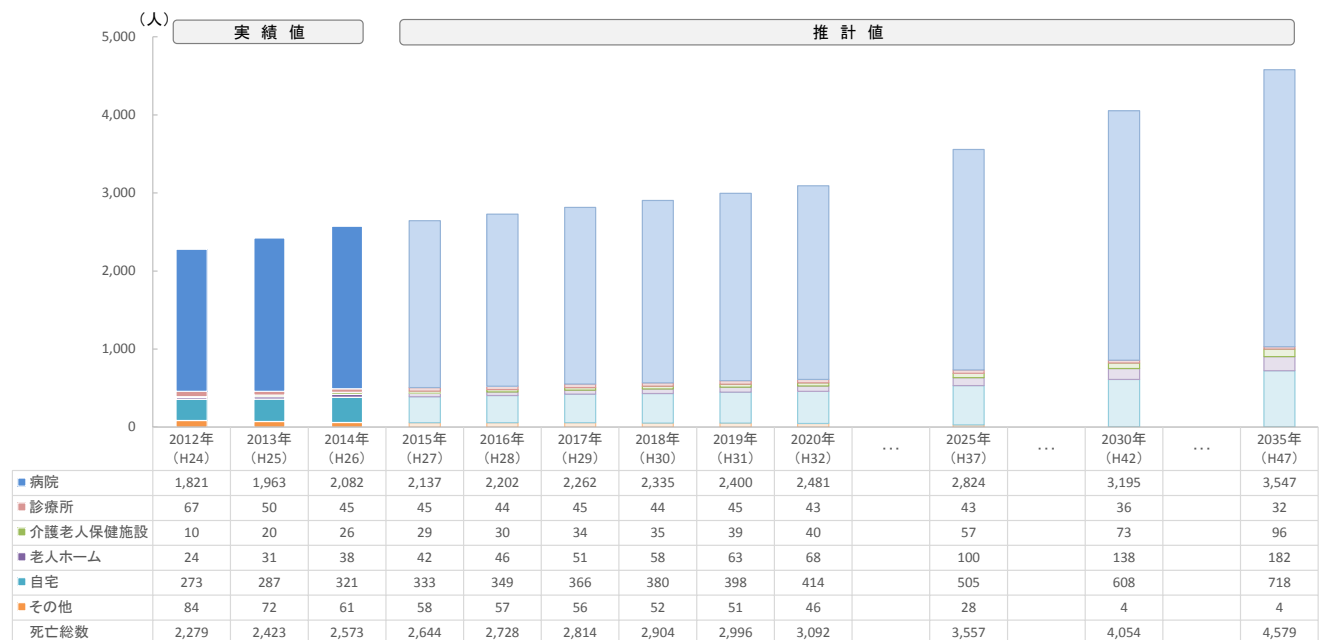
<全市>



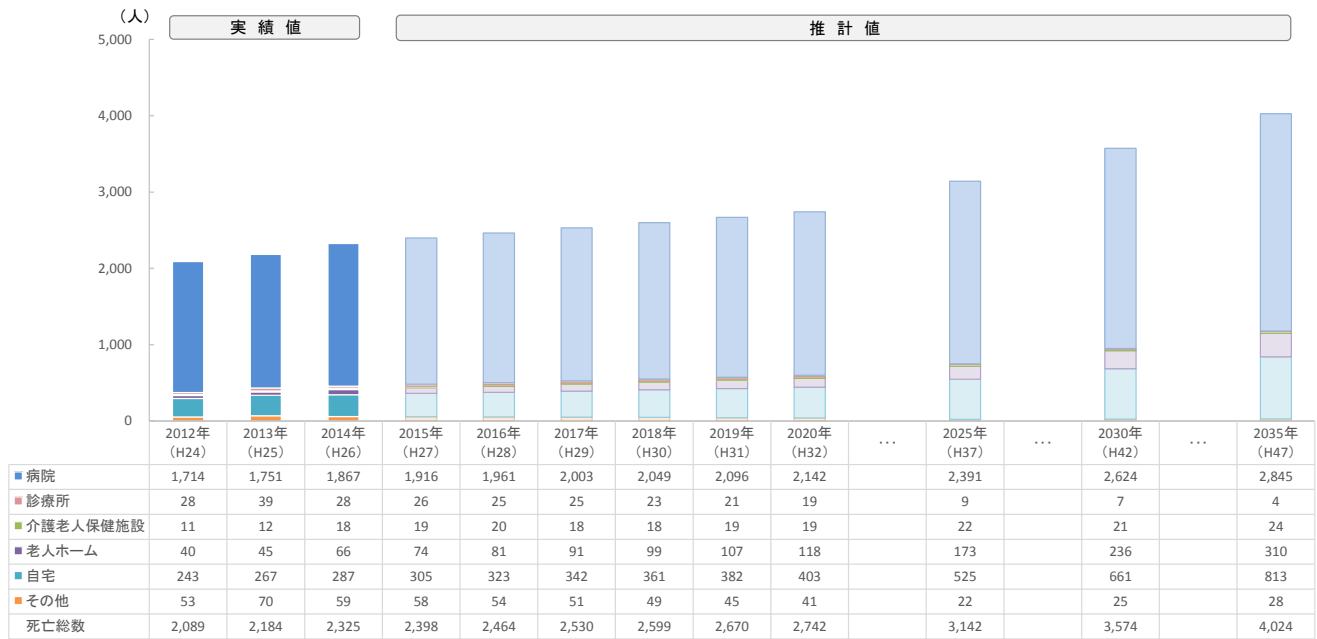
<中央区>



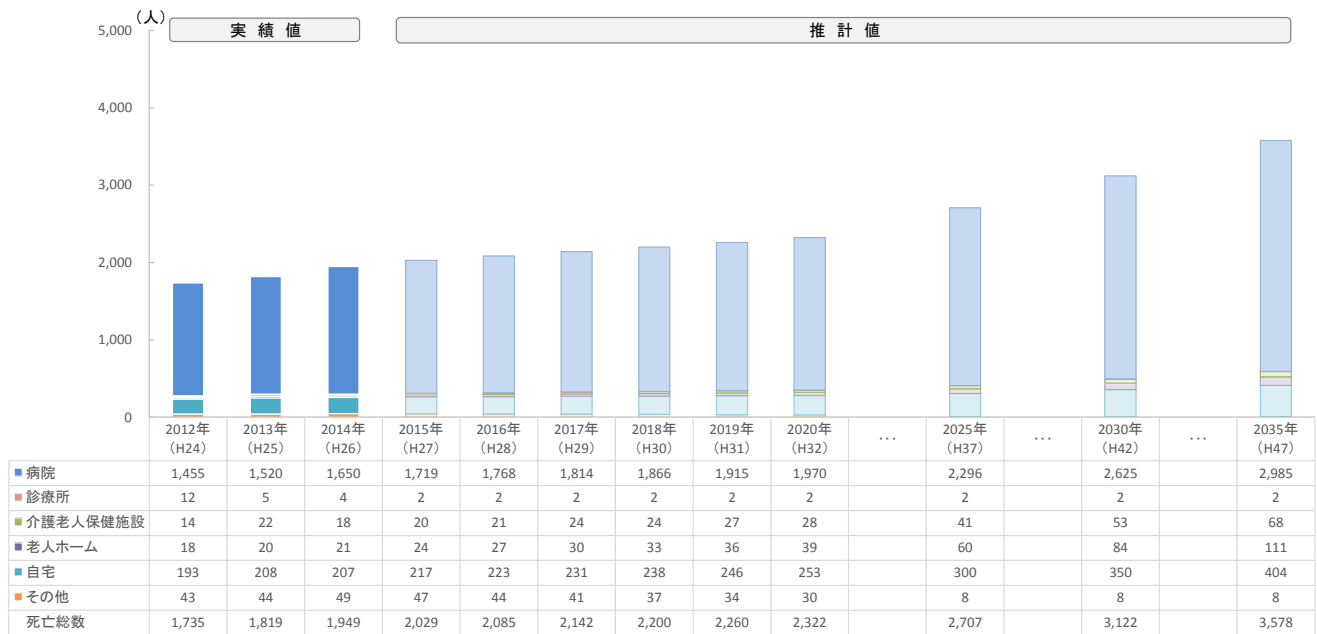
<北区>



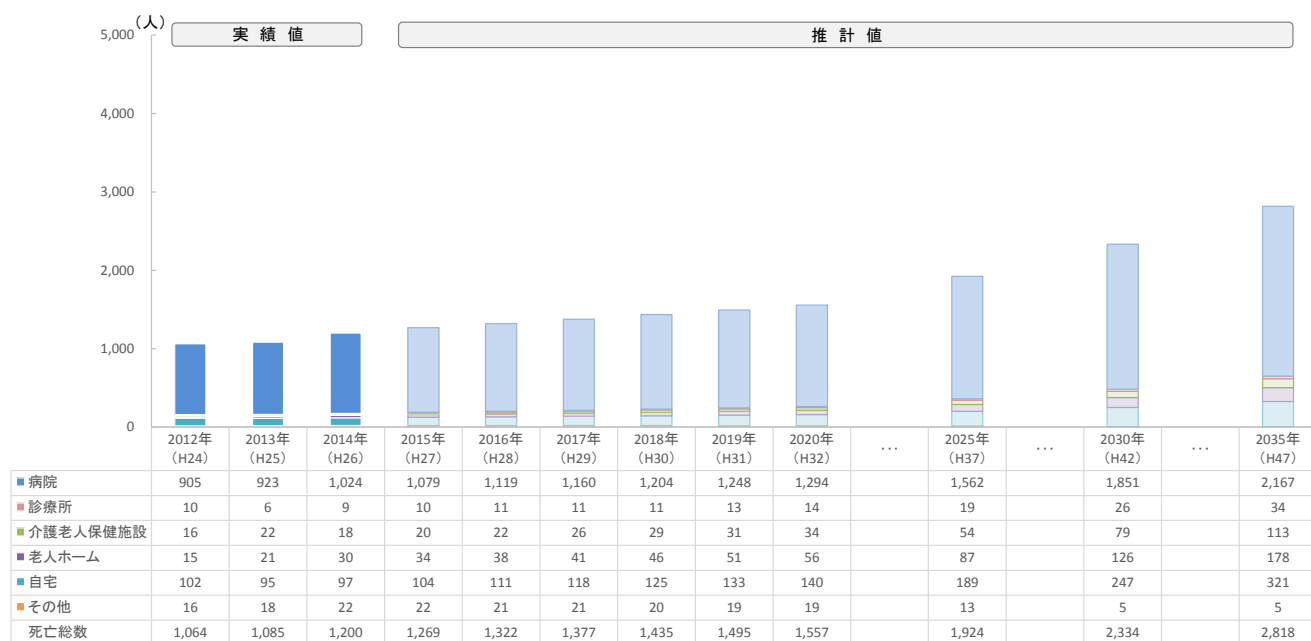
<東区>



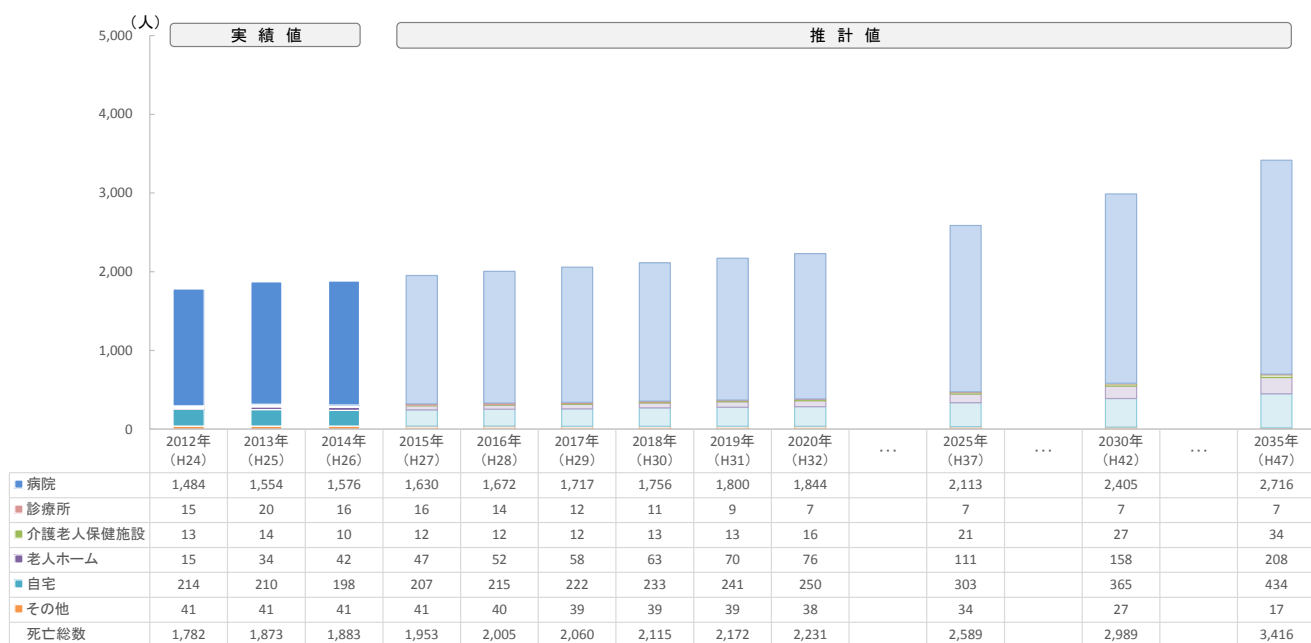
<白石区>



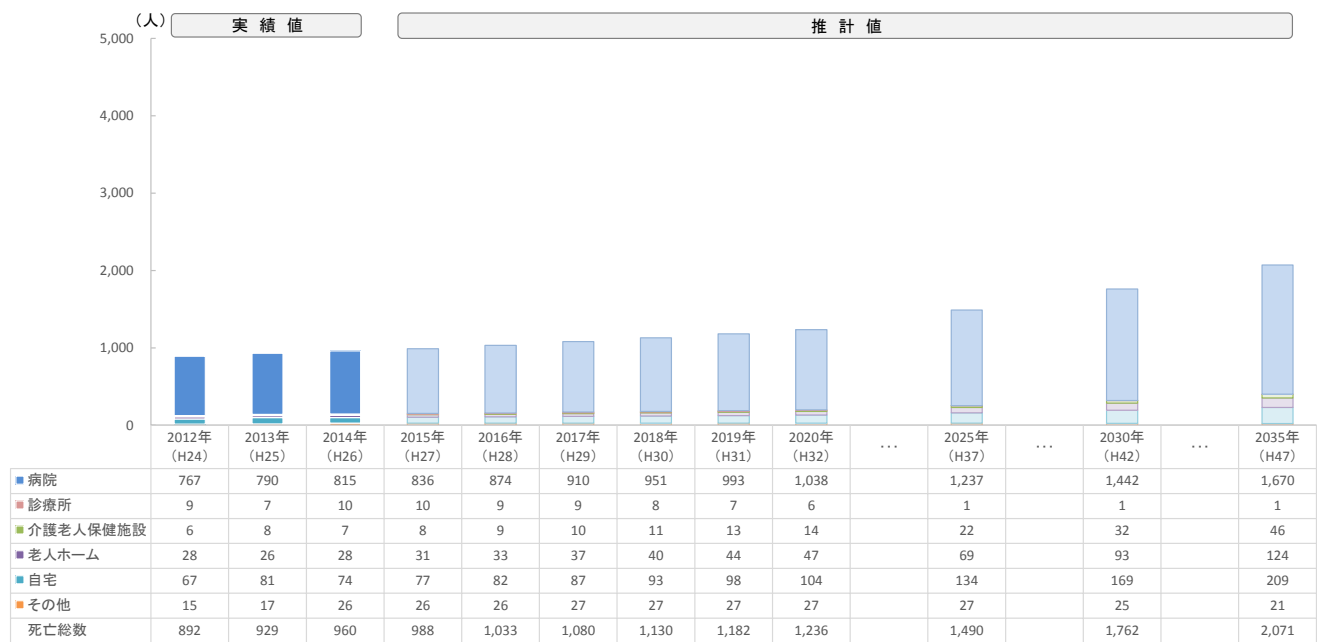
<厚別区>



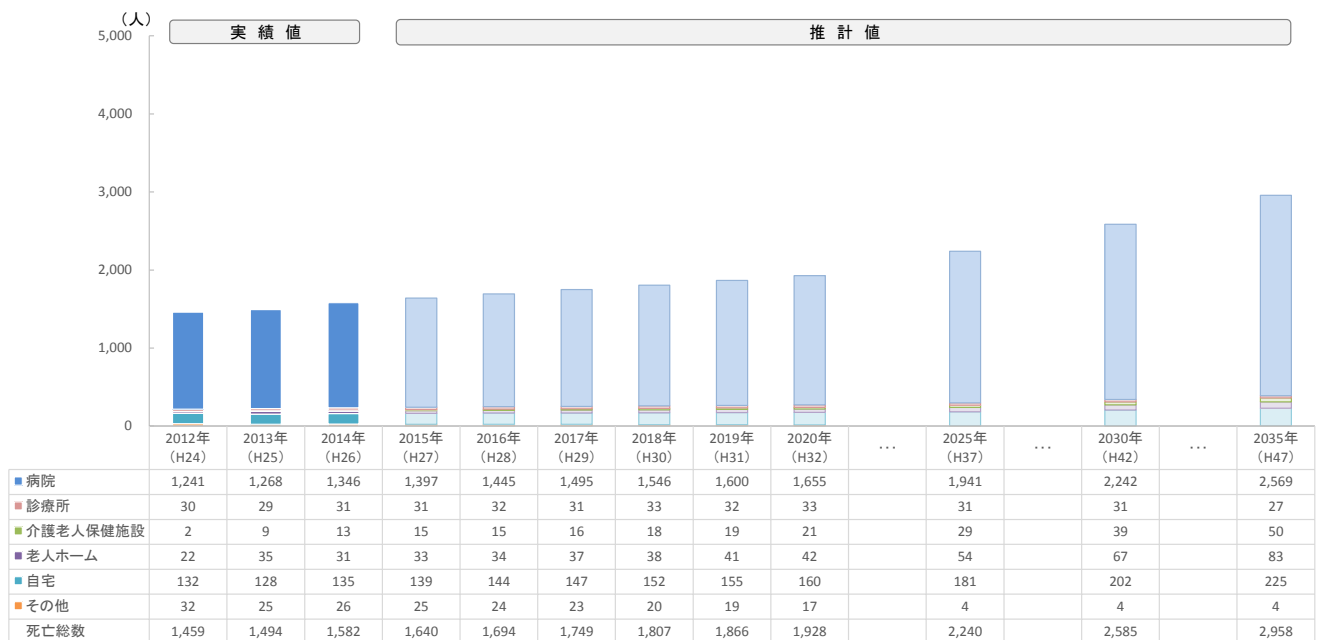
<豊平区>



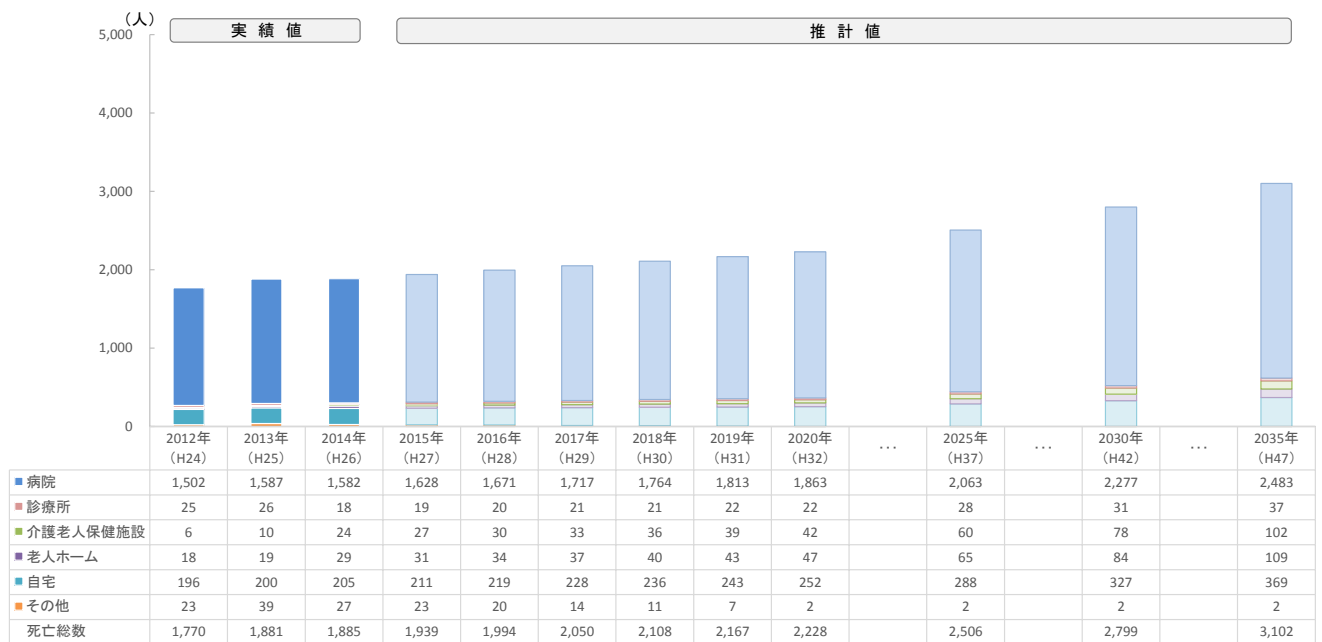
<清田区>



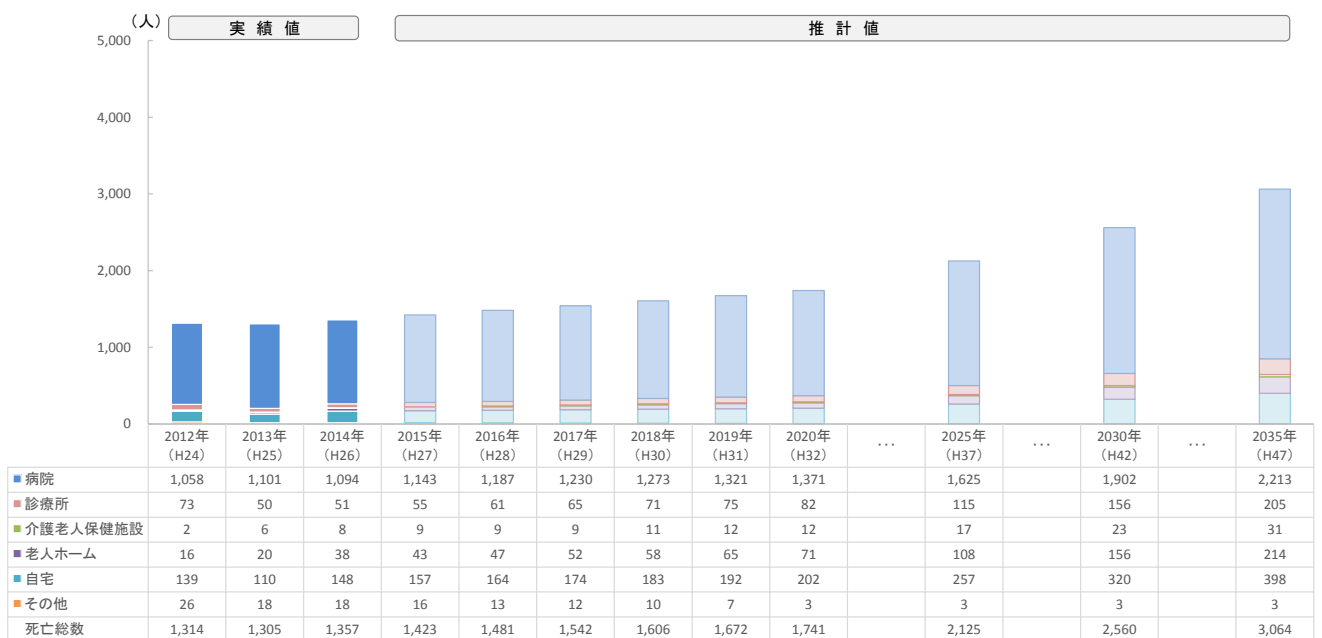
<南区>



<西区>



<手稲区>



④「在宅医療」と「入院・外来通院」の医療費比較

- ・在宅医療を選択した場合と、入院治療を選択した場合の医療費の違いについて、第17回日本在宅医学会もりおか大会（平成27年4月25日～26日開催）で発表された研究報告の事例を元に整理する。
- ・演台名：死亡前30日の在宅医療介護費と入院医療費の比較調査
演者名：村上典由、北山摂、木内大介、遠矢純一郎
所属：医療法人社団プラタナス桜新町アーバンクリニック（東京都世田谷区）

【比較調査の方法】

- ・平成25年10月から1年間を調査期間として、桜新町アーバンクリニックで在宅医療を実施した死亡奨励111例の中で、費用調査可能な70例（自宅58例、施設4例、病院8例）について、死亡前30日以内の1日当たり在宅医療介護費（薬剤料除く）の調査分析を実施。
- ・次に算出した在宅医療介護費と日本医師会総合政策研究機構が2007年に実施した調査による死亡前30日以内の1日当たり入院医療費との比較検討を行った。
- ・なお、調査が難しい介護費用については、要介護度別に公表されている居宅サービス受給者平均給付額を適用。

【結果】

- ・調査の結果、在宅医療介護費の平均は1日あたり24,960円、入院医療費は30,980円となり、在宅医療の方が約2割安いという結果になった。
- ・主病名別に在宅医療介護費を見ると、「がん」が28,550円で最も高くなっている。

	平均値 (1日あたり)	内訳	主病名別
在宅医療 介護費	24,960円 (薬剤料除く)	医療費 20,170円 介護費 4,780円	がん 28,550円 (36例) 脳血管疾患 14,150円 (4例) 認知症 17,700円 (5例)
入院医療費	30,980円 (薬剤料除く)		

※入院医療費の平均値は日本医師会総合政策研究機構調べ（2007年）

⑤札幌市における未就業看護職数（看護師、准看護師、保健師、助産師）

【現在の看護職員数の就業者数】

- ・「平成 25 年北海道保健統計年報」（北海道）から、札幌市における「看護師」、「准看護師」、「保健師」、「助産師」の就業届出者数を整理すると下表のようになる。

	看護師	准看護師	保健師	助産師
就業届出者数（札幌市保健所）	23,141 人	5,161 人	638 人	753 人

【全国の潜在看護職員数の推計】

- ・全国の未就業看護職者数を推計した研究として、「第七次看護職員需給見通し期間における看護職員需給数の推計手法と把握に関する研究」（平成 26 年 3 月、研究代表者：小林美亜（千葉大学大学院看護学研究科））がある。
- ・この中で、看護師と准看護師に関する潜在看護職員数および潜在率が推計されており、本調査では、この研究結果で推計された潜在率を用いて、札幌市における未就業看護職数を推計する。
- ・平成 24 年末現在の全国の潜在看護職員数は、看護師 461,012 人、准看護師 238,554 人で、合計 699,566 人と推計されている。
- ・潜在率は、看護師で 29.6%、准看護師で 40.0%となっている。

	看護師	准看護師	計
全国の潜在者数（平成 24 年末）	461,012 人	238,554 人	699,566 人
潜在率	29.6%	40.0%	

【札幌市における潜在看護職員数の推計】

- ・札幌市における看護職員の潜在率は、看護師で 29.6%、准看護師で 40.0%とする。
- ・保健師と助産師についての潜在率は算出されていないが、いずれも看護師の資格を持っている職種のため看護師と同じ潜在率（29.6%）にあるとして推計する。

	看護師	准看護師	保健師	助産師
札幌市における潜在看護職員数	9,730 人	3,441 人	268 人	317 人

※なお、「保健師」「助産師」は「看護師」の資格を所持しているため、ダブルカウントの可能性があるので注意が必要である。

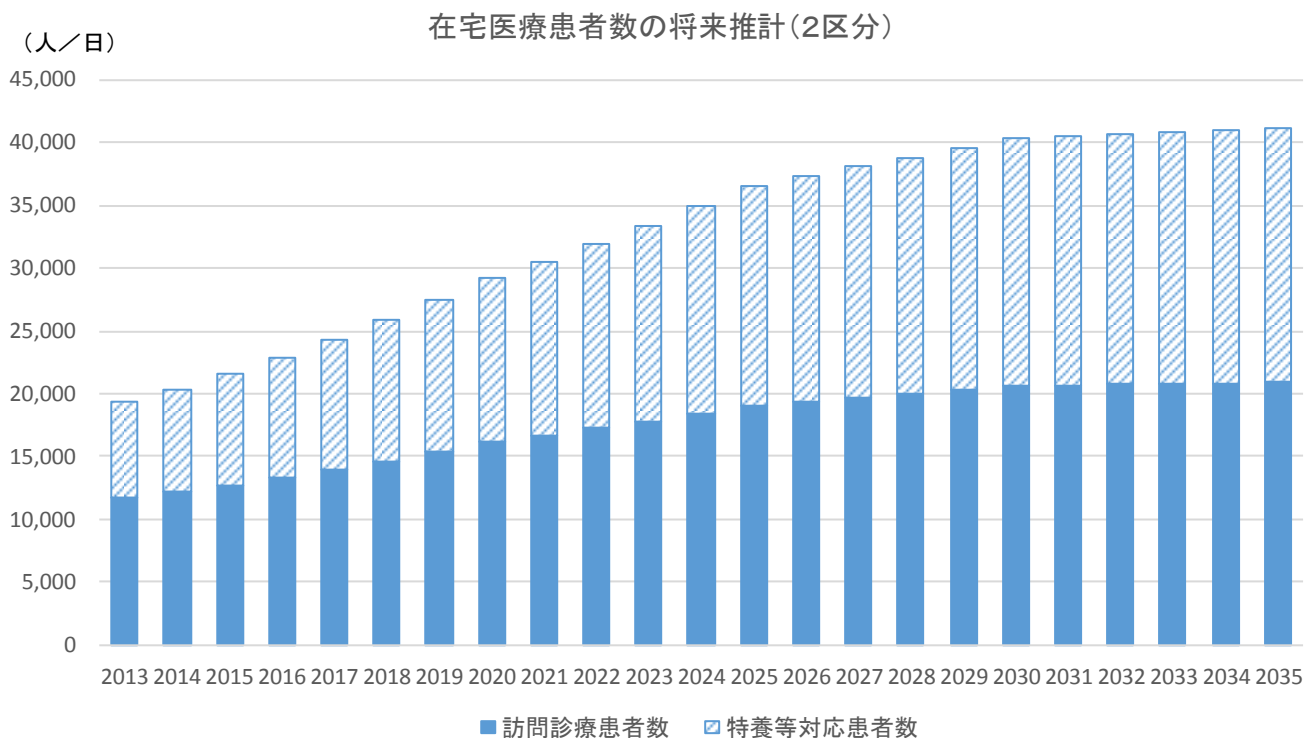
（計算方法の例）

$$\text{札幌市における看護師の潜在者数} = \frac{\text{就業届出者数（23,141 人）}}{1 - \text{潜在率（29.6\%）}} \times \text{潜在率（29.6\%）}$$

(2) 札幌市における将来的な在宅医療の需要予測

①在宅医療の患者数推計

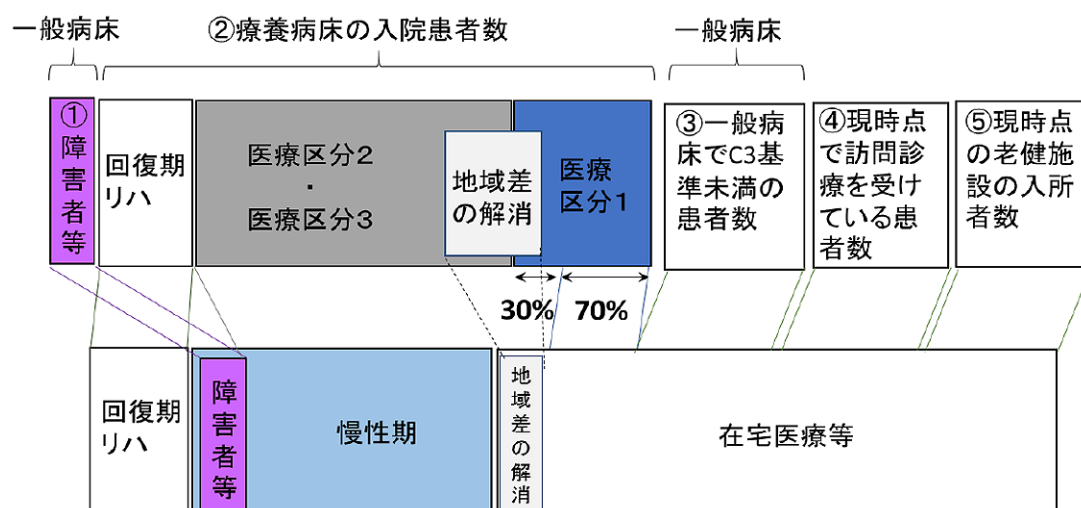
- ・札幌市における在宅医療の患者数を推計するにあたって、北海道総合保険医療協議会地域医療専門員会（平成 28 年 2 月 12 日開催）の資料で示された、2013 年（平成 25 年）の札幌医療圏における在宅医療患者数をもとに札幌市の患者数を算出。その後の推移を、75 歳以上人口の将来推計の伸び率をベースに算出した。（平成 26 年患者調査では、在宅医療の利用者は 75 歳以上が 86.0%である）
- ・75 歳以上人口の伸び率に加えて、今後の在宅医療の受入体制強化や政策的な推進・普及啓発等による増加分を上乗せして推計した。（北海道総合保険医療協議会地域医療専門員会資料の 2015 年と 2025 年の推計値に合わせるように設定）
- ・訪問診療患者数と特養等対応患者数の増加割合については、訪問診療：特養等＝1：2 と設定。
- ・推計の結果、2025 年の在宅医療患者総数は 36,586 人（訪問診療患者数 19,127 人、特養等対応患者数 17,459 人）、2035 年の在宅医療患者総数は 41,230 人（訪問診療患者数 20,908 人、特養等対応患者数 20,321 人）となった。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
訪問診療患者数	11,667	12,126	12,679	13,295	13,947	14,635	15,364	16,134	16,681	17,252	17,850	18,474	19,127	19,414	19,707	20,006	20,311	20,623	20,680	20,736	20,793	20,851	20,908
特養等対応患者数	7,739	8,246	8,889	9,623	10,406	11,242	12,133	13,084	13,881	14,716	15,589	16,503	17,459	17,908	18,366	18,833	19,310	19,795	19,900	20,005	20,110	20,215	20,321
在宅医療患者総数	19,406	20,372	21,569	22,919	24,353	25,877	27,497	29,218	30,562	31,968	33,439	34,977	36,586	37,322	38,073	38,839	39,621	40,418	40,579	40,741	40,903	41,066	41,230

- ・在宅医療患者総数は、「訪問診療を受けている患者」「介護老人保健施設の入所者」「一般病床で医療資源投入量 175 点未満の患者数」「療養病床入院患者のうち、医療区分 1 の 70%」が含まれた推計値となっている。このうち、前ページの推計では「特養等対応患者数＝介護老人保健施設の入所者」と「訪問診療患者数＝それ以外の患者数」に分けて推計している。

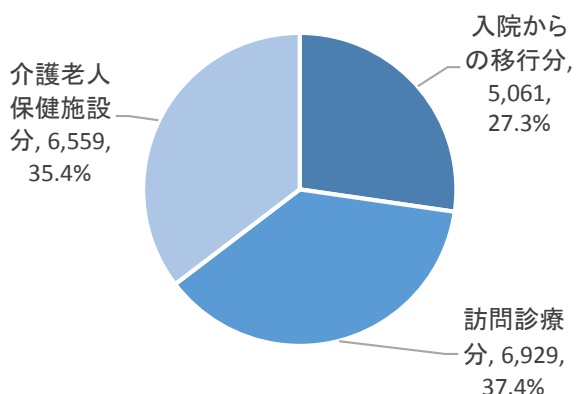
＜慢性期機能及び在宅医療等の医療需要のイメージ＞



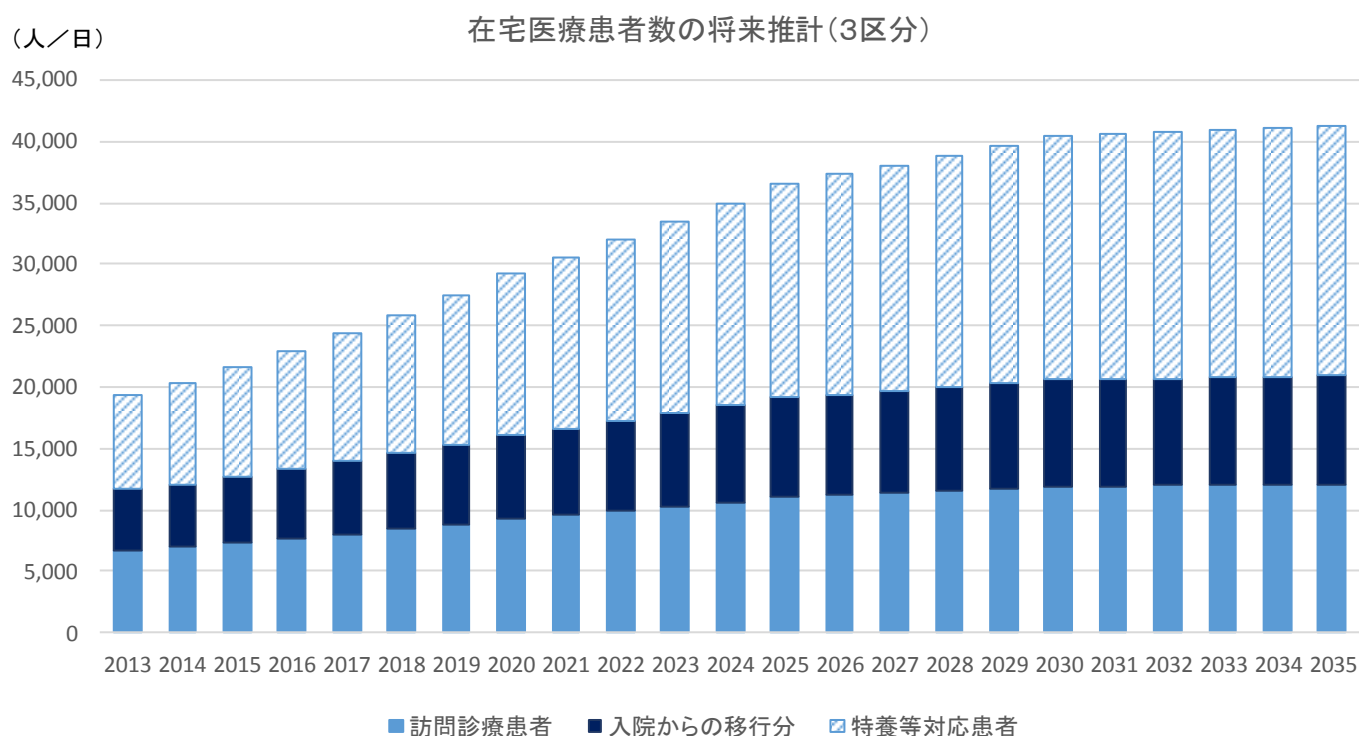
資料：北海道総合保険医療協議会地域医療専門員会（平成 28 年 2 月 12 日開催）の資料

- ・「訪問診療患者数＝それ以外の患者数」の中で「訪問診療を受けている患者」数がどの程度の割合なのかを推計するために、熊本県健康福祉部の資料「在宅医療等で対応することになる患者数の内訳とその対応（方向性）について（平成 28 年 3 月 17 日）」を用いる。
- ・熊本県の推計では、2013 年の在宅医療患者数の内訳として「入院からの移行分」が 27.3%、「訪問診療分」が 37.4%、「介護老人保健施設分」が 35.4%となっている。
※「入院からの移行分」は、「一般病床で医療資源投入量 175 点未満の患者数」「療養病床入院患者のうち、医療区分 1 の 70%」が含まれるという考え方。

2013年の熊本県の推計値



- ・札幌市における「訪問診療分」と「入院からの移行分」が熊本県の推計値と同じ割合だと仮定すると、2013 年の「訪問診療患者等」11,667 人の内訳が、「訪問診療分」6,742 人、「入院からの移行分」4,925 人となる。
- ・この割合が継続すると仮定した場合の、「訪問診療分」「入院からの移行分」「特養等対応患者数」の将来推計は下表のようになる。
- ・「訪問診療分」の患者数は、2025 年で 11,054 人、2035 年で 12,083 人となっている。ただし、「入院からの移行分」の中から一定数が自宅で介護を行う「訪問診療分」に移行し、この推計結果よりも「訪問診療分」が増えることも予想される。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
訪問診療患者	6,742	7,008	7,327	7,683	8,060	8,458	8,879	9,324	9,640	9,970	10,315	10,676	11,054	11,219	11,389	11,562	11,738	11,918	11,951	11,984	12,017	12,050	12,083
入院からの移行分	4,925	5,119	5,352	5,612	5,887	6,178	6,485	6,810	7,041	7,282	7,534	7,798	8,074	8,195	8,318	8,445	8,573	8,705	8,729	8,753	8,777	8,801	8,826
特養等対応患者	7,739	8,246	8,889	9,623	10,406	11,242	12,133	13,084	13,881	14,716	15,589	16,503	17,459	17,908	18,366	18,833	19,310	19,795	19,900	20,005	20,110	20,215	20,321
在宅医療患者総数	19,406	20,372	21,569	22,919	24,353	25,877	27,497	29,218	30,562	31,968	33,439	34,977	36,586	37,322	38,073	38,839	39,621	40,418	40,579	40,741	40,903	41,066	41,230

②在宅医療に必要な医療機関・医師数の推計

【病院・診療所の割合】

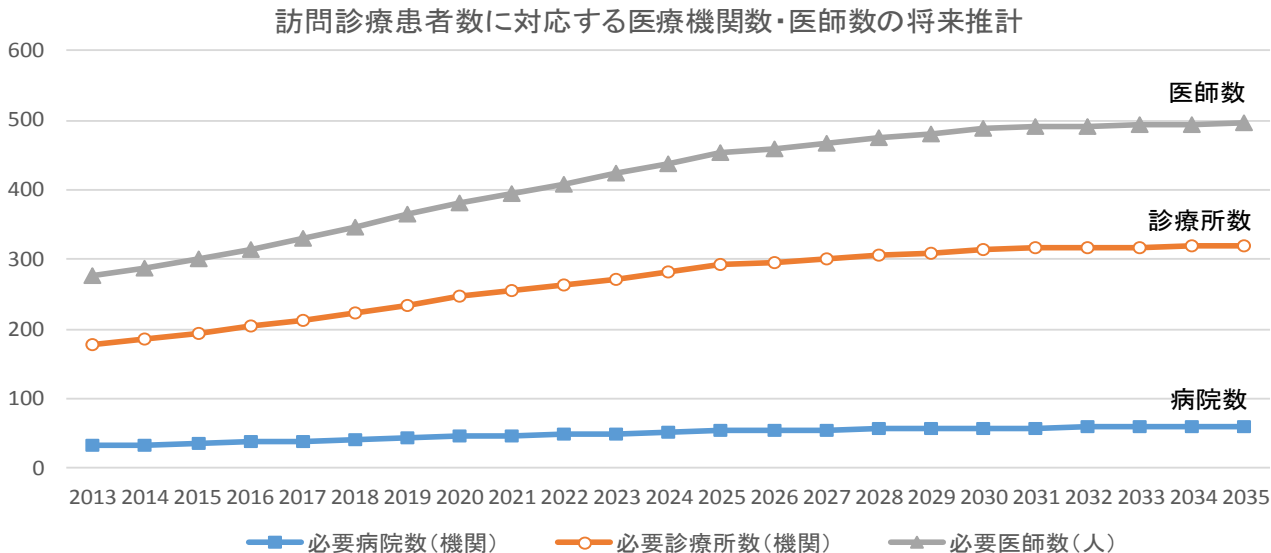
- 札幌市内の医療機関数（精神科病院を除く病院数・診療所数）の割合と、札幌市医師会が実施したアンケート調査の結果から出た医療機関別の訪問診療実施割合から、訪問診療の受入割合を推計した。
 - 医療機関の割合：病院 12.0%、診療所 88.0%
 - 訪問診療の実施割合：病院 20.5%、診療所 23.9%
 - 受入割合の推計結果：病院 10.5%、診療所 89.5%

【1 機関当たりの受入患者数】

- 1 医療機関あたりの受入患者数は、平成 20 年度に北海道総合保健医療協議会が実施したアンケート調査結果の数値を基準に推計。
 - 病院の受入患者数は、一般病院（19.6 人/日）が全体の 9 割、在宅療養支援病院（一般病院の 2 倍となる 39.2 人/日）が全体の 1 割と想定し、21.6 人/日で推計。
 - 診療所の受入患者数は、アンケート調査結果の 33.9 人/日として推計。
- 推計の結果、必要な病院数は 2025 年で 53.7 機関・2035 年で 58.7 機関、診療所数は 2025 年で 291.9 機関・2035 年で 319.1 機関となった。

【医師数】

- 必要医師数は、病院で 1 医療機関あたり 3 人、診療所で 1 医療機関あたり 1 人と推計。2025 年で 453.0 人、2035 年で 495.2 人となった。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
必要病院数	32.8	34.0	35.6	37.3	39.2	41.1	43.1	45.3	46.8	48.4	50.1	51.9	53.7	54.5	55.3	56.2	57.0	57.9	58.1	58.2	58.4	58.5	58.7
必要診療所数	178.1	185.1	193.5	202.9	212.9	223.4	234.5	246.2	254.6	263.3	272.4	282.0	291.9	296.3	300.8	305.3	310.0	314.7	315.6	316.5	317.3	318.2	319.1
必要医師数	276.3	287.2	300.3	314.9	330.3	346.6	363.9	382.1	395.1	408.6	422.7	437.5	453.0	459.8	466.7	473.8	481.0	488.4	489.8	491.1	492.5	493.8	495.2

【区別に見た将来必要な医療機関数・医師数】

- ・将来人口推計、および、区別の医療機関数の分布割合に従って、各区に必要な病院数・診療所数を推計。その医療機関数に応じた医師数を推計した。

■病院数（精神科病院を除く）

	2015	2020	2025	2030	2035
中央区	7.7	10.2	12.6	14.0	14.7
北区	5.2	6.6	7.9	8.5	8.6
東区	5.2	6.5	7.7	8.2	8.2
白石区	3.6	4.5	5.3	5.7	5.7
厚別区	2.0	2.4	2.8	3.0	2.9
豊平区	3.1	3.9	4.6	4.9	4.9
清田区	1.0	1.3	1.5	1.6	1.7
南区	1.9	2.3	2.6	2.6	2.5
西区	4.3	5.5	6.4	6.9	6.9
手稲区	1.6	2.0	2.4	2.5	2.5
計	35.6	45.3	53.7	57.9	58.7

■診療所数

	2015	2020	2025	2030	2035
中央区	55.4	73.0	89.4	99.4	103.8
北区	34.4	43.7	51.6	55.5	56.1
東区	24.7	30.9	36.1	38.3	38.3
白石区	14.3	17.9	21.0	22.4	22.4
厚別区	7.3	9.0	10.3	10.8	10.6
豊平区	19.2	24.1	28.1	29.9	30.0
清田区	4.6	5.7	6.7	7.2	7.2
南区	7.6	9.2	10.3	10.4	9.9
西区	18.9	23.8	27.9	29.7	29.8
手稲区	7.2	9.0	10.5	11.0	10.9
計	193.5	246.2	291.9	314.7	319.1

■医師数

	2015	2020	2025	2030	2035
中央区	78.6	103.7	127.2	141.6	148.0
北区	50.0	63.6	75.3	81.1	82.0
東区	40.2	50.5	59.0	62.9	63.0
白石区	25.0	31.4	36.8	39.3	39.5
厚別区	13.1	16.3	18.8	19.6	19.3
豊平区	28.4	35.7	41.8	44.5	44.6
清田区	7.6	9.6	11.3	12.1	12.2
南区	13.3	16.0	18.0	18.3	17.5
西区	31.9	40.2	47.2	50.4	50.5
手稲区	12.1	15.1	17.6	18.6	18.4
計	300.3	382.1	453.0	488.4	495.2

③在宅医療に必要な歯科診療所数の推計

【訪問歯科診療の患者数推計】

- ・「平成 26（2014）年医療施設（静態・動態）調査」から、訪問診療を受けている患者数と、訪問歯科診療を受けている患者数の割合を計算する。なお、訪問歯科衛生指導、居宅療養管理指導、介護予防居宅療養管理指導の「居宅」「施設」の割合は、「訪問診療（居宅）」と「訪問診療（施設）」の割合に準じるものと仮定する。

■訪問診療（病院＋診療所）の実施件数（患者数）：1,072,285（件）

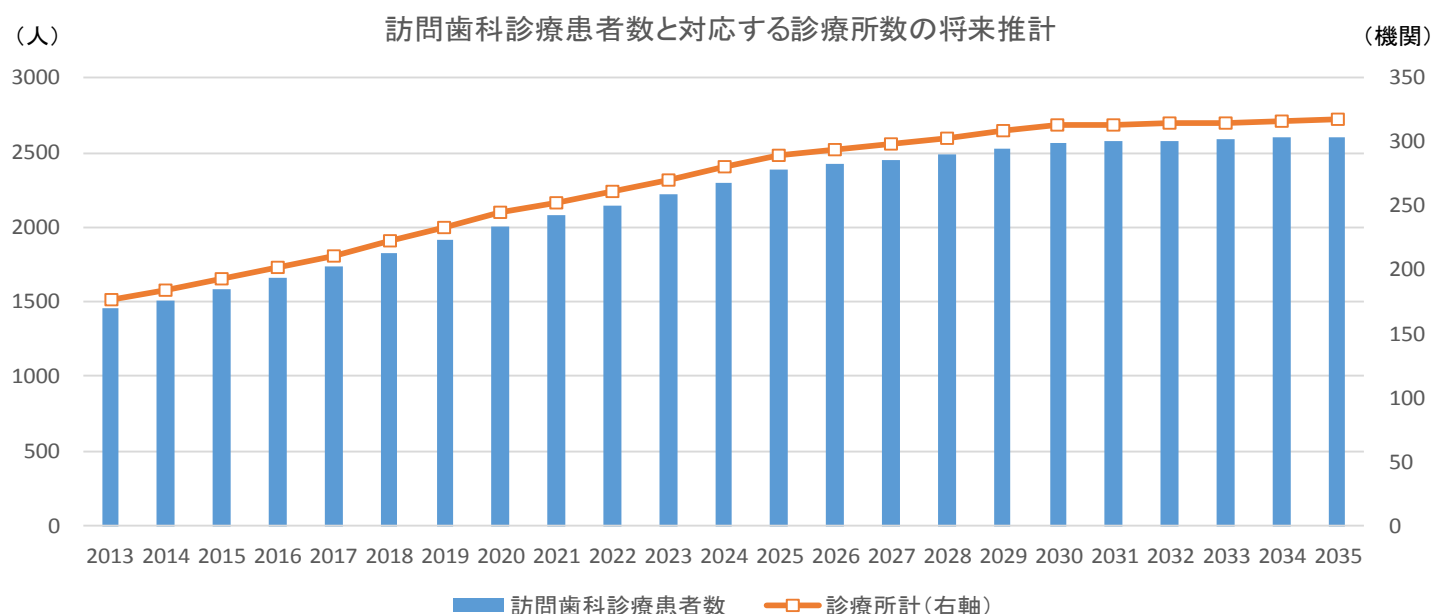
■訪問歯科診療（居宅）、訪問歯科衛生指導、居宅療養管理指導、介護予防居宅療養管理指導実施件数（患者数）：231,101（件）

→訪問診療患者数に占める訪問歯科診療患者数の割合：21.6%

- ・①で推計した訪問診療患者数に対して、21.6%が訪問歯科診療（居宅）を受診するとして患者数を推計すると、2025 年の患者数は 2,382 人、2035 年の患者数は 2,604 人となる。

【訪問歯科診療を実施する診療所数の推計】

- ・本調査において実施した歯科診療所へのアンケート調査によると、訪問歯科診療を実施している歯科診療所は、医療法人が 36 件、個人が 101 件、歯科医師会が 8 件となっている。将来の診療所数推計にあたっては、この割合は変化しないと仮定している。
- ・「平成 26（2014）年医療施設（静態・動態）調査」によると、1 施設当たりの患者数は、医療法人で 22.0 人、個人で 6.4 人、その他法人で 24.2 人となっている。
- ・訪問歯科診療の患者数に対応する診療所の数を、医療法人・個人・その他法人に分けて推計すると、2025 年で医療法人 26.9 機関、個人 257.7 機関、その他法人 5.4 機関、合計 290.1 機関。2035 年では、医療法人 29.4 機関、個人 281.8 機関、その他法人 5.9 機関、合計 317.1 機関となる。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
訪問歯科診療患者数	1453.1	1510.3	1579.2	1656.0	1737.1	1822.8	1913.6	2009.5	2077.6	2148.8	2223.2	2301.0	2382.3	2418.0	2454.5	2491.8	2529.8	2568.6	2575.6	2582.7	2589.8	2597.0	2604.1
診療所計	177.0	183.9	192.3	201.7	211.5	222.0	233.0	244.7	253.0	261.7	270.7	280.2	290.1	294.5	298.9	303.4	308.1	312.8	313.7	314.5	315.4	316.3	317.1
医療法人	16.4	17.1	17.9	18.7	19.6	20.6	21.6	22.7	23.5	24.3	25.1	26.0	26.9	27.3	27.8	28.2	28.6	29.0	29.1	29.2	29.3	29.4	29.4
個人	157.2	163.4	170.9	179.2	187.9	197.2	207.0	217.4	224.8	232.5	240.5	248.9	257.7	261.6	265.6	269.6	273.7	277.9	278.7	279.4	280.2	281.0	281.8
その他法人	3.3	3.4	3.6	3.8	4.0	4.2	4.4	4.6	4.7	4.9	5.1	5.2	5.4	5.5	5.6	5.7	5.8	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9

【区別に見た将来必要な歯科診療所数】

- ・将来人口推計、および、区別の歯科診療所の分布割合に従って、各区に必要な診療所数を推計。

	2015	2020	2025	2030	2035
中央区	48.5	64.0	78.5	87.4	91.4
北区	33.9	43.1	51.0	55.0	55.6
東区	27.0	33.9	39.6	42.2	42.2
白石区	17.3	21.8	25.6	27.3	27.4
厚別区	5.7	7.1	8.2	8.6	8.4
豊平区	20.0	25.1	29.4	31.3	31.4
清田区	5.0	6.3	7.4	7.9	8.0
南区	7.0	8.5	9.5	9.7	9.2
西区	20.4	25.7	30.1	32.1	32.2
手稲区	7.4	9.3	10.8	11.4	11.3
計	192.3	244.7	290.1	312.8	317.1

④在宅医療に必要な薬局数の推計

【本調査において実施した薬局へのアンケート調査】

- ・薬局へのアンケート調査によると、在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を実施している薬局は181件（42.5%）。
- ・算定患者数（実人数）の1か月平均人数は合計2,540人。薬局1件当たりの平均人数は15.0人。ただし、これは施設入所者等への管理指導も含んだ人数と考えられる。
- ・個人宅への訪問回数は、1か月平均で合計1,259.8回。薬局1件当たりの平均回数は8.4回。ただし、個人宅への訪問指導を行っている患者数は不明。

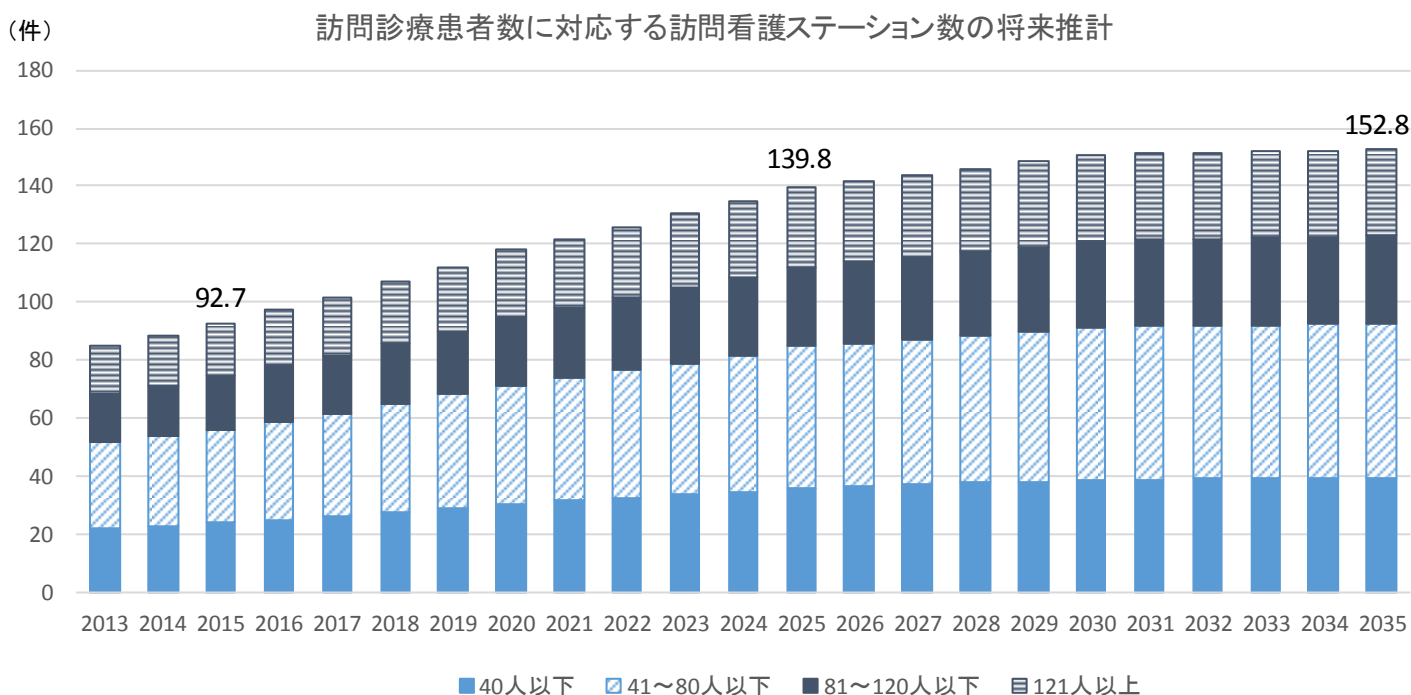
【在宅医療に関するアンケート調査結果（平成21年3月）】

- ・薬局に対するアンケート調査の中で、在宅医療の訪問場所が「自宅」と回答した薬局が212件、合計患者数は1,202人であった。自宅訪問に関しては、薬局1件当たりの平均患者数は5.7人となっている。
- ・在宅医療の訪問場所で「グループホーム」「老人ホーム」と回答した薬局数は91件で、患者数は1,424人となっている。薬局1件当たりの平均患者数は15.6人。

※訪問診療患者数における、在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導等を実施している患者の割合が算定するデータがないため、将来的な必要薬局数の推計ができない。

⑤在宅医療に必要な訪問看護ステーション数の推計

- ①で推計した訪問診療患者数に対応するために必要な訪問介護ステーション数を推計。
- 北海道看護協会が実施した訪問看護ステーションの調査結果によると、訪問看護ステーション1か所当たりの平均利用者数は79.0人。訪問看護ステーションの利用者数は、施設によるバラツキが大きいため、訪問看護ステーションを利用者数で4つの区分（40人以下、41～80人以下、81～120人以下、121人以上）に分け、区分ごとに必要となる施設数を推計した。なお、4つの区分の割合は変化しないと仮定している。
- 訪問診療患者数の推計結果から、今後必要となる訪問看護ステーション数を利用者数の区分ごとに推計した結果、2025年では139.8か所、2035年では152.8か所となっている。
- 2015年に実施した北海道看護協会の調査対象となった訪問看護ステーションは163か所であり、これは推計した施設数をすでに上回っている。推計では、無回答の事業所分の利用者数を含んでいるが、無回答の事業者は利用者数が少ない（40人以下）事が想定されるため、実際に必要な事業所数はこの推計よりも多くなると予想される。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
合計数	85.3	88.6	92.7	97.2	101.9	107.0	112.3	117.9	121.9	126.1	130.4	135.0	139.8	141.9	144.0	146.2	148.4	150.7	151.1	151.5	152.0	152.4	152.8
40人以下	22.0	22.8	23.9	25.0	26.3	27.5	28.9	30.4	31.4	32.5	33.6	34.8	36.0	36.5	37.1	37.7	38.2	38.8	38.9	39.0	39.1	39.2	39.4
41～80人以下	29.7	30.9	32.3	33.9	35.5	37.3	39.1	41.1	42.5	43.9	45.5	47.1	48.7	49.4	50.2	51.0	51.7	52.5	52.7	52.8	53.0	53.1	53.2
81～120人以下	16.8	17.5	18.3	19.1	20.1	21.1	22.1	23.2	24.0	24.8	25.7	26.6	27.5	27.9	28.4	28.8	29.2	29.7	29.8	29.8	29.9	30.0	30.1
121人以上	16.8	17.5	18.3	19.1	20.1	21.1	22.1	23.2	24.0	24.8	25.7	26.6	27.5	27.9	28.4	28.8	29.2	29.7	29.8	29.8	29.9	30.0	30.1